

14. 5-171



1200501211421

14.5

171



始



秘

所謂「紅軍問題」

(ソウエート中國と赤軍)

秘

滿鐵調査課

(滿鐵調査資料第四百四編)

14.5
171



80W08984

は し が き

一、赤軍の長沙占領を機會として、ソウエート中國及び赤軍に關する記事が「プロレタリア科學」戦旗」の如き共產派雜誌は勿論の事「改造」中央公論「滿蒙」ソウエート聯邦事情等に登載された。それ以前にも「インタナショナル」七月號には中國共產黨のソウエート區域第一回代表會議の召集を中心として、中國革命の嵐に就いて、中國共產黨からの報告を基礎とした「ブラウダ」コムニステイチェスキー・インチエルナチヨナアレ」の論文を譯載してある。然しその何れもが中國共產黨の提供してゐる資料のみに依據したものであり、それ以上の何物も加はつてはゐない。否、加ふる方法のないのが現状である。従つて赤軍に關する調査又は論文を草し得ると否とは、只中國共產黨の秘密出版物を手に入れ得るか否かによりて決せられる。編者は、その全部的資料を、主觀は一切これを抜きにして研究者の前にさらけ出さうとするものである。

二、反對派の資料としては、只僅かに陳獨秀の論文一つであることを遺憾とする。それも中國共產黨員であつたが故に赤軍及びソウエート區域の内情を知る機會があつたのであつて、それも實地に赤軍と行を共にした經驗がなく、依然書齋裡の産物である。然し凡百の反對論、(日本の言論機關ももとよりその中に在る)は完全に陳獨秀によつて代表され得るものであり、而かも陳獨秀のそれは最も尖端的なものであることに大なる價值が存在する。實に吾等の眼前に現はれた赤軍及びソウエートは、一九二七年十二月の廣東暴動と、そして今度の長沙占領だけであつて、而かもその焼けあと、虐殺のあとの描寫だけである。

三、中國赤軍なるものは土匪であるとかないとか、一種の地方的軍閥であるとかないとか、農民闘争の産物であるとかないとか、共産黨と赤軍の聯繫があるとかないとか、赤軍同志の聯絡があるとかないとか、ソウエート區域が存在するとかしないとか、土地革命が徹底してゐるとかゝるないとか、又は革命的風潮が高揚してゐるとかゝるないとかなどから、赤軍の軍事的威力の數的算定などまで、その悉くが水かけ論であり、そしてそれは結局インテリの「新支那論」となるより外はない。所謂「紅軍」問題に結論を與へ得るものは、恐らくは「時」のみであらう群盲象を評するの類は最早や吾々には必要がない。

四、然し「紅軍」は確かに現下の問題ではある。その擴大發展が、各論者の一致したる原因と認められる蔣馮戰爭による後方不備の爲であらうとも、外國砲艦の出勤を煩はしただけでも大きい問題だ。往年長髮賊の長沙占領は揚子江霸權の基礎的第一步であつた。然し少佐ゴルドンに率ゐられる外國砲艦は當時上海に在つただけである。今はその數倍に餘る艦艇が長沙にまで游弋してゐる。斯くて問題は長髮賊によつて代表される凡ゆる過去の革命的勢力と、赤軍との内容的差違如何に懸る。所謂「紅軍」問題の重要性が茲に有るのだ。

五、編者は、世の識者の虚心坦懷なる見透しの材料として、そのまゝに共産黨の資料を提供するを良策と思考する。そして問ふに落ちず語るに落つるを期待するものである。

六、編者、勞務課太宰松三郎

滿鐵調査課

所謂「紅軍問題」

目次

第一編 中國赤軍の發展	一
第一 廣東暴動の回顧	一
第二 中國赤軍の發展	一〇
一、赤軍發展の概況	一〇
二、赤軍の戰略	一五
三、朱毛赤軍の工作	一八
第三 軍閥崩潰の基點	二二
一、兵變の革命的意義	二二
二、模範的兵變	二三
三、全國的兵變の風潮	二七
四、兵士運動に就いて	三七
目次	一

第四 所謂「紅軍」問題……………三九

一、赤軍とは何ぞや……………三九

二、陳獨秀の所謂「紅軍」問題……………四二

三、陳獨秀の見解を駁す……………六一

四、トロツキーへの回答……………六五

第二編 ソウエート政權と赤軍……………六八

第一 ソウエート中國の發生……………六八

一、革命的政權樹立の問題……………六八

二、何故中國にはソウエートがあるか……………七〇

三、如何にソウエートを建設すべきか……………七五

第二 ソウエート中國の諸問題……………八三

一、ソウエート區域と反帝國主義……………八三

二、ソウエート區域の經濟問題……………八五

三、ソウエート政權と土地革命……………八九

四、ソウエート區域に於ける雇傭農の問題……………九四

五、ソウエート區域に於ける農婦工作……………九七

第三 中國赤軍の問題……………一〇一

一、ソウエート政權と赤軍……………一〇一

二、赤軍論……………一〇三

第四 ソウエート區域と赤軍の概況……………一一〇

一、その全般的形勢……………一一〇

二、赤軍の全般的概況……………一一六

三、福建省西部ソウエートの情況……………一二二

イ、その過去と將來……………一二二

ロ、ソウエート政府統治下に於ける大衆の生活……………一二七

ハ、土地革命の概況……………一三二

四、江西省西部に於けるソウエート區域……………一三八

イ、その闘争歴史……………一三八

ロ、土地問題……………一四〇

ハ、大衆の組織と武装の問題……………一四一

二、經濟問題……………一四二

ホ、選 舉……………一四三

ヘ、大衆闘争……………一四四

五、江西省西南部赤化の情況……………一四六

イ、組織と闘争……………一四六

ロ、赤色政權の樹立……………一四九

ハ、土地革命……………一五一

ニ、赤軍の發展……………一五二

ホ、反動派武装團體の動搖……………一五五

六、湖南、湖北、江西の境界地方に於ける赤化區域……………一五六

七、湖北、河南境界附近の赤軍……………一六〇

八、廣東省海陸豐の狀況……………一六四

九、廣西省ソウエートの狀況……………一六八

イ、廣西省に於ける客觀的條件……………一六八

ロ、大衆闘争の經過……………一六九

十、安徽省六安縣第六區のソウエート條例(附反革命打倒條例)……………一七二

第三編 全國的ソウエート統一政權への展望……………一七八

第一 ソウエート區域代表大會……………一七八

一、召集の經過……………一七八

イ、中國共產黨より全國總工會へ……………一七八

ロ、全國總工會より中國共產黨へ……………一八一

ハ、ソウエート區域代表大會召集宣言……………一八二

ニ、上海五一準備代表會の宣言……………一八四

二、大會の結果……………一八六

イ、大會宣言……………一八六

ロ、全國ソウエート政府の政綱……………一九四

ハ、土地暫行法……………一九六

ニ、勞働保護法……………二〇〇

第二 重要省區の占領を目標として……………二〇五

一、重要省區占領の必要……………二〇五

二、共產黨の任務とその政策……………二〇八

三、ソウエート區域に於ける共產黨の任務……………二一三

四、岳州事變に對する認識……………二一七

五、長沙の占領と武装暴動の強化……………二二一

イ、長沙の慘劇……………二二一

ロ、暴動政策の強化……………二二四

1 武漢に於ける暴動政策……………二二四

2 赤軍の攻勢とプロレタリアの指導……………二二六

3 反帝國主義戦争……………二二八

4 兵士暴動の問題……………二三〇

ハ、中國互濟會の赤軍軍人招募……………二三一

第三 勞農兵ソウエート全國大會……………二三四

一、第一次勞農兵貧民全國大會召集宣言……………二三四

二、中央準備委員會の工作……………二四〇

イ、臨時常務委員會の成立……………二四〇

ロ、常務委員會の工作……………二四二

ハ、中央準備委員會工作計劃……………二四五

二、第三次常務會議……………二四七

ホ、各革命團體の参加を要望す……………二四八

ヘ、中央準備委員會の流會とその對策……………二五〇

ト、中央準備委員會全體會議……………二五二

三、各級準備委員會組織大綱……………二五四

四、準備工作の強化策……………二五八

イ、非ソウエート區域……………二五九

ロ、ソウエート區域……………二六二

五、ソウエート代表大會選舉……………二六五

イ、選舉原則……………二六五

ロ、選舉條例……………二七五

六、第一回ソヴェート代表大會に際して大衆に告ぐ……………二七九

所謂「紅軍問題」

第一編 中國赤軍の發展

第一 廣東暴動の回顧

(廣東暴動二週年紀念)

—布爾塞維克第二卷第十一號(一九二九・十二・五出版)所載—

共產黨宣言が公布されて七十九年、パリ・コムミュンの出現より五十六年、十月革命十週年記念祝賀の最中に於て、後進國たる東方の「老大」中國の領土内に於て共產黨の直接指導下に武装暴動によつて勞農兵會議(ソヴェート)政權が創設された。此の一事變は殖民地革命がソヴェート國を建設して社會主義革命に進み得ることを示すものである。「武装暴動」なる藝術は已に先進國の工人階級が善用したる武器であるのみならず、後進國に於ける勞農大衆の解放の爲の利劍となつたのである。「政權の奪取」といふ此の闘争も先進國に於けるプロレタリアの奮闘の目標たるのみならず、すでに殖民地半殖民地に於ける廣大なる勞農大衆の直接行動となつたのである。廣東暴動は中國のプロレタリアがすでに國際的革命運動の前衛となり、萬國のプロレタリア大衆の解放闘争を推進せんとする決心と

勇氣あることを明白に表示するものである。印度に於けるソウエート革命運動の高調は廣東暴動に有力に影響されてゐることが、明白ではないか。

廣東暴動は客觀的革命的形勢よりすれば革命的退却に際しての一戦ではあるけれども、中國の勞農兵がその武装的威力を以てして革命を維持し、且つこれをして一路進展せしめんとしたる英雄的企圖である。而かもこれを階級闘争の觀點よりすれば、それは革命的發展を深刻化し、そして勞農ソウエート革命の段階に一步を踏んだものと謂ふことが出来る。若し廣東暴動が果して勝利を得たとすれば、それは疑もなく、中國ブルジョア民主主義革命の最後の完成より、再轉してプロレタリア革命の正道に入つたであらう。廣東暴動と、その發展による階級闘争の前途觀は、若し中國革命が勝利を得たとすれば、それはそのままに中國の「十月」に連続したであらうことを、明白に斷言せざるを得ない。

八七會議以前の中國共產黨の機會主義的指導方針は、共產黨の獨立的政治的面目とその政治的主張とを、廣大なる大衆の面前にさらけ出すことが出来なかつた。廣東暴動は事實上共產黨の勞農兵の偉大なる指導力を表現して、勞農兵自身の解放の爲の政綱を提示し、勞農兵及び貧民自身の政權を樹立したものである。故を以て廣東暴動は、常に全中國の勞農兵大衆をして、共產黨こそ中國革命の唯一の指導者であることを認識せしめたばかりでなく、最も反動的な、そして帝國主義的な（順天時報の如き）新聞も又は研究系（晨報の如き）の新聞も「共產黨は主義があり、政綱があり、そして大衆を有する政黨である」こと及び「共產黨はすでに中國の政治的舞臺に於て獨立の勢力

である」ことを公然發表せざるを得なくなり、而て益々「主義なく、大衆なき」國民黨と奉系軍閥は「赤禍の來るは遠くないであらう」ことを憂へたものである。

廣東ソウエート政府はその成立と共に直ちに勞農兵解放の政綱を頒布した。その重要なものを挙げれば次の如きものがある。

一、工人に關するもの

- 1 工人が生産を監督する、2 八時間労働制、3 工場工人と手工工人とは一律に工資を増加す、4 國家が失業を救済し、労働保險を設ける、5 特別に女工及び幼年工を保護す、6 中華全國總工會は中國工人階級の唯一の大衆組織であることを承認す、7 省港罷工委員會の一切の權利を恢復す、8 米は工人の管理下に置く

二、農民に關するもの

- 1 地主の土地はすべてこれを沒收して、土地は農民に歸屬せしむ、2 あらゆる租稅契約を廢除す、3 豪紳地主を打倒し、農村ソウエート政權を樹立する、4 海陸豐ソウエートの勝利を保障する、

三、兵士に關するもの

- 1 兵士の月給は大洋二十元とす、2 兵士にも土地と工作とを給す、

四、貧民に關するもの

- 1 下層大衆にも出版、言論、集會、結社、罷工及び身體、居住の完全なる自由を有せしむ、2 資本家の家屋

を沒收して貧民の住居に充つ、3 質屋の物品を沒收し、無代價にて貧民に還す、4 すべての税金及び借金を廢除す

五、對外的のものも簡單明瞭なる二ヶ條がある

1 打倒帝國主義、2 萬國のプロレタリアとソウエート聯邦との協合、

これ等の政綱は疑もなく中國に於ける勞農兵貧民の切迫せる要求であつて、それ等は、勞農兵貧民大衆の腦裏に永久に活躍し、今や更に大なる威力の蓄積を爲しつゝ、やがてこれ等の政綱實現の爲に闘争するであらう。

廣州暴動はその五十幾時間の経過に於て吾々に貴重なる闘争經驗を與へてゐる。

第一 武装暴動は階級闘争の最高方式であるが、暴動前に必ず各種の大衆闘争の發展あつて、始めて武装闘争に進み得るものであること。

第二 廣東暴動は中國革命の柱石たる勞農兵が協力一致を開始した事實上の證明であつて、そしてそれが、反動派の聯合軍を打ち取り得ることを證明してゐる。

第三 大衆の英雄的な、熱烈な、闘争感情の前には敵の武装は容易に崩潰するものであると同時に、大衆の武装威力が反革命の武装威力を征服し得るものであること。

第四 被壓迫大衆は現存の舊國家機關を利用して彼等の目的を達することは不可能であるが、舊政權機關を徹底的に摧毀することが出来、且つ勞農の要求に合致した政治的組織を容易に造り得るものであること。

第五 ソウエート政權のみが中國勞農兵貧民大衆の唯一の政權形式であり、大衆自身の政權があれば創造力と活動力は最も偉大なるものとなること。

第六 ソウエート政權成立後は直ちに正式赤軍の組織に着手すべきこと。

廣東暴動失敗は將來勞農兵の革命的大暴動を勝利へと導く爲には如何に準備し、且つ進行せしむべきかを教へた。

第一 暴動前に在つては、如何にしてよく忍耐して細心に、そして正確に各種の大衆闘争を發動すべきか、如何に經濟的闘争を政治的闘争に變化せしむべきか、各種の經濟的及び政治的闘争に於て充分に廣大なる工人大衆を發動し、以て「大衆發動工作の不充分」なる誤を免かれしむるには如何になすべきか、等

第二 農民大衆(特に近郊の農民)と都市の貧民(苦力、小賣、店員、學徒等)等に對する工作を強化し彼等をして積極的に暴動に参加せしめ、「暴動の社會的基礎を廣泛」ならしむるには如何にすべきか。

第三 暴動以前に於ても又暴動時に於ても、如何にせば、正確にそして巧に敵の武装を分裂せしめ、これを瓦解せしむるか、又はこれを革命側に引きつり込むことが出来て、「帝國主義及び軍閥の兵隊、民團、警察が統治階級の欺瞞によつて革命を壓迫する」ことの危険から免かれることが出来るか。

第四 暴動前又は暴動時には、如何に總罷工を準備し且つ實行して、敵をして「附近の都市より兵を出動して暴動を壓迫する」可能性ならしむべきか。

第五 暴動前及び暴動時に於ては、各地の(少くも各重要區域の)革命的勢力と如何に聯絡し、且つこれを配合せ

しむべきか。そして「暴動を孤立に陥らしむる」こと及び「革命的勢力が未だ暴動の意義を知らず、又これに参加」せざる事の不都合を如何に免かれしむべきか。

第六 黨員の軍事化及び勞農の武裝工作に盡力して「市街戦に關する常識」を大衆に得させ「幹部をして武裝に關する知識を得」させ、「大砲や機關銃の使用法」を教え込む爲には如何に爲すべきか。

第七 暴動が開始された時には直ちに反革命的的主要機關及び指導者を消滅せしめ「反革命的領袖が逃走して反革命的勢力を盛り返して來ない様にする」爲には如何にすべきか。

第八 一旦暴動が開始されたならば迅速に、顧慮するところなく敵の主力を攻撃し「敵をして武裝を整へて革命的勢力を攻撃する隙なからしむ」る爲には如何に爲すべきか。

第九 暴動前及び暴動時に於て、クラブ組織、軍事的組織及び軍事的技術工作を如何に爲すべきか、それは「兵士が一日中飯に有りつかなくなかつたり」「赤軍司令部には小使錢にも事を缺いたり」「探偵隊が最後まで組織方面に成功をもたらさなかつたり」「或者は鐵砲を持ち逃げしても司令部では少しもそれを知らずに居たり」する等々の不都合から免かれる爲である。

第十 「平時に於て國民黨工會に屬する大衆に對する工作を輕視してゐる爲に、右翼幹部の欺瞞によりてソウエート政府反對」といふ現象が起ることを防ぐ爲には、そしてその爲に國民黨の影響下に在る工會から大衆を奪取する爲には如何に工作すべきか。

斯の如く、廣東暴動の教訓を細心に觀察することによりて始めて、廣東暴動は近き將來に於ける勞農兵暴動の豫行演習たり得るのである。

太平洋上に瀰漫する帝國主義的戰爭は東支鐵道に集中してソウエート聯邦進撃となり、中國の大衆にとつては中國分割の危険となりて眼前に現はれてゐる。只中國には勞農兵大衆が廣東暴動の精神を繼續し、武裝暴動の手段を以て、帝國主義の中國に於ける統治を根本的に覆し、帝國主義の指揮下に在る買辦、地主、資産階級のブロックたる國民黨軍閥の政權を打倒して、勞農兵のソウエート政府を建設することのみが唯一の正確な手段である。

今年の廣東暴動記念に際しては、廣大なる民衆は疑もなく反軍閥戰爭の特に重要な所以を感得したに違ひない。廣東暴動の出現は、當時に於ける國民黨軍閥の戰爭に對する回答に外ならぬ。その後二ヶ年間國民黨軍閥の戰爭は益々複雑となり、形勢の強化を來してゐる。特に今年の如き全國的軍閥混戦があり、廣東より順直方面に至るまで一ヶ所として此の戰爭禍中に巻き込まれないところはないのである。戰爭、戒嚴、人夫徵發、船舶の徵發、増税、公債の發行、紙幣の下落、米價の高騰等は悉く軍閥戰爭が大衆に與へたる苦痛である。その故に廣東暴動の精神は、今年はその實際的運用は反軍閥戰爭たるべく、吾々が今年暴動記念日に舉行すべき全國的反軍閥戰爭週間も亦この故に外ならぬ。革命的大衆を用ゐて、國民黨軍閥の戰爭に反對する事もとより必要である。

廣東暴動は、全中國はもとより全世界のすべての反動派を恐れしめた。改組派の領袖汪精衛、陳公博、張發奎等は暴動を壓迫して、三日間に(十二月十三日午前零時から十七日の朝まで)工人、貧民、婦女、學生、兵士等五千七

百餘人を屠殺し、第三黨の首領譚平山、鄧演達等は「廣東暴動は中國共產黨の超時代的政策である」とか、「殺人と放火だけの過激な行動である」など云ふ理由の下に帝國主義、國民黨軍閥が共產黨員及び革命的大衆を屠殺した事を讚美して「合法」であると云ふてゐる。此の暴動前には改組派も第三黨も「革命」といふ口頭禪を口にして彼等の反革命的陰謀をカムフラージュしてゐたのだが、暴動は彼等の假面を残りなく粉碎して、彼等の眞面目を大衆の前にさらけ出したのである。

社會民主黨（第二インター）の新聞紙は、此の偉大なる英雄的暴動を「少數暴徒の擾亂」だとか「過激分子の擾亂」だとか、又は「ロシヤが共產黨を使唆して國民黨統治を擾亂せんとしたもの」等の字句を以て片付けんとしたものだ。それはとりもなほさず「中國の歴史的空前の大事變」が歐米の工人が闘争に對する勇氣を興奮せしむることを恐れたが故であつて、代表（トーマ）などを派遣して中國に於て改良主義の宣傳をさせ、赤色の中國工人を黄色に變ぜんとし、國民黨の代表を第二インターの大會に出席せしめて社會民主主義又はファシズムと提携せしめ、中國の革命運動を巧妙に壓迫しそして緩和せんとしたのである。その主たる目的は、再び「廣東暴動」の二の舞をやらせない様にする事であつたが、然し中國の革命的大衆は、斯の如き、欺瞞政策はすつかり見抜き、斷然社會民主主義に反對して廣東暴動を繼續しこれを完成することを主要工作としてゐるのである。

トロツキストは廣東暴動が失敗した時に「中國革命はすでに死んだ」と云ふた。中國の日和見主義者は「盲動主義の最高表現である」と云ふたものである。彼等は、此の國際的にも又歴史的にも偉大なる意義を有する事變にして、

且つ幾萬の勞農大衆の鮮血によつて創造された事變を輕々に抹殺し去らうとするのである。彼等は、最近に於ては、その清算主義的觀點に立つて廣東暴動の意義を輕視し、又は敵視さへもしてゐるのである。中國勞農兵大衆は、廣東暴動の任務と工作を繼續努力して、トロツキスト及び日和見主義者を當然剷除せんとするのであらう。

ソウエートの大赤旗が廣東市に翻つたのは五十八時間に過ぎなかつたけれども、珠江より白河へ、黄河より長江へと常に各地に隠現し、福建、廣東、湖南、湖北、河南、安徽、江西の各省に現存するソウエート區域及び赤色バルチザンは、廣東ソウエートの爲に英雄的犠牲となつた勞農兵大衆の偉大なる化身に外ならぬのである。彼等が敵の爲に數次「包圍」されたり「大舉掃倒」をやられたけれども轟立して墜せざる、その主たる原因は、實に廣東暴動により得たる貴重なる體驗と、その偉大なる任務を完成せんとする努力とに在るのである。此等のソウエート區域及びバルチザン隊は新なる革命的高調を促進することに對し、又その到來に際して共に偉大なる意義と作用とを有するであらう。廣東暴動を記念すべき眞正なる工作は武装暴動を擴大してソウエート政權を樹立することを極力宣傳することで行なはねばならぬ。就中現在のソウエート區域及びバルチザン隊を鞏固にすること及びその擴大發展を宣傳且つ實行せねばならぬのだ。

吾々は偉大なる廣東暴動を記念するに當り、どうしても忘れてはならない事は、その爲に犠牲となつた七八千の戦士及びその領袖張太雷の事である。そして廣東の暴動工作を繼續するに際しては、蘇兆徴、彭湃、楊殷、諸同志及び帝國主義並びに國民黨各派軍閥の爲に屠殺されたり、監禁されたりした三四十萬に達する勞農革命の戦士を決

して忘却してはならぬ。而て吾々は大眾の奪取を強化して新なる革命的高潮の到來を促進し、革命的大衆の闘争行動を以てこれを實行し、白色テロルを消滅せしむることを以てこれに答へねばならぬ。それは吾々の爲に死んだ者の復仇を爲すことであり、廣東暴動の任務を完成することであるのだ。

廣東暴動の二週年記念日は應に吾々の戦闘力の大檢閲日でなければならぬ。吾人の此の二ヶ年間の工作を詳細檢閲すると共に、廣東暴動の闘争方法及びソウエート政府の政綱を普遍化し、大衆化し、廣大なる勞農兵大衆をソウエートの旗幟の下に團結せしめ、新なる革命的高潮の到來と共に大なる躍進を爲さねばならぬ。(慕石)

第二 中國赤軍の發展

一 赤軍發展の概況

—紅旗第七十二期(一九三〇・一・二九)所載—

「勞農革命軍は此の新なる革命的高潮に於ける重要成分を爲す」—六次大會政治決議

「各省に於ける自然發生的農民バルチザン戦争は……能く全國的勝利を目標とする民衆の總暴動の出發點たり得る。……然しそれは都市プロレタリアの革命的高潮と聯繫を保たねばならぬ」。

—コムメンテルン第九回擴大會議に於ける中國問題決議—

中國の政治的經濟的條件は、勞農革命軍即ち赤軍が革命的高潮の到來を促進する主要なる條件の一つであると決

定したことは已に事實に於て證明されてゐる。現在赤軍の全國的發展が革命的潮流と並進してゐることを明確に示してゐるばかりでなく、それは革命的局勢の開展を促進してゐるからである。

朱毛の率ゐる八千の武装勞農大衆の勇敢なる闘争分子は第四軍を編成して、長期間のバルチザン戦争を経過して、湖南、廣東、福建、江西の隣接境を縦横に驅馳し、此等諸省の幾多の匪軍(所謂政府軍の事—譯者)を撃滅し、福建西部に於ける八十萬の組織ある農民を發動し、此の中五千以上の勞農大衆を武装せしめ、江西南部及び東江の廣大なる民衆闘争をアヂリ、上杭、汀州を攻略し、梅縣を襲撃し、幾多の反動派將校を生擒にし、全國的にその政治的影響を擴大し、四省の農民大衆を援助しては、若干のソウエート政權を樹立し、土地の分配を實行したのであつた。

吾人は再び江西省に於ける赤軍を見やう。統治階級の打電するところに據ると、全省八十一縣の中殆んど一縣と雖も「共匪」に蹂躪されないところはないと云ふ。實に江西省の西部及び南部には第二・三・四團と第一・二の兩大隊があり、その外に、零都、寧都、興國、萬安、吉水、永豐、永安、崇仁等の十餘縣に於ける赤衛大隊(三千以上の銃器がある)があり、それ等が集中して赤軍第三軍を編成し、西南部に於ける三十餘萬の組織ある闘争農民大衆と共に、曾つて吉安、萬安、吉水、安福等の贛江沿岸の各重要都市を攻略し、全江西の反動的政權を震動せしめ、西南部に於て東固等の如き地方にソウエートを建設したのであつた。東北部に於ては兩三年間横峯、戈陽に赤色區域があり、ソウエート政權を樹立して、土地を分配し、赤軍第一團を編成し、現在ではすでに擴大して千以上の鐵砲があり、兵變を起して參加して來た翻陽の警衛隊、湖口に於ける一千以上の組織ある武装農民及び景德鎮近郊の五百以上の組織

ある武装勞農大衆と共に共同戦線を張り、江西省に於ける勞農闘争の有力なる一枝隊となつてゐる。江西省の統治階級は正に赤軍討伐の爲に兵馬の大動員にテンテコ舞ひだ。而かもそれは只白軍の大隊が輸送して寄こされるものに過ぎない。(此れは、吾々の輕敵だと云ふのではない。事實江西省政府が從來しばしば兵を派して「共匪」の討伐を行つたが、それ等の軍隊は兵變を起して赤軍に投ずるのでなければ、赤軍の爲に武装解除されるか又は俘虜となつてゐる。だから江西人は赤軍の爲に大隊を輸送するのだと云ふてゐる)江西省北部の九江、星子、德安、瑞昌四縣に於ける赤色區域には一團(一聯隊)の赤軍があり、從來しばしば敵の嚴重な壓迫を蒙つたけれども而かも依然として發展を繼續し、星子を攻略したり、土地の分配を實行したり、ソウエートを建設したりしてゐる。

湖南と江西の邊境は、江西の遂川、甯岡から湖南の茶陵、攸、醴の諸縣及び湖南、江西、湖北の接續地なる萬載、宜豐、銅鼓、修水、平江、瀏陽、通城、通山、崇陽等の數十縣が游擊區域であつて、しばしば苦闘の經驗ある赤軍第五軍が、第一、二、三、四、五の各縱隊及び五千以上の農民赤衛隊、江西、湖北邊境の數十萬に達する組織ある農民を率ゐて、地主階級の土地と財産を沒收してこれを農民に分配し、此の廣大なる區域に於ける反動的勢力を消滅せしめ、游擊區域、赤軍及びソウエート政權を擴大して土地革命を深刻ならしめてゐる。

湖南省西部に於ては賀龍の指導する赤軍が、湖南の龍山、桑梓、永順、大庸、石門及び湖北の恩施、鶴峯等の諸縣を縱横に驅馳し、發展してすでに五千以上の銃器を有するに至り、赤軍第二軍を編成してゐる。彼等には幾多の缺點はある。然し彼等は極力その闘争方策を變化して、彼等の組織能力を強化し、依然としてその擴大發展を繼續

して湖南の統治階級を威嚇し、その革命的影響を擴大して、土地革命を深刻化せしめ、又ソウエート政權を樹立せんとしてゐるのである。

湖南省に於ては極端なる反動的高壓を蒙つてゐるけれども、然し耒陽、柳縣、宜章、汝城、資興等の諸縣に於ては依然として廣大なる潛勢力があり、農民闘争も依然繼續され、新田、甯遠に於ける周文等の游擊隊も奮闘を繼續しつゝあるのである。

湖南西部の宜昌、沙市、公安、石首、沔陽及び洪湖一帯に於ける赤軍は、宜昌、沙市に於ける叛兵と、西部各縣の武装農民軍とを集中して赤軍第六軍を編成してゐる。彼等は未だ斷然廣大なるバルチザン戦争をやつてはゐないけれども、然し大衆闘争の發展、一再ならざる兵變の勃發及びその他經濟的並に地理的條件によつて洋々たる前途が彼等の眼前に横つてゐることに疑はない。

湖北省東部の黄安、麻城等の諸縣では、すでに長期間闘争をやつてゐる赤軍第三十一師と、河南省東南部の商城、光山、羅山等に在る赤軍第三十二師とを合編して赤軍第一軍を編成し、これがその地方の組織ある十餘萬の武装農民(六安では最近第一回の地方的暴動があり、それは失敗に終つたが武装はそのまゝ保存されてある。)と合同し、湖北、河南、安徽三省の邊境に於ける游擊區域を擴大し、此の地方の農民闘争をアヂリ、赤軍を擴大して土地革命を實現し、ソウエート政權を樹立してゐる。

湖北東部の陽新、大冶、蕪春、鄂城、黄梅、廣濟等の諸縣に於ける赤色區域には、元來赤軍と最近兵變を起した獨

立第十五旅全部があり(この兵變は最も有意義なる模範的なものである)、これと廣大なる武装農民とを以て赤軍第八軍を編成し、黄石港に進出して來た第五軍第五縱隊と聯絡して、咸甯、蒲圻、大冶、通山、鄂城、陽新、蕪水、蕪春一帶を游撃し、赤軍を擴大して土地革命を深刻化してゐる。此の赤軍の兵士連は「皆なで、吾々の兄弟(北方の兵士)が皆赤軍に参加する様にしてくれる」と謂ひ、又「南京に攻め寄せろ」と云ふてゐる。

廣西省右江の百色、恩隆、思林、東蘭等の縣では廣大なる兵變の結果、赤軍第七軍が成立し、五六縣に亘る勞農を組織し、その政治的影響を擴大して、臨時革命政權即ち勞農革命委員會を樹立し、左江に於ける廣大なる勞農闘争と兵變とをアヂつて、右江と共に廣大なる赤色區域を形成し、更に湖南、江西、廣東の邊境に進出して朱毛軍と聯絡を採り、速に兩廣に於ける革命の成功を望んでゐるのである。

此の外廣東東江の十餘縣、就中海豐、陸豐、普甯、揭陽、豐順、梅の諸縣に於ては游撃隊と赤衛隊とが普遍的に發展し、江蘇省の南通、如皋等の農民武装闘争が次から次と激しくなり、河南省西南部には廣泛なる農民の武装があり、湖北省の北部にも亦農民闘争の基礎が出来てゐる。又直隸省の玉田、遵化には農民大衆の闘争と組織とが發動しバルチザンに變化せんとする形勢を示し、直隸省南部の磁州一帶及び北部の懷柔、密雲、房山、易の諸縣一帶にもバルチザン戦争發動の形勢があり(磁州一帶にはその基礎的條件が出来てゐる)東三省に於てもソウエト聯邦攻撃の前線たる滿洲里、同江、富錦などではソウエト赤軍の影響を受けて兵變を起し農村に浸入して游撃してゐるのだ。全國に於ける廣大無比なる災民、半農半匪的武装及び土匪、神兵、紅槍會、大刀會等の如き農民の大衆的

組織に至つては悉く解放を要求して漸次階級的自覺を得、先進階級の指導の下に革命化しつゝある。此等の廣大なる勢力は革命的形勢の展開に際して、闘争の發展と訓練とを得るに従ひ、必ずバルチザン戦争を行ふて、遂に赤軍となるものであることを吾々は深く信するものである。中國はもとより世界的にも、此の偉大なる社會的基礎を有する赤軍の發展を障碍し得る何等の勢力も永久に有り得ないことを吾々は信するものである。(畏 絲)

二 赤軍の戰略

—紅旗第七十二期所載—

「赤軍は餘り恐るべきものではないが、赤軍が擁する廣大なる大衆の威力が恐るべきものである」とは、數年來朱毛の軍隊を包圍攻撃した白軍(大衆は反動派の軍隊を簡單に白軍と稱してゐる)が異口同音に云ふてゐる言葉であつて、實に白軍にとつては赤軍と、大衆的威力との二つが結合した勢力が恐ろしいと云ふことであり、而かもそれは赤軍なるものが廣大なる大衆闘争中より生長して來た威力の結晶したものであることを、謂はず語らずの中に認めて居ることになるのである。即ち赤軍には深厚なる基礎のあることを彼等自身認めて居ると云ふより外はない。現在、中國の南部地方に普遍的に存在してゐる赤軍が此の二箇年間の戦闘の經驗を云ふならば彼等が敵の「重圍」を撃破し、敵の「猛撃」と相對戦し、「食糧攻め」にも困難を來さず、「威を以て迫る」も「利を以て誘ふ」も又は「切りくずし政策」をも悉く失敗に歸せしめた事は、彼等に恃とする必勝の利器があるからである。それは實に絶大無比なる一門の大砲であつて、此の大砲は如何なる統治階級の軍事工業を以てしても製造することの出來ないもの

であり、而かもそれはあらゆる反動的勢力の基礎を破壊せんとするものである。此の大砲こそは、正に政治及び經濟の全國的危機、反動階級の高壓、プロレタリア政黨の指導といふ各種の要素の交錯の中から加工製造されたもので「大衆的基礎」と呼ばれるものがそれである。赤軍は此の大砲を善用して一切の障礙を砲撃してこれを摧毀することが出るのであり、これが所謂「如何なるものを以てするも替り得ない威力」のある赤軍となる所以なのである。

「吾々は共產黨の政治的指導下に在る軍隊であり、共產の政綱に基いて奮闘するものであり、吾々こそは主義を有する軍隊である。……吾々は如何に戦ふべきかを知つてゐるばかりでなく、何の爲に戦ふべきかを知つてゐるのだ。」敵の軍隊は僱傭軍隊であり、而かも且つ勞農の化身である。……だから敵の軍隊が吾々を攻撃にやつて來ると往々にして吾々の政治的影響を受け、革命され、瓦解し、又は兵變を起したりする」。これは朱毛赤軍の或る兵士が三ヶ月ばかり前に紅旗の記者に宛てた信書の一節であつて、この中には實に偉大なる意義が含んでゐる。即ち此の一節は、赤軍の兵士大衆が階級的自覺に於て非常に進んでゐることを示すばかりでなく、赤軍そのものの意義の偉大さを明示し、プロレタリア政黨の指導能力を如實に示してゐるのである。「此の種の威力は舊式軍隊とは異ふ」いふその特徴が即ちこれに外ならない。

「勇敢、勇敢、更に勇敢」といふダントンの言葉がそのまゝ、赤軍唯一の戰略である。彼等の勇敢さは各種の政治的形勢に應じて戰術的には色々に變化あるべきであるが、然し、如何なる時期に於ても絶対にその唯一の攻勢方針を放棄したり或は忽略にする様な事は毫もあつてはならない。特に目下は革命的形勢が全國的に開展しつゝある時で

あるから、あらゆる威力、あらゆる方法を盡して農民闘争を發展せしめてその政治的影響を擴大し、遊撃隊區域を擴大し、地方的暴動を發展せしめ、土地革命を深化しソウエト政權と赤軍とを擴大しなければならぬのだ。彼等は「攻撃」こそは前途の開拓であり保守は即ち死亡である」ことを深く／＼了解してゐるのである。

赤軍の發展過程に於ては輕視を許さない困難と缺點とが尙ほ残されてある。此等の困難と缺點とは財産のない政黨としては慎重なる考慮を用ゐて、その原因を究め、局面打開の方法を講じなければならぬ。特に重要なのは全國的な政治的任務に基いて具體的指導方針を定めることである。赤軍發展の最大障害物は實に保守的觀念であつて、此の觀念から「割據」だとか「山上に立て籠る」だとか「地方的」だとか、甚だしいのになると「清算派」的な誤る政策までが各種各様の姿で現はれて來るのである。此等の政策は疑もなく右傾的危險を伴ふものであつて、赤軍の擴大を阻害するものであるからプロレタリア政黨たるものは斷然、全國に呼びかけ、今正に發展しつゝある赤軍をして、根本的錯誤たる保守的觀念を消滅せしめ、且つこの觀念に附帶して發生するすべての誤る政策から脱離せしめねばならぬ。赤軍發展の第二の障害は、チビリチビリ暴れたり、散漫に流れたり、個人々々で戦つたり又は單純な軍事的發展であつたりすることであつて、赤軍としては必ず相互の聯繫を保つて相配合し、相聲援し合つて、更に組織的能力のある指導作用を具備せねばならぬ。プロレタリア政黨はその政治的經驗によりて、必ずその能力があり、それによつて赤軍を指導して此の第二の障害から免かれしめ、且つ彼等を緊密に聯繫せしめ得ることを吾々は信じて疑はない。

新なる革命の浪潮は全國的に復興しつつある。吾々は敢て斷言する。赤軍は必ず此の風潮の高揚を促進する一主要動力であると共に、幾つかの省に於て「先づ勝利」を得ることの偉大なる作用を遠からず表現するであらう。

(畏 絲)

三 朱毛赤軍の工作 (赤軍通信)

(紅旗第七十二期所載)

吾が第四軍の游撃戦争以外の工作を簡略に報告しやうと思ふ。今後赤軍の生活、訓練等の方面を書く積りである。

一、調査工作

各方面に分派された游撃隊が或る土地に到着すれば、何よりも先きに必ず調査工作を爲すのである。それは赤軍の行動は行雲流水の如きものであるので、到着した地方で、若し各方面に亘る調査をやらねばならぬ。例へば打倒土豪劣紳の標語の如きも、赤軍では此の儘もその地方の要求と合致することが出来ないからである。例へば打倒土豪劣紳の標語の如きも、赤軍では此の儘で掲出することなどは非常に拙い。何となればそれは内容が空虚であり且つ具體的でないからである。故に吾々は先づ必ずその地方の誰々が大眾から最も憎まれてゐるかを調査し、その上で土豪劣紳某々等を打倒せよといふ標語を掲出するのなればならぬ。此の様にして出したスローガンは自然大眾の深刻なる認識を引き起すものである。又大眾闘争の情況、反動派の情勢、その地方の經濟的生活、工賃、物價、土地の分配されてゐる狀況及び

地理的形勢や交通、河流などに關しても詳細なる調査を爲し、一つの表を作成するのである。此種の工作は非常に興味のあるものであつて、且つそれは、赤軍をして當時の環境を顧慮せしめ、而かも自己の政策を主觀的に決定することから救ふものである。

二、宣傳工作

赤軍成立の初期に於ては、その宣傳工作は、國民革命軍の舊習をそのまま用ゐて、宣傳工作は或る部分の人がやる事であると認め、従つて軍隊は戦争をやるものであり、宣傳は藥賣りであるといふて厭がつたものだ。これなどは兵士が國民黨の實行を伴はないスローガンから抜け切れない強烈なる反映を表示してゐる。然し現在では赤軍には、則ち一個の宣傳兵の制度があつて、軍隊には一個の機關毎に、中隊、大隊、或は政治部、衛生部等の如きものに、悉く、宣傳工作を擔任するもの五人を派してゐる。此の五人を「宣傳兵」と謂ふのである。彼等は二組に分れ一組は講演隊であつて口頭の宣傳を擔任し、赤軍の到着した農村の酒店、茶亭、或は盛り場などで手に赤旗を持ち標語傳單などを以て大眾に宣傳し、都市に到着した場合には大舉出動して、大道、小路或は商店などで個別的宣傳を爲し、更に民衆大會を召集するのである。民衆は赤軍といふ此の怪物を知らうとし、又朱毛の儀容を仰ぎ見んとして、續々大會に参加して來るのが普通である。他の一組は文字上の宣傳を爲す組であつて、各人が一個の石灰桶と大小の筆各一本を持ち、赤軍の經過する地方の牆壁に残りなく赤軍の標語を書くのである。その字は楷書でしかも大きく上手に、梯子などを用ゐて成るべく高く書き、反動派が來ても直ぐには消されない様

にするのである。故を以て赤軍が或る縣域に到着すると、僅か三時間ばかりの中に宣傳工作が普遍されるのである。これと同時に宣傳員は、反動派の宣傳、例へば國民黨の標語、總理の遺囑、遺像などを破壊する責任をも負擔するのである。だから多くの地方では「赤軍が一度來ると、町全部が眞赤になり、それが一年位は消えない」と人人は云ふてゐるのだ。

三、組織工作

赤軍が、勞農闘争の比較的發展してゐる地方に到着した時には、これを援助してその組織を發展せしめ、彼等の會議に参加して彼等の從來の錯誤を糾正し、且つ彼等を援助して目前の工作計劃を決定せしむるのである。大衆組織のない地方だつたならば、注意すべき組織の對象物は次の如き者である。

- 1 土豪劣紳に仇恨を有するもの。
- 2 極めて貧乏なるもの。
- 3 葉、賀の軍隊に入つて曾つて兵隊となつたもの。
- 4 他の地方の農民協會が失敗した爲にその地方に避難して來てゐるもの。
- 5 以前に革命闘争に参加したる事のあるもの。
- 6 近隣の工會又は農會と關係あるもの。

赤軍政治部では以上の如き人々を招待し、彼等を援助して工農會籌備處を成立せしめ、その責任者を擧出するの

である。彼等は常に赤軍に對しては非常なる好意を示してゐるので、此の組織が遂に有力なる大衆組織となつた例が各處に有るのである。

四、俘虜を歡送する。

敵と交戦して多くの俘虜を獲た時には、赤軍では、公然彼等に同意を求め、赤軍にそのまゝ留つて働くことを欲するものは直ちにこれを採用し、若し欲しないものがあれば歡送會を開いて各人毎に一二元の旅費を與へ、兵士代表が歡送の辭を述べて、彼等に階級的自覺をうながし、歸つてからは、土豪の打倒を志し、兵隊には入らず、再び勞農及び赤軍の攻撃には加はらない様に希望するのである。敵の負傷兵には親切に手當てをほどこし、旅費を給し、宣傳員をして彼等に多くの傳單を持つて行つて貰ふ様に頼み、農民を備ふて、敵の區域まで擔いで行つて貰ふのである。敵人は、此の俘虜や負傷兵がたくさん歸つて來るのを見て、何とも判斷がつかず又處置の方法も見つからぬであらう。何となれば赤軍は此等の兵士を殺害しないばかりでなく、反つて彼等をして赤軍なるものは勞農大衆の軍隊であることを認識させてゐるからである。だから此等の兵士は、一度歸つたならば必ず、赤軍がどんなに好いかを語り、反動派の赤軍又は共產黨に對する誣蔑的宣傳は、自然自滅の形となつてしまふのである。

書き出すと赤軍の工作は甚だ多い。然し今は行軍中で非常に忙しいから、又書くことにしやう。

(澤 西十二月五日於上杭！)

第三 軍閥崩潰の基點

一 兵變の革命的意義

— 紅旗第七十二期 —

軍閥の混戦、ソウエート聯邦攻撃、赤軍討伐、勞農闘争の壓迫等の爲に戦争をやらされ、又日常の軍隊生活などに對する不平不満が、勞農闘争の發展に伴つて、偉大なる革命的意義を有する兵變となつて断えず爆發し、それが全国的に普遍化して來た。此等の兵變の革命的意義とその據つて來る理由とを察せず、それは軍閥の統治歴史には普通の事件であると認める事は馬鹿者と云ふよりはむしろ罪惡であつて清算派の亞流を學ぶものに外ならぬ。

偉大なる兵變は「大衆に教訓を與」へ又「幹部を教訓する」ものである。即ち、

一、兵變は、兵士の階級意識が強烈であることを示し、特に赤色區域及びソウエート聯邦への進軍の途に當る邊境及び勞農闘争が高漲してゐる地方では、兵變の爆發することが多い。そしてそれは、此等の地方でバルチザン隊となり、やがて赤軍となつて行くのである。

二、兵變は中國革命に於て「未曾有」の特徴を示してゐる。それは從來「工人が立つても農民が立たず、勞農共に立つも、兵士が立たなかつた」畸形的發展を變化させるものだからである。

三、それは殖民地に於ける軍閥制度の統治國家に於ては特に大なる革命的作用を有つてゐることを示してゐる。而

かも軍閥制度下に於て養成された生活と、鍛鍊された鋼鐵の技術（軍事）を有つて居り、これが軍閥制度を破壊する主たる武器となるのである。

四、過去に於けるプロレタリアの兵變に對する指導能力が一般に貧弱であつた事を暴露してゐる。今後は計劃的にそして組織的に指導力の基礎を建設することに努力せねばならぬ。

五、軍閥が殊更に兵變を發生せしめてそれを反動的戦争とする陰謀のあることを暴露し、兵士はこれによつてその陰謀の罪惡を知り、只兵士自身の能力を團結せしむる事によつてのみ、そして勞農闘争と合流することによつてのみ、軍閥の打倒、反動的戦争の消滅が可能であり、且つそれが自己の解放を獲得する所以であることを解したのである。

中國共産黨は應に計劃的に自然發生的兵變を指導し、これを農民闘争、工人闘争と合流せしめて軍閥制度崩潰の速度を早からしめ、革命の全国的勝利を促進せねばならぬ。（武 光）

二 兵變の模範的なるもの

帝國主義國と國民黨が不戰條約を否認して、更にソウエート聯邦への攻勢に一步を進めんとしてゐる時に際し、而て國內的には軍閥戦争が日に益々擴大し、大衆の苦痛も従つて愈々深刻を加へつゝある時に際し、獨立第十五旅の兵士が、勞農闘争の形勢の全国的高潮に乗じて有意義なる兵變を爆發せしめたのである。此の兵變は獨立第十五旅が陽新、大冶に於ける勞農の赤軍を攻撃してゐる時に演じられたもので、その時には赤軍の第五軍第五縱隊が二

回目の大冶城攻略をやつてゐたのであつた。此の様な組織的な計劃的な兵變は、當然統治階級に對しては大なる威嚇であり、その全國的政治的影響も當然深且つ大なるものがあるに相違ない。

赤軍第五軍第五縱隊が、第一次の大冶城攻撃には、四百の銃器を有する大冶商聯隊（即ち保安隊）を走らし、それ以來、赤軍の威嚇は湖北の東南半壁を震動せしめ、加ふるに第五縱隊が源章口に於て江防軍全部の武装解除をしてからは、長江沿岸の重要都市、黄石港、圻春等の地方は著しく動搖し、長江航路の船舶は皆不安を感じる様になり、かくて統治階級は異口同音に「片つぱしから富者を殺す土匪が湖北の東南部に充滿した」と叫び出したのである。

統治階級の悲鳴は直ちに軍隊の派遣となり、所謂「怪物」を消滅せしめんとし、獨立第十五旅が武漢の當局から大冶一帯に派遣されたのである。最先に大冶に到着したのは獨立第十五旅第二團の第一、第二の二營（大隊）であつて、その時には、赤軍は大冶城から百二十支里の處に居た。そして此の一、二營が大冶に到着して間もなく第二營第五連の兵士が運動を開始し、連長（中隊長）は兵士に搏られ、排長（小隊長）は皆兵士と行動を共にせんことを願ひ、第六連の一小隊もこれと一致の行動を採た。赤軍が大冶城に進軍するや、彼等は高らかにスローガンを叫んで内應し、大冶城に駐軍してゐた他の全部を俘虜とし、營長は其場で殺され反動的な縣長も亦捕へられた。

そこで武漢當局は又獨立第十五旅の第一團及び第二團の第三營を大冶に派遣して來た。それが大冶城に到着して二日目第二營の第九連が又事を起し、連長や排長等は皆兵士の爲に銃傷を負ひ、その二人は殺され、兵士は全部赤

軍に参加したので、敵軍は再び大冶城から退いたのであつた。

赤軍が最初大冶に入城した時には幾人かの反動的大商家を沒收したが、今度は小商人に對しても「秋毫も犯すことなく」城内の貧民が農民に誤解されて捕へられた者もあつたが、それ等は幾らかの金を與へて全部釋放したのでその影響は黄石港、石灰窑一帯の商人及び町の貧民に波及し、工人と農民が一致して赤旗を掲げ赤軍を歓迎する様になつた。而て商人は、黄石港一帯に退いた大冶駐在の反動的軍隊及び保安隊に對し、一切歓迎しなくなつたので敵軍は更に恐慌を來したのであつた。

俘虜になつた敵の兵が赤軍のところまで連れて來られると、赤軍は政治的宣傳を爲し、赤軍の意義、その實情を告げるので、兵士は軍閥の爲に盾となつてゐた事に對し、無限の後悔を表示し「吾々は最早や完全に自覺した、吾々は以前の苦痛を再びしやうとは思はない、吾々は直ちに南京に攻め入つて、人の生血を吸ふ軍閥を一人、一人切つてしまふではないか」と皆謂ふ様になつた。政治委員が講演する時には彼等は極めて謹聽し、「吾々の仲間も赤軍に参加する様にしやうではないか」とか「吾々は南京に攻め入つて蔣介石を打倒せねばならぬ」などと兵士達が寝物語りに云ふ様になつた。そして大雪の降る寒い日に彼等を釋放して歸したのであるが、彼等は雪中の旅にも非常に元氣で將校の監督もなしに兵士自身がよく秩序を守り、或る俘虜の連長は「こんな天氣に返すなど云ふことは赤軍だから出来るのである、今までの様なら、兵士達は不平だら／＼で命令も何も聽きはしなかつた」と述懐したものだ。

彼等が今回の兵變を發動した時のスローガンは、「勞農兵聯合して國民黨を打倒せよ」「兵士は兵士を打たず」「皆赤軍に参加しやう」であつたが、此の外に最も兵士を感ぜしめたスローガンは「甘んじて蔣介石の走狗となつてゐる黄埔學生（黄埔軍官學校出身者）を皆殺してしまへ」と云ふのがそれであつた。それは蔣介石が獨立第十五旅を訓練して自己の嫡系軍隊と爲さんとし、多くの黄埔學生を派遣して獨立第十五旅の將校とし、而かもこれ等の走狗は彼等の「養ひ親」（蔣介石）の歡心を得やうとして特に嚴格に兵士を壓迫した爲に兵士は彼等に對し骨髓に徹する恨を抱く様になつたからである。

現在では彼等はすでに赤旗を掲げ、赤軍第八軍を組織し、二千に近い銃器を有し、陽新大冶一帯を游撃してゐた赤軍第五軍第五縱隊及び赤軍第十二軍と合流して巨大なる威力を形成し、大冶、陽新、通山、鄂城及び武長鐵路沿線の蒲圻、咸寧一帯に土地革命を計劃し、一方大衆闘争の掩護の下に游撃を實行し、修水、銅鼓一帯を游撃してゐる彭、黄の赤軍（第五軍一、二、三、四の各縱隊銃器五千餘挺）とも連絡を採つてゐる。

以上の状況を綜合するに、此の兵變は甚だ吾々の注意に値する二つの特點がある。第一は此の兵變は純粹に下層兵士大衆の發動するところに係り、それが此の兵變を特に有力なものとし、又幾多の困難をも減少し、順調に發展することを得せしめた事である。第二は、兵變と同時に赤旗を掲げたことであつて、従つて彼等は、斷然その全部隊を以て農村に至り、赤軍及び武装農民と聯合してバルヂェン戦争をやり、兵變發動の主觀的及び客觀的條件を能くつかんで全國的政治的形勢に適應し得たことである。吾々革命の同志は此の獨立第十五旅の兵變の以上の特異

點を認識し、これを今後の兵變に全國的に運用し、兵變が敵人の派別的闘争に利用されることを防ぎ、その最後の勝利へとこれを導かねばならぬ。

兵變は只下層兵士大衆が發動することによつてのみ最後の保障が獲られるものであり、赤旗の掲出がその具體的方向を示すものであり、従つて又赤軍及び武装農民との合流が勝利への途であることを、吾々は徹底的に認識しなければならぬ。（羅 克）

三 全國的兵變の風潮

— 紅旗第七十二期 —

統治階級の搾取と壓迫の方法が、如何に残酷を極めやうと、改良主義的欺瞞が如何に巧妙を極めやうと、又は、清算派が現在の大衆闘争を「革命失敗後の餘波」であると宣傳しやうが、事實は、大衆闘争がすでにその復興の成熟期に入つたことを示し、都市に於ける工人、農村に於ける農民、兵營に於ける兵士等は悉く、自己の精神を振起して、彼等を壓迫する資本家、地主、豪紳及び軍閥に對し宣戦を布告してゐるのである。残酷なる軍閥戦争は繼續して日に益々激しく、此の一年間にも湖南から江西、湖北、それから、又廣東、廣西まで蔓延し、河南にまで延長されてゐる。これは正しく統治階級の崩潰過程を加速度的にならしむるもので、従つてそれは統治階級が、此の局面を支持する能力なきことを示すものに外ならぬ。斯の如き戦禍の蔓延によりて貧乏餓を引く者は貧困の百姓達であつて就中憐むべきは吾が兵士諸君である。戦時に於ては自己の生命を以て、彼等自身を壓迫する軍閥の地盤争奪

の犠牲となるばかりでなく、平日でも彼等は長官から残酷な搾取を受け人間らしい自由は一切剝奪され、奴隸か囚徒の如く驅使されてゐるのである。軍閥共は次から次ぎと兵士を前線に送つては砲彈的とするか、然らざれば老弱で使へないと云ふては解散して餓死させてしまふ。給料などは一年中くれないし、兵士連は僅かの錢を生命と換へてゐるのだが、それは家族を養ふことは勿論、自分自身の衣食にさへも足りはしない。愈々生命を投げ出す時には一言も怨言が謂へないし、怨言などを謂へば直ちに残酷なる刑罰に遇ふのだ。これと反對に赤軍の全國的政治的影響は日に増し擴大し、此の二ヶ年間の困難なる鬭争にも拘らず、朱毛の赤軍の如きは、軍閥の包圍攻撃にも拘らず消滅どころか反つて日は一日と擴大しつゝある状態に在る。その他の赤色區域も日々に擴大され、湖南江西の境界江西の東南部、西南部、東北部、湖北の東南部、東北部、西部、河南の東南部、湖南の西部、廣西の西南部等に游撃してゐる赤軍も大衆鬭争の掩護の下に、土地革命を深化せしめ、益々その戰闘力を加へつゝある。これ等が深く兵士各人の腦裏に影響し、特に赤軍の兵士が精神的にも物質的にも極めて良い待遇を受けてゐることが、軍閥の部隊に在つて苦惱してゐる兵士にとつては、目に見えて、自己の生活の苦痛が自覺され出して來てゐるのである。この故に兵變の發生は、廣東の海南島から、黒龍江のロシヤ邊境にまで斷えず發生してゐるのだ。もとより此等の兵變の中には、あまり革命的でないものもある。然し兵變が斯の如く普遍的發動を見るといふ事は、統治階級が一日一日と崩潰しつゝあることを明瞭に語るものであつて、兵士大衆の政治的自覺が益々強くなりつゝあることの證差であり得る。次に最近數ヶ月間に發動した兵變の中の主なるものを擧げて見やう。

一、新編第一師の兵變

此の兵變は十月五日に發動したもので、此の軍隊は武昌に駐在してゐた時に兵變の消息があつたが、後、蔣介石が張發奎討伐の爲に湖北省西部地方に派遣したので、それが兵變發動の機會を與へたことになつたものである。即ち此の部隊の第二旅の兵が宜昌に到着して間もなく「蔣介石の走狗黄埔學生を殺せ」をスローガンとして兵變を起したのである。それは蔣介石が計劃的に黄埔學生を派遣して兵士を壓迫したので、極度に兵士の恨みを買つたことに原因してゐる。此の部隊には銃器が四千もあり、兵變後は柿歸、興山一帶に散らばつてゐるが、惜しむらくは旗幟が未だ十分鮮明ではない。しかもとよりこれも吾々の指導し得るものである。

二、第四十五師鮑剛部隊の兵變

此の部隊の兵變は三ヶ所に起つてゐる。一は安慶であつて一旅（餘亞農の部隊）と一團とであり、一は蕪湖に於ける約一團で、もう一つは大通の約一團である。この兵變は皆改組派の指導に係る。

三、陳國材部隊の兵變

此の部隊は元來蕪湖に駐在してゐたものであるが、後宜城附近の剿匪の爲に派遣された時に兵變を起したもので生活の苦痛に堪え得られなかつたのが原因である。そして、今では江西省に行つて農民軍と合流してゐる。

四、新編第三旅第五團の兵變

十月十八日に蕪湖に於て兵變を起したもので、第五團の外にも旅團直屬の歩兵營、迫撃砲連等の部隊もやつてゐる。

る。

五、四川軍第二十八軍第七混成旅贛部の兵變

此の兵變は四川の遂寧、蓬溪に於て發動したもので、時は今年の六月である。此の兵變の全國的政治的影響が頗る大きく、兵變後は直ちに赤旗を掲げ、赤軍を組織し、四川省に於て游撃戦争を實行し、統治階級に莫大な打撃を與へてゐる。

六、川軍第二十師郭汝棟部の兵變

これも六月中に起つたもので、四川の涪陵中州等の地方で兵變を起し贛部の赤軍に響應したもので、約二連の兵士である。

七、川軍第二十四軍劉文輝部の兵變

これも六月で榮縣に於て二ヶ連の兵が贛部の赤軍に響應したものである。

八、川軍第二十一軍賴心輝部の兵變

五月に四川の綦江に於て一團の兵の兵變が起り、七月には三團の兵が兵變を起し、その兵士は皆土匪となつた。原因は給料不拂である。

九、川軍第二十師楊部の兵變

此の一年間に四五回やり、銃器を持つたまま逃げて土匪となつた、その數一萬餘。

一〇、第十二師（金漢鼎部）第七十一團第九十四連の兵變

一九二九年一月の事で、それまで約三ヶ月ばかり赤軍との間に交通があり、遂にその影響を受けて、給料支拂、綿入れ軍服の要求を爲して連長を驅逐し、その中六十名は赤軍に投じ、その餘は土匪となつた。

一一、第十二師騎兵連の兵變

二月に給料支拂を要求して兵變を起し、連長を追拂つて、兵士連が一人の排長（少隊長）を推舉し、兵變を起してからは濟貧軍の旗幟を掲げたもので、現に赤軍獨立第三團に收編されてゐるのがそれである。

一二、第十二師第七十二團第五連の兵變

兵變の起つたのは二月中であるが原因は解らない。兵變後は江西から湖南に入つて土匪となつた。

一三、第十二師第七十二團第一、第三兩連の兵變

給料不拂がその原因で、時は二月、これは間もなく解決した。

一四、第七師（王均部）第二十一旅教導連の兵變

戦をするのが嫌だと云ふて下の方から起した兵變で、時は七八月の候、兵變後は公然と共産黨加入を聲明し、その一部は今尚ほ徽州一帯に在る。

一五、第十二師第六十九團の兵變

此の部隊は八月中に赤軍と交戦しながら、その影響を受け、銃器を持つたまま約七八十人の兵士が赤軍に投じ、

戦線に於て、反動的將校一名を殺したもので、今では赤軍獨立第二團に編入されてある。

一六、吉安靖衛隊（江西）第五團の兵變

十一月十五日に大隊長をかついで兵變を起し、約百八十ばかりの銃器を持ち出し、現に赤軍の一部となつてゐる。

一七、吉安五市聯防隊の兵變

これは五月の間の事であつて、兵變に参加したのは僅に二十餘人であるけれども、兵變に参加しないものまでも引き入れて、現に赤軍第二團に入れられてある。

一八、江西警察大隊の兵變

これも赤軍の影響を受けた結果で現に赤軍中に編入されてゐる。時は十二月二十七日。

一九、第五十二師吳尙部隊の兵變

此の兵變は十一月九日常徳に於て勃發したもので、統治階級の内部的衝突の反映である。旅長一人團長一人を殺し、その大部分は何健に改編されたが一部は湖南省西部一帯に散らばつた。

二〇、新編第八師周爛部隊の兵變

此の兵變は十二月五日實慶（湖南）に於て勃發したもので、やはり統治階級の内部的衝突がその原因であり、現に湖南省南部一帯に散らばつてゐる。

二一、平瀏一帯（湖南省平江、瀏陽）に駐屯してゐる軍隊の兵變

此の一年間、平瀏一帯に於ける兵變は十餘回に達してゐるが、その主たる原因は赤軍の影響である。

二二、石友三部隊の兵變

此の部隊の兵變は三ヶ所に起つたもので、その一旅は十一月二日浦口で兵變を起し、他の一旅は十一月三日に安慶で勃發し、第三は蚌埠に於ける兵變である。この兵變も亦統治階級の内部的衝突が激化した爲に起つたものであるが、これに對する指導は未だ行き届いてゐない。

二三、獨立第四旅第十二團の兵變

十二月七日常州（江蘇）に於て兵變を起し、宜興、溧陽一帯に散らばつた。これは改組派の煽動に係る。

二四、第五師熊式輝部隊の兵變

第五師の衛隊全部が十二月中に吳淞に於て小規模の兵變を起したが、直ちに消滅してしまつた。

二五、暫編第一師張貞部隊の兵變

九月中に漳平一帯に於ける赤軍討伐に際し三ヶ營の兵士が兵變を起し、一營は赤軍の爲に武装解除され、その他は散じて土匪となつた。

二六、第十二師の兵變

此の部隊が江西省に居た時に兵士に動搖があり、福建西部に於ても變動があつた。此の前上杭（福建）に居た時に（五月）給料不拂から、動搖を起し、十一月末武平に於て赤軍と接觸し、その影響を受けて銃器を持つたまゝ、

百餘人が赤軍に投じ、逃亡者も亦非常に多い。

二七、第六十五師劉和鼎部隊の兵變

此の部隊は赤軍と交戦せんとせず、赤軍を見れば退却ばかりしてゐたが、兵士は給料不拂から兵變を起したことは屢々耳にしてゐた。九月中に一度兵變があり、百餘人これに参加し、散じて土匪となつてゐる。

二八、閩軍(福建軍)盧興銘部隊の兵變

八月中に上杭に於て赤軍と激戦し、その大部分の兵士は赤軍に心を傾け、遂に一ヶ旅の全部が赤軍の爲に武装解除された。

二九、粵軍(廣東軍)蔣光鼐部隊の兵變

饒平に駐在してゐた此の部隊の一連(鐘鼎新)が九月一日に兵變を起し、二人の排長を殺し、福建省に入り込んで赤軍に投じた。

三〇、獨立第十一旅の兵變

十一月中に獨立第一旅及び獨立第一團王紹俊の部隊が湖北省西部に於て兵變を起し、宜都方面に散在して農民軍と合流してゐる。

三一、獨立第十五旅の兵變

これは最も模範的な兵變で、全部下層兵士が自ら立つて反動的將校を殺し、陽新、大冶に游撃してゐた赤軍に合

流したものである。此の部隊は元來新編第一師の一部であつたものが、蔣介石によつて獨立第十五旅に改編されたものである。一九三〇年の一月初め大冶、陽新一帯に赤軍討伐に向つたものであつたが赤軍の影響を受けて兵變を起し、營長その他腰のフラつく將校を銃殺し、縣長(知事)を生擒したのであつた。彼等のスローガンは「勞農兵聯合して國民黨を打倒せよ」「兵士は兵士を打たず」「蔣介石の走狗黃埔學生を打倒せよ」等で、その他にも、兵士が獨りで口に出したものは「南京に攻め寄せろ」「吾々の仲間を何とかして赤軍に参加させ様」などもあつた。現在では赤軍第八軍に編成され、大冶、陽新一帯の勞農大衆は、これと共同戦線の形を採つてゐる。

三二、廣西教導隊の兵變

これも下層兵士大衆が起した兵變であつて、時は十一月、その後彼等は分散して農村に至り武装農民と合流し、その一部は赤軍第七軍中に編成されてゐる。

三三、廣西省警備大隊の兵變

これは十二月中に、南寧から百色一帯にかけて起つた兵變で、その後彼等は赤旗を掲げ、東蘭一帯に於ける闘争の歴史を有する武装農民と合流し、赤軍第七軍を編成し、バルチザン戦争を行つてゐる。

三四、第十三師夏斗寅部隊の兵變

五六月の候約二ヶ連の兵士が、湖北省東北部に於て土匪討伐の時に起した兵變でその後孝感一帯に在つて公然共產黨を稱し、後赤軍に参加した。

三五、第二十軍郭汝棟の部隊の兵變

此の部隊は十一月中に湖北省西部に移駐し、十二月になつてその第二團が兵變を起したのであるが狀況は詳でない。

三六、桂軍(廣西軍)呂煥炎部隊の兵變

十二月十九日賓陽、南寧に於て兵變を起し、右江方面に走つて農民と合流してゐる。

以上は比較的顯著な兵變であるが、これだけでも人を駭かすに足るものがあり、その他の北方諸省に於ける大小の兵變に至つては、あまりにも多過ぎる。此等の大小の兵變に於て惜しむらくは正確なる指導が與へられなかつた爲に、あまり好い結果を見ずじまつた。東三省に於ても數え切れない兵變が勃發して居り、殊に東支鐵道事件が起つてからは、東寧、同江、富錦、奇乾、滿洲里の諸地方に於ける中國軍隊がソウエート赤軍の影響を受けて兵變を起し、銃器を持つたまゝ赤軍に投じたばかりでなく、最近では長春に於て一團の兵士が兵變を起したものだ。この一團は實に「ロシア攻撃」の第一線から歸つて來たもので、赤軍の影響は深くしみ込んで居り、その爲に兵士自らが斷然軍閥から脱離しやうと試みたものである。然しこれに對しても正確な指導が與へられなかつた爲にその大部分は分散して土匪となつた。

以上の事實によれば兵變は決して偶然に起るものではないことが明かであり、而かもそれが普遍的發展を爲し、且つ此の形勢は全國的な勞農闘争と歩調を同じくしてゐるので、決して統治階級の壓迫によつて消滅するものでは

ないことを明示してゐる。そしてこれが軍閥制度の急激に崩潰しつゝある明證であり、又革命的高潮の象徴であるのだ。(念 黎)

四 兵士運動に就いて

(陰曆年末の兵士運動週間に於て全國の兵友に告ぐ)

—紅旗第七十二期—

全國の兵士諸君!

世界の何處にこんな不平等なことがあるか。年末が近づいたのに金のある將校共は愉快なる新年を迎へんとするが、憐れなる吾々兵卒は軍閥戦争の爲に最前線に送られ、監獄と同様な軍營にあへがねばならぬのだ。此の一年の最後の一日に於て諸君は多くの回想を有つてゐるだらう。それは恐らく一年間の身に受けた苦痛の回想ではないか。先づ思ひ出されるのは諸君の家郷に在る父母妻子である。一年間一寸の請暇も出來ず、彼等に遇ふことは出來ないのだ。身邊の金錢をさぐつて見ると、給料は一年半も支給されてゐない。年末に賞與金を貰ふことなどは思ひも及ばぬ。こんな嚴寒にも、身には厚い綿入れが着られず、部屋には炭火さへもない。洋館に住んで、毛の外套を着てゐる將校共と比べて見る。正に天地の懸隔があるではないか。

年末が來た。だが、國民黨軍閥の壓迫は益々巧妙を極め、年末には兵士が二倍の給料を欲しがつたり、暇を請ふたりすることを知つてゐて、わざと彼等は陰曆の年末などは、とうの昔に廢除されてゐると、ウツプきあがある。

その時、何んな將校でも一人として家郷に歸つて此の陰曆年末を楽しく過ぎないものはないか。只憐れなる吾が、兵士諸君のみが街中を自由に散歩する暇さへもなく、兵營内で會を開くことも禁止され、賞與金を貰ふていくらかでも家郷に送るなど、云ふことは更に思ひも及ばぬ事なのである。

年末が近いた。國民黨軍閥は兵士に自由を與へないばかりでなく、次から次ぎと兵士を前線に押しやつて銃砲の灰にしてゐる。廣東、廣西、河南の戦争がまだ収まらないのに、今度は福建、四川に戦争が起つて來た。のみならず、彼等は大部隊の兵隊を派遣し、ソウエート聯邦の兄弟を打たんとし、國內の勞農闘争及び赤軍に對しても、兵士諸君を強迫して、これを鎮壓し、屠殺し、血で血を洗ふ苦闘をさせてゐる。そしてそれが彼等に安穩な新年を迎へさせる所以であり、又帝國主義への貢物ともなるのである。

全國の兵士諸君！諸君は自覺せねばならぬ！諸君が過して來た一年を清算する必要がある。給料の支給、年末賞與の支給、新衣の支給、一週間の休暇支給などは、長官が許可しやうがしまいが、彼等に新年を迎ふる権利があるのならば、諸君にも亦それが無いといふ理由はないか！諸君は親ら游藝會、同樂會などを開いて、兵營の自由出入、勤務の自由を要求する必要がある。

兵士諸君！諸君が若し團結すれば團結こそ力である。諸君は革命兵士委員會を組織し、給料二十元支給、待遇の改良、勤務の減少、集會、結社、言論、行動の絶對的自由を要求して闘争を起し、諸君を壓迫する將校を嚇して、諸君の要求を貫徹せねばならぬ。

全國の兵士諸君！闘争せよ！團結せよ！今や革命的闘争は世界的に前進しつゝある。工人の罷工は到處に於いて爆發し、農民暴動も同様である！印度と朝鮮の革命も日は一日と増大し、ソウエート聯邦も益々鞏固さを加へてゐる。諸君は中國の勞農大衆と共同戦線に立ち、軍閥戦争の爲に戰場に送られることを拒絶し、同胞相喰むことに反對せねばならぬ。そしてソウエート聯邦への攻勢と勞農の屠殺とに反對し、吾々の勞農及び赤軍とは交戦せず、反つて工人の罷工、農民暴動を援助して土地革命に加入せよ。諸君の銃器は廻れ右をやつて諸君の長官に向けらるべきだ。そして兵變を超して農村に走り、赤軍に参加して革命事業の一威力とならねばならぬ。

全國の勞、農、兵聯合せよ！ 打倒帝國主義！ 打倒國民黨！ 打倒軍閥！ 武装暴動を準備せよ！ 土地革命を實行せよ！ ソウエート政權を樹立せよ！

(中國共產黨一九三〇・一月)

第四 所謂「紅軍」問題

一 赤軍とは何ぞや (清算派と赤軍)

— 紅旗第七十二期所載 —

反動的軍閥の數知れぬ勢力がしばしば各省聯合して攻勢を採り、これと幾百千の殘酷なる苦闘を続けながら創造された一とかたまりづゝの赤色區域が全國的に散在し、その不斷の鍛鍊によりて鋼鐵の如き赤軍が生れ、現在ではすでに地主、豪紳、買辦、資産階級の統治的基礎を全國的に震撼し、且つ廣大無比なる勞農大衆の擁護を獲得し、

勞農兵が並進して全國的革命的風潮を作り、更にその風潮を高揚へと導いてゐる。これは一體偶然事だらうか。そしてこれは統治階級が日夜呪詛する「共匪」の首領朱、毛、彭、黃等の三頭六臂のみを以て能く創造し得る事であらうか。否、絶対に否、これこそは完全に經濟的及び政治的の全國的危機——即ち土地革命の發展が日夜湧現し擴大してゐるからである。

清算主義者は、今や、中國には革命などはない、従つて赤軍などの有る譯がないと、一生懸命になつて叫んでゐる。然り、赤軍は革命の生産物であり、そしてそれはソウエート政權下に於ける軍事的組織形式ではある。然し清算主義者は、現時の中國が日々に土地革命の擴大と深化とが有ることを全然了解せず、且つ土地革命の發展が、統治階級の矛盾を更に劇烈ならしむるものであり、それが經濟及び地理的條件によりて遂に中國南部に於けるソウエートの建設となつたことをも彼等は完全に了解してゐないのである。此のソウエートに於ては、廣大なる農民バルチザンの隊伍、地方的暴動の武装勞農及び全國的普遍化した兵變の發展などが、土地革命の深刻化並びに擴大と共に漸次變轉して赤軍となつたものである事は清算派の了解を欲せざるものでもあり又了解し得ない事實でもあるのだ。清算主義者の或る者は又、農村バルチザン戦争なるものは都市に於ける工人闘争に指導されて始めて意義あるものであるのに、今日では都市に於ては革命の高潮がなく、従つてバルチザン戦争は日々に土匪化するに過ぎぬではないかなどと云ふてゐる。素よりバルチザン戦争は都市工人の指導を獲得し、そして革命の全國的潮流と合流することによつてのみ、勝利の前途を有し得るものである。但し清算派の最大の錯誤は、中國革命を清算し、バルチザン戦争を清算し、バルチザン戦争を發展せしむべき政治的及び經濟的のあらゆる有力なる根源を清算せんとすることであつて、それは只彼等の政治的認識の破産を暴露するに過ぎないものである。今日の全國的罷工風潮は盛んに發展しつつあるではないか、そしてそれは日々に國民黨の黄色工會の影響下から脱脚して斷然革命的闘争へ走つてゐるのではないか。上海、天津、唐山、青島、哈爾濱、武漢、廣東等到處巨大なる罷工が爆發してゐることは、正に革命的風潮の復興を語るものに非ずして何であらう。中國の赤軍は必ずや斯の如き偉大なる工人闘争の領導の下に、あらゆる革命的勢力と合流してすべての反動的武装を破壊し、革命の全國的勝利を完成するであらう。

バルチザン戦争と赤軍とに關する觀察に就いても、或る地方の黨部では曾つて右傾化した觀察を下したことがある。それは農村に於ける自然發生的武装闘争を單なる原始的形式であると認め、従つて目下の客觀的條件ではバルチザン戦争とも成らず、赤軍を作り出すことなども出来る事ではないとする事である。朱毛の赤軍までも、それは兵變によつて發展したのであつて、従つて兵士工作もなくバルチザン戦争を發展せしむることは困難であると認めるものである。この爲に幾多の農村に於ける自然發生的武装闘争などに對しても、黨は適時にこれを指導してバルチザン戦争を行はしめることを爲さず、或は黨の指導に係る武装闘争までも、バルチザン戦争に對する見透しの不足から、自ら退いて農民の武装を解除してしまふなど、云ふ事があるが、これ等は正しく清算主義的現象に外ならぬ。何となれば農村闘争は日々に深刻化しつつあり、又兵變の風潮も益々發展しつつあつて、従つてバルチザン戦争の條件が成熟してゐることは疑を要せず、事實バルチザン戦争は、南部中國全體に亘つて普遍的に發展してゐる

からである。中國共產黨は必ず正確なる方策を運用し、斷然清算主義及び右傾化から脱却しなければならぬ。

(示 壬)

二 陳獨秀の所謂「紅軍」問題

エンゲルスの獨逸に於ける農民闘争に關する一説に、

「ルンペン・プロレタリアはあらゆる階級中最も墮落したる分子のしかも殘滓であり、これが大都市の軍隊を構成してゐることは、同盟者中の最も不良なる同盟者である。彼等は完全に金錢を目的とする隊伍であり、勞働者幹部がこれ等のルンペン・プロレタリアを手下とし或は踏臺としてゐることは只革命運動の叛徒たることを證明するだけである。」

世界に於ける幾十かの共產黨も、從來、皆エンゲルスの教訓を遵守して敢てルンペン・プロレタリアを利用せんとはしない。レーニンもその在世時に、彼の指導に係るコムミツテルン第四回大會に於いて、フランス共產黨が此種の秘密結社に接近する傾向があつたのに對して嚴格なる批評を加へてゐる。然るに現在中國革命運動の叛徒たる向忠發、李立三等は此種のルンペンを手下とし、又踏臺とし、しかも全然これを以てプロレタリア革命運動に於ける主要動力と爲し、而てルンペン・プロレタリア(土匪と解散兵)を基礎とするところの所謂赤軍によりて農民を指導してバルチザン戦争を爲し、これを大都市にまで影響させ様とするのである。彼等は公然と説ふ、

「軍閥崩潰の基點は兵變である。それは殖民地軍閥制度の統治國家に於て、兵士は大なる革命作用を有つてゐるこ

とを顯示してゐる。彼等は軍閥制度の下に於て生活し、且つこれによりて鋼鐵の身體を鍛鍊し恐るべき技術(軍事)を修得してゐる。これこそ軍閥制度を毀滅せしめる主要なる武器なのである。」

「これ(兵變)こそ軍閥制度が急激に崩潰する明證であり、そして革命高潮の象徴でなくて何であらう。赤軍こそは革命高潮の到來を促進する主要なる條件の一であり、且つは革命的局勢の開展を促進するものである。」

「全國的多數災民、半農半匪的武装及び土匪、神兵、紅槍會、大刀會等の農民大衆組織に至つては……それは必然的にバルチザン戦争を起して、遂には赤軍にまで成長するものである。中國或は全世界に於て、過去現在未來に亘つて、此の偉大なるそして強力なる社會的基礎を有する赤軍の發展を阻碍するに足る如何なる種類の勢力も出現し得ないことを吾人は信ぜざるを得ない。(紅旗第七十二號參照)

「江蘇省に於ては刀匪の大衆的武装が甚だ多かつたが、南京政府の直接管理下に於けるバルチザン戦争が可能なりや否やに就いて疑を懐いてゐるものがあるのである。(紅旗第七十六期)

「兵變は軍閥を撲滅する主要なる武器であり、災民、土匪、神兵、紅槍會、大刀會、刀匪等は紅軍の社會的基礎となり得るものである。」而して斯の如き社會的基礎を有する「紅軍」が革命の高潮を推動するといふ事は、これは即ち叛徒等の革命政策であつて、しかも彼等自身、現在の所謂「紅軍」の内容に對して解釋を下してゐるものである。彼等はかくて公然としかも得意然として謂ふ、

「十二月三十一日の申報には「如皋縣内では土匪と共產黨とが結合し三千餘人を集合して租税不納闘争を爲し、

民間に於ける自衛の爲の槍彈は悉く掠奪され、勢甚だ盛んである」と記載されてある。帝國主義と國民黨の大本營附近に於て、又「流氓、土匪、無賴漢」等の武裝的行動が發現したことは、正しく反對派をして氣死せしむるに足るではないか。(紅旗第六十七期)

統治階級が吾々を共匪と罵り、又は匪賊と同様に取扱ふことは敢て異とするに足らぬが、異とすべきものは一個先進階級の政黨が土匪と結合せざるを以て自らを豪とすることであり、吾が多數の同志が熱血を以て造られた黨が叛徒連の爲に斯の如く墮落したことを、吾々反對派が氣死せざらんとするも能はざるものである。

然り、中國の土匪運動は、それ自身の社會的基礎を有つて居り而かも廣大なる社會的基礎がある。即ち長期に亘つて生産能力の發展が停滞してゐる爲に大量的過剰人口が出来上り、それが游民盜賊となつて定期的な戦争を形成してゐることが、中國の歴史に於ける主要なる現象である。外國資本主義の商品が中國に侵入してからは、それが中國の農業と手工業經濟を破壊し更に中國の遊民を多からしめた。特に農村に於ては、此種無職の游民の大部分は農民であり、次は手工業工人である。官僚の後裔、小地主、小商人が墮落してその中に加つて來たものも少くない。エンゲルスの所謂、あらゆる階級中の最も落伍したる分子に外ならない。彼等の活路としては、國外に殖民するか工場入りをするか、苦力となるか、兵士となるかであるが、これは僅にその一部分であつてその數も一千萬乃至二千萬に過ぎない。その大部分は即ち土匪となり、その中で最も組織力のあるものが、北方に於ける大刀會、小刀會紅槍會、中部に於ける紅幫、南部に於ける三合會等である。彼等は農村に蟠踞するのみでなく、都市にも大なる勢

力を有してゐる。此等の外各種類の名目を持つ小さい土匪團は農村や小都市に全國的に佈滿してゐる。斯の如きは當然一個重大なる問題を提供するものであるのみならず、それは社會に於ける生産力が高度の發達を見るに至らざる限り解決することの出来ない問題なのである。斯の如き莫大なる數を示すルンペン・プロレタリアが統治階級内に紛争又は動搖ある時に大規模なる騷動を起すことは、歴史的事實であつて、赤眉、黃巾より白狼、洋老人に至るまですべてこれである。これ等は失敗した部類であるが、成功した帝王もその多くはすべて此種の勢力に依據しないものはない。然し都市の發達と武器戰術の進歩とは、特に都市の産業がプロレタリアを發生せしめた現代に於てはルンペン・プロレタリアの政治的作用は從來と大いに異つて來た。彼等はあらゆる階級より落伍したる殘滓であり、完全に金錢を目的とする隊伍である。従つて反覆常なく唯利を見て動き、革命も反革命もあつたものではない。故を以てブルジョア革命黨が金錢や官位を以て彼等を利用することは出来るけれども、彼等の能力を利用して成功することは出来なかつた。孫中山の同盟會は多數のブルジョア革命青年を新軍に加入せしめることによりて滿洲朝を打倒することが出来たのであり、民國十三年國民黨が組織を改めて勞農の勢力を利用することによりて始めて北伐に成功することが出来たことなどは此の明確なる例證である。プロレタリアがすでに大革命の舞臺に登つて來た今日、吾人プロレタリア黨は尙ほ孫中山の舊政策にならつて土匪を結合し、此の勢力に依據して「紅軍」區域を擴大し、ソウエート政權を樹立せんと企圖することは、それは「只彼等が革命運動の叛徒」たる事を證明するのみである、政治的意識の淺薄なる黨員は叛徒連の詭辯的宣傳を眞に受け、遂には紅軍區域の擴大を事實とし、吾々は勝利の

可能性がある、中央の政策も亦正確である、と爲すに至る。此種の人々は、「紅軍」ソウエート」と云ふ金看板に眩惑され、現在の所謂「紅軍」や「ソウエート」の内容如何を研究せんとはしない。吾々は當然知らねばならぬ。所謂「紅軍」區域の擴大は固より事實であらうが、土匪の猖獗が全国的に普遍してゐることも亦事實である。しかもそれは決して新しい事實ではない。彼等の擴大すると猖獗を極むるとは元來由つて來る社會的基礎があり、それに近因として統治階級内部の紛争と動搖とがあるのである。叛徒連は甘んじて共產黨を土匪黨と變ぜやうとするのである。現在の所謂「紅軍」區域の外、將來尙ほ擴大の可能性あるものは例へば福建匪何金標の如き閩東幾十縣を支配してゐるから、現在の八軍の外「紅軍」第九軍となり得る。湖匪郭老大等は太湖を根據地とし、江浙兩省の湖岸數十縣の小都市を掠奪し、すでに天下第一軍第二軍を組織してゐる。これも亦「紅軍」第十軍となり得るものである。此の外にも尙ほ茫大なる大刀會、小刀會、神兵及び紅槍會等もあるが、それ等には如何なる「赤色」の組織があるのか。所謂紅軍區域なるものは、これ等の社會的基礎に根據して擴大して來るのであつて、その前途は甚だ遠大である。然しこれ等の落伍分子の塊りが完全に金錢を目的とする隊伍を作つてゐるのであるから、彼等に有利な條件でさへあれば、今日は袁文才や王佐の如く赤帽子を冠り明日は、樊鐘秀と孫殿英の如く白帽を冠るものである。斯くの如き勢力に依據して眞正なる「紅軍」を形成し、又は勞農ソウエート政權を樹立することが出来るならば、それこそ眞にスターリンの説くが如く「全國的危機と革命風潮には中國式特異點がある」のであつて、マルクス、エンゲルス、レーニンの革命理論は中國には應用することが出来ないものなのである。

軍隊の中も中國の雇傭軍隊は大部分はルンペン・プロレタリアによつて構成されてゐる。彼等は生産とは關係がないばかりでなく、一種特殊な生活様式を持つてゐるの故に獨特な生活意識を有し、所謂官兵は合法的土匪なのである。これをして最もよき軍隊たらしむる爲には、必ずや次の二個の條件を具備するを要し、かくて始めて革命闘争を行はしむることが出来るのである。

1 都市に於ける工人の闘争が進展してソウエートの成立にまで到達したとき、特に工人大衆が武装暴動を起した時に、兵士が大衆に味方することは大いに有效である。

2 統治階級が直接依頼してゐる軍隊が、致命的打撃を受けたとき。

然し現在はどうであるか。第一の條件がまだないことは誰でも知つてゐる。そして第二の條件もまだないのである。第七二期紅旗に列擧されてある三十六ヶ處の兵變も、その一ヶ所と雖も統治階級が直接依頼してゐる軍隊ではない。のみならず、それ等の大部分は正に統治階級から排除さるべき運命に在るものである。従つて此種の兵變は軍閥が急激に崩潰する明證とはならない。兵士も亦一種のルンペン・プロレタリアであり、これが一個の社會問題を形成する。兵變なる現象は土匪の如く一時に解決の出来ない問題ではあるが、然し統治階級内部が未だ統一安定が出来ず且つ財政も安固とならない中は當然免れない現象なのである。若し此の種の勢力を都市に於ける産業的プロレタリアの勢力に代つて、「紅軍」とソウエート政權とを樹立させ様とするならば、それは叛徒達の所謂「中國式特異點」以外には何等の解釋も與ふことは出来ない。

然り、吾々も亦、所謂「紅軍」中には多少の武装農民があることを知つてゐる。然し、これを數量的に土匪及び解散兵と比較するならば、それは殆んど零に等しい。のみならず、長期間のバルチザン戦争を経過して、此部分の武装農民も亦すでに生産とは關係を絶ち土匪や解散兵と同様な流寇的生活に入り、彼等と同様にルンペン化しバルチザン式戦術を以て、都市の武装暴動に際しては只堡壘を死守するのである。レーニンは曾つてこれを「新市街戦術」と稱した。若し農村に於て長期間バルチザン戦争をやつてゐるならばそれは、支那芝居の「流寇」となつてしまふのみである。かゝる流寇のバルチザン戦争がもたらす悪結果は、

- 1 武装農民は生産から切り離され、土匪と同様の生活に入つてしまふこと。
- 2 農村に於けるすべての革命的分子及び吾々の積極的な黨員等は皆軍事的組織と軍事的投機とに集中せざるを得なくなり、若し土匪や解散兵など、結合すれば、民衆運動の組織と指導とは、必ずや、最もつまらない分子の手中に落ちてしまふであらう。
- 3 農民の組織と闘争はもとより、所謂「ソウエート」までもすべてはバルチザン戦争の武装勢力と共に生滅することになり、従つて、農民大衆は只一種の武装した特殊勢力即ち謂ふところの「紅軍」のみに依頼してこれを堡と爲し、彼等自身の組織力及び闘争力を信じなくなる。
- 4 バルチザン戦争を経過した地方では強力なる農民が皆「紅軍」に加入し、残つてゐるのは懦弱な分子だけであるから、白色軍の鎮壓と報復があれば、此の地方に於ける組織と闘争とは必ず若干年間はその發展が絶望となる。

る。斯の如きバルチザン戦争は、只眞に革命を妨害する最良の方法たるに過ぎない。

赤衛軍なるものは都市に於ける工人が武装暴動をやる時の大衆組織であり、紅軍は、工人が政權を取得した後に於ける軍事組織である。現在各大都市の工人は未だ反革命的勢力の統治下に於て壓迫され、動きが取れない。そして吾が黨は能力を此方面に集注して刻苦工作を爲さず、政治的中心を離れた、最も都合のよい農村に於て、此等の土匪や解散兵及び失業農民を糾合して紅軍の稱を冒してゐるのである。斯の如き紅軍を以て革命を爲さんしてゐるが、それは眞正なる紅軍は革命から生れるものであることを忘れてゐるものである。先進國の幾多の制度も一度中國に入つて來れば有名無實となる。現在の所謂「紅軍」も亦同様である。これこそ眞に「中國式特異點」であるのか。

中國革命が再び起るか否かは、主として都市に於ける工人階級の闘争によつて決定されるもので、單にブルジョア統治階級内部の紛争や動搖によつて決定されはしない。ルンペン・プロレタリアは固より工人革命の闘士でも又は助力者でもあり得ない。農民と雖も農業國家の革命に於ては偉大なる作用を有つてはゐるが、それでも、從來彼等自身の獨立的作用もなく従つて又獨立を以て成功することは出来なかつた。特に資本主義關係の統治社會に於ては只二個の階級（有産と無産）の能力が一切を決定するものである。經濟生活に於ても農村はすでに自足經濟時代から脱出し、都市に隸屬してゐる。従つて都市と離れては根本的に自存は不可能である。農村に於ける多數の武装隊及び政權も、その獨立的存在を久しく維持すべき何等の方法もなく、都市に於ける工人の革命運動が高潮してこれ

を指導するでなければ農民暴動も行きづまりである。のみならず、工人階級とは反對の方向に走つたり、工人階級の政權がなかつたりしては、徹底的土地革命は實現することが出来ないものであり、すべての土地を沒收してしまつてはブルジョアジイの議會政治も不可能であり、農民暴動も亦出来はしない。歴史は吾々に告げる、只ロシアの十月革命のみが徹底的に土地問題を解決したのであつて、その餘の農民暴動は只富農即ち農村ブルジョアジイの發展を阻止したに過ぎない。レーニンは云ふ。目下の革命に於ける階級の對比することが、革命的政黨の主たる任務である。目下中國の都市に於ける工人闘争が表現してゐる階級の能力の對比はどうであらうか。叛徒連は説く。

「今や全國的罷工風潮は、湧くが如く發展を續けてゐるではないか。日に増し國民黨や右翼工會の影響下から脱離して、斷然革命的闘争の方向に進んでゐるではないか。上海、天津、唐山、青島、哈爾濱、武漢、廣東等到處ところ巨大なる罷工が勃發してゐる。これこそ中國の革命的浪潮が復興しつゝある主たる象徴でなくて何であらう。」

(第七十二期紅旗)

若し果して右の如くならば、革命の高潮は目前に在る。吾々は當然全力を集中して都市工人の武装暴動を準備しなければならぬ。何の故に農村などに走つて土匪、潰兵又は失業農民などを組織して「紅軍」を作るのか。その實、都市に於ける統治階級たるブルジョアジイは、工人に向つて更に壓迫を加へ、勞働時間の延長、賃銀減額、誣首、組合の禁止、一組としての賃銀減額、工場規則の嚴定、損害保證等を爲さしめ、そして不斷にルンペン的巡捕を雇傭して工人を毆打し(最近上海に於ける永安、新怡和、申新第七工場等の如く)又は銃殺さへもしてゐる。(最近上海に於ける

エヂソン電球工場、祥昌綿織工場、三星綿織工場の如き)而て工人闘争は未だ經濟的罷工から政治的罷工にまで進展してはゐない。その主たる原因は、工人階級は、前回の革命に於て重大なる失敗に遭遇してゐる爲に今に至るもその組織を恢復することが出来ないことである。従つて工人が自己の工會を有たないのはもとより、國民黨の右翼工會も亦大衆を有つてはゐない。而かもこの二年以來の資本家に對する經濟的罷工はその大半は無組織の闘争なるが故に失敗してゐるのである。スターリン派の盲動政策(如何なる小闘争と雖も、すべてこれを意識的に強迫して大政治罷工に進展せしめると云ふ)はかくてその失敗の度を速にし、その故に、工人大衆は往々にして自働的闘争を起し共產黨と接近するを願はなくなつて來た。銀暴落と米價の騰貴してゐる今日では工人の經濟的闘争は遅かれ早かれ必然的に普遍化して來るであらう。而て此の將に興らんとする闘争に對し、過大にこれを見積り、これを革命の復興であると看做して盲動政策を以てこれを指導するならば、この自然發生的闘争も革命の高潮にまで至らないうちに夭折させてしまふであらう。叛徒連も亦自ら、都市に於ける革命の高潮の復興が、すでに農村暴動を指導し得るまでに至つてゐるとは信じてゐない。彼等自身も、

「革命の主觀的實力が尙ほ充實せず、特に黨の組織能力には尙ほ不健全なるものがある(中央通告第六十八號)と説いてゐる。そしてこれはスターリン派のコムミッテルンの云ふところである。即ち、

「赤色工會の大多數(實際はその半分位が赤色工會である)は尙ほ大衆的組織ではなく、國民黨右翼工會の影響も甚だ大きい。國民黨の改組派の影響は(北方)右翼工會に於て特に有力である。國民黨の右翼工會内に於ける工

作も未だ眞の實行には入つてゐない。そして共產黨は、生産機關内に於ける主たる革命的工人幹部を自己の周圍に團結せしめて大多數の工人階級を戦ひ取る任務もよく盡されてはゐない。共產黨は更に解決すべき任務を加重してゐるのである。〔一九二九年十月二十六日コムミッテルン政治秘書處の中國共產黨中央委員會に宛てたる信書〕

都市に於ては未だ大衆的組織がなく、黨の組織能力も亦不健全であり、従つて工人階級の大多數も戦ひ取ることが出來ず、主たる革命的工人幹部を黨の周圍に團結せしむることも出來ないのである。斯の如き状態では、工人革命を高潮させて農村暴動を指導するなど、云ふことがどうして出來るか。プロレタリアのヘゲモニー獲得を實現させることも出來はしない。共產黨の指導権があると説くも工人大衆の組織と離れては、共產黨に何が残るか。全國總工會に對する指導権があると説くも、一體全體には幾つの工會があるのか。全國總工會なるものは殆んど雜章龍それ自身と云ふも差支へないではないか。又若し共產黨員が「紅軍」中に在つて指導工作を爲してゐると説ふならばそれは管に幾つかの鹽粒を水桶中に投ずると同様、水に鹹味を及ぼしめることが出來ないのみならず、その生活方法と環境の關係から、遂にはルンペン化し、流寇化してしまふであらう。叛徒連は現在も尙ほ共產黨の看板を掲げて口には、プロレタリアのヘゲモニーだとか、バルチザン戦争によつて都市に於ける工人の指導権を獲得するところが……唯一つの勝利への途であるとか、又は、最も主たる革命の高潮の象徴は、工人運動の復興であるとか云ふてゐるが、それは皆自己をカムフラージュするものであつて、事實は、彼等自身別に一個の根本的理論を有つて居て、そしてそれは以上の説とは全く相反するものである。コムミッテルン政治秘書處の中國共產黨中央委員會

に宛てた信書に曰く、

中國の……革命的風潮は、別に一個の特異點がある。それは即ち農民戦争……回教民の暴動、紅槍會等の類の暴動……である。農民戦争及びバルチザン戦争に對し、黨内には、その勢力を過少に見積る傾向があるが、それに對しては斷然反對し、そして兵士に對する工作により多く意を注がねばならぬ。

この故に中央第六十八號通告には、

固より、全中國に於て革命の高潮の將に到來せんとする主たる象徴は依然として都市に於ける工人闘争の復興である。然し此の二ヶ年來繼續してゐる農民の土地闘争と紅軍の發展とは、豪紳、資産階級、國民黨の統治が決して安定の可能性がないと云ふことの確なる反證である。而かも軍閥戦争の繼續は必然的に軍閥崩潰の路をたどり、ソウエート區域と紅軍の擴大となり、それが新なる革命の高潮を決定する主たる動力たらんとしてゐることも確實である……目下農村ソウエートと紅軍の發展とは最も困難なる闘争時期である……吾々は此の闘争をして單に南方に於ける幾多の農村に發展せしめるばかりでなく且つこれを大都市にまで影響させねばならぬ。

又此の通告の劈頭には、

一九二七年中國大革命が失敗に遭遇した爲に、プロレタリアは莫大なる損傷を蒙つた。然し南方農民の土地革命は、此の故には死滅せず、反つて中國共產黨が日和見主義的指導(?)から脱却して斷然大なる苦痛を忍んで地主豪紳への反對闘争に深入した爲に、湘、鄂、贛三省の秋收暴動は、發展蔓延して南方に於ける遊撃戦争を形成し

た。……紅軍の發展は朱毛の第四軍より、最近は鄂東に於ける大冶の兵變によりて第八軍まで成立し、合計五萬を下らざる武力が集められ、それが兩廣、閩、贛、湘、鄂、豫の諸省に散布されてある……此の偉大なる革命的事實の存在と發展とは、反動統治派の新聞と雖も否認することは出来ないものである。

そして第七二期紅旗には又説く、

清算主義者は、現在中國には尙ほ未だ革命がない、中國はとても赤軍などを有つことは出来ないだらう、と根限り叫んでゐる。然り赤軍は革命の生産物であつて、ソウエート政權下の軍事的組織形式である。然し清算主義者は現在中國には、長期間に亘つて深蝕し且つ擴大されつゝある土地革命があり、土地革命の發展は更に統治階級の矛盾を激烈ならしめ、そして中國の經濟的及び地理的條件は遂に南方各地にソウエートを建設したものであることを了解してゐないのである。此等のソウエート中には、廣大なる農民のバルチザンの隊伍があり、地方的暴動を起す勞農の武装(?)もあり、これが全国的に普遍してゐる兵變と共に皆土地革命の深刻化とその擴大とを圍繞して、漸次變轉して赤軍となるのである。これが、清算主義者の了解せんとせず、又することも出来ないところの事實なのである。

中國の大革命は失敗に歸し、プロレタリアは莫大なる損傷を蒙つたけれども、然し農民は依然、繼續して中國革命の任務を負擔してゐるが、今日に於ては更に兵變、土匪、神兵、回民、紅槍會、大刀會等の組織する所謂「紅軍」が日々に發展し來り、従つて黨の組織能力は尙ほ不健全となり、都市にも未だ大衆的組織はなく、而て又斯の如き

「紅軍」によりて農民のバルチザン戦争を指導し、それを大都市に影響せしめて新なる革命的高潮を決定し、土地革命を完成し、ソウエート政權を樹立すると云ふことが、彼等の理論によつて甚だ明確に表はされてゐる。これこそ所謂「中國式特異點」であつて、吾々反對派の了解し得ないところなのである。斯の如き「中國式特異點」によつて演じ出されるところの「農村を以て都市を指導すること」や「ルンペン・プロレタリアが工人を指導する」革命政策は、誠にマルクス、レーニン主義を奉ずる反對派はどうしても了解し得ないところなのである。

彼等の此種の理論は、始終一貫したる思想であつて、決して偶然性のものではない。中國の革命には、マルクス、エンゲルス、レーニンなどの考へ及ばない民族的特異點がある爲にアルチョアジイが特によく革命を指導することが出来るのであり、その故に中國の共產黨は國民黨の組織内に加入することが出来るのであり、そしてその爲に中國の國民黨は今に至るまでソウエートに代ることが出来、従つて土匪、散兵、失業農民等の組成する「紅軍」に依據して都市の工人の代りになつて革命的高潮を決定し、その故に、從來、工人大衆に對し國民黨の北伐を擁護し、歓迎すべきことを宣傳したが、今日では、工人大衆に對する宣傳が「紅軍」の擁護と歓迎となり、かくてそれは常にプロレタリアの知識階級が、自己の解放と全民族の解放の使命を自己の雙肩に負擔し、而かも此のプロレタリア知識階級は自己以外の一特殊なる勢力を擁護し歓迎することによりて自己を解放せんとしてゐるのである。

然り、以前の國民黨北伐軍の發展と現在のルンペン・プロレタリア(土匪と解散兵)より成る「紅軍」の發展とは、すべて客觀的事實ではある。然し、吾々は客觀的事實にのみ拘泥することによつて、プロレタリアの階級的立場よ

りする根本的原則を忘れてはならない。これを忘れることが即ち機會主義發生の源泉なのである。機會主義とユートピヤン主義とは同一ではない。一は理由なき空想であり、他は、明確なる客觀的事實に根據するものであり、此の客觀的事實に根據するといふ事は、マルクス主義者も亦輕視すべきものではない。若し甚だ明確なる客觀的事實にして以て口實と爲すに足るべきものゝ誘惑がなかつたならば、マルクス主義者中に機會主義的右傾派を發生する筈がないではないか。一八四八年西歐大革命後に於ける各國資本主義の平和的發展こそは明確なる客觀的事實であり、これに根據し、これを口實としてマルクス主義を曲解したことが、西歐に於ける機會主義發生の客觀的原因である。東洋に於ける殖民地ブルジョアジイ、民族的民主的革命時期に於て客觀的事實として、此の民族が歴史的に又經濟的に幾多の特殊なる現象を形成してゐることは自然免かれ得ない現象である。従つてプロレタリア政黨は政策運用に際し、當然十分に此等の現象に注意すべきではあるが然し、若し此等の特殊なる客觀的事實の要求するところに根據して、これを出發點と爲し、世界的プロレタリア革命の階級的立場を離れるならば、それは必然的に機會主義となるものである。此の理を理解しないものは、何人と雖も最後まで機會主義の陷穽から脱し得ないのである。

吾々は再び一步を退いて客觀的事實に従つて、今日の所謂「紅軍」の内容如何を檢討するであらう。

1 鄂豫皖交界の第一軍は、鄂東北部なる黃安、麻城の三十一師、豫省東南部、商城、光山、羅山の三十二師及び皖省西部六安にて編成中の一師を組成分子とするものである。第三十一師は一九二七年の秋收暴動後成立し

たもので小銃五六百挺、兵數一千前後、農民がその成分の多數を占めてゐる。第三十二師はその地方の民團、土匪、富農が合同編成したもので、小銃三四百挺、師長及參謀長等の重要分子は多く土豪、劣紳の出身にして、縣委員とその師長とが勾結して會つて黨の代表を謀殺したことがあり、しかも彼等は保境安民のスローガンをうるて中央の派遣した工作人員を拒絶し、最近では中央から派遣された黃浦學生某が三十一師の工作を受持つことになつたけれども、此の地方の紛糾が未だ解決されず、従つて冒險までして工作せんとはしなかつた。六安附近には近頃二百人餘りの土匪(大刀會)があり、その一部は民團と農民小暴動後の失業農民である。その數合計三四百人、殆んど小銃はない。

2 湘鄂交界に在る賀龍の第二軍は全部土匪であつて、所謂賀兄イの舊部下である。人數も確定的のものではなくして、この「紅軍」は從來黨及び農民とは少しの組織關係もなかつた。

3 贛省西部の吉安一帯に在る第三軍は、その地方の小部分の失業農民及び體陵萍鄉から逃げて來た農民の外は全部井冈山に立て籠つてゐた土匪及び江西警察大隊、吉安の靖衛隊聯防隊及び金漢鼎部の兵變を起した兵隊であつて、合計、一、二、三團と一、二の兩大隊とで約三千人銃數と人數とは殆んど合致してゐる。

4 朱毛の第四軍は恐らくあらゆる「紅軍」中最も農民と黨の基礎があるものであるが、而かも朱、毛兩首領はすでに暗闘から明争となり、毛澤東は會つて朱徳の部下に、手紙を以て、朱徳は私人關係を利用して自己の勢力を造成し黨の支配を受けないと罵り、朱徳も亦公開狀を發表して、彼は黨と大衆團體の關係を少しも明かにし

ないと罵つてゐる。紅軍自身も亦一個の大衆團體である。黨は決して直接にそれに命令することは出来ない。黨の特派員は會議を召集して、解決するものであつて御互に排斥してはならないのだ。中央に呈請して彼等の工作を撤去させようとしても、それは事實上出来ない事なのである。

5 湘鄂贛省境の第五軍は、その主たる成分は彭德懷部の叛兵と王佐、袁文才等の土匪で、農民は殆んどないと云ふてもよい。彭德懷は王佐等を土匪と罵り、王佐等は彭を軍閥であると罵つてゐる。今日では彭は王佐等の「紅軍」と開戦するに至り、王佐等の「紅軍」は遂に反共産、反彭德懷の旗幟を掲ぐるに至つた。

6 鄂西、宜昌、沙市一帯に在る第六軍も亦土匪と新編一師の一部の變兵によりて組織されてゐるもので人數及び銃數は不詳である。「紅旗」によれば此の部隊(新編一師を指す)には、吾々の使用し得る銃が四千あるが旗幟が十分鮮明でないのを惜むと謂ひ、又彼等は未だバルチザン戦争を擴大する決心がついてゐない、とも云ふてゐる。

7 廣西、西邊の第七軍は愈作相の舊部をその主要部分とするものである。愈軍中には元來二人の同志が大隊長をやつてゐた。愈軍が粵軍に敗れてからは此の二つの大隊の一部分が、百色、恩隆に退却して赤旗を掲げたが間もなく李宗仁の軍隊の爲に敗れて龍州に敗走し、そこでも又桂軍第八師及び安南のフランス軍の夾撃を受けて山中に潰走したものである。此の紅軍の龍州に在る時に「廣東人を殺せ」をスローガンとしてゐた。

8 鄂東南の第八軍は小部分の失業農民の外は殆んど潰兵を改編せるもので、その主たるものは獨立十五旅であ

る。湖北から來た人の話によると、彼等及び第五軍は湖北では、地主及び富農の土地財産を犯さず、且つ極力商業を保護し、土豪劣紳に對しては、金を要求するのみで殺害せず、かくして經濟的生存を計つてゐる、といふ事である。

その他の小規模なる紅軍は、贛東なる横峯、弋陽一帯の方志敏、邵式平が收編したその地の土匪及び景德鎮附近の潰兵、陽明山に於ける周文所部の土匪、四川に於ける曠部の變兵等の如きも今日では皆「紅軍」中に算へられてゐる。此の外にも「紅旗」上に大いに書き立てゝある「赤色閩西」にはまだ第何軍も組織されてはゐない。最近その地方から來た二人の同志の話では、朱毛の紅軍が侵入してから、省城には政變があつた爲に閩西各縣の駐軍は皆外處に行つてしまつた。この爲に農民運動と紅軍とは自由に發展する機會を得たのであると云ふ。然し「紅軍」の大半は土匪であつてその一部は潰兵であり、農民運動の指導者の大半は富農及び中農である。従つて彼等自身の問題さへ適當な解決を得れば、紅軍及びソウエートに對しては皆甚だしく冷淡になり、紅軍に参加しやうともしないと云ふことである。而て紅軍及びソウエートは極力商人を保護し、且つ、工人の賃銀値上要求を禁止する告示を出してゐるといふ。(これは商人の利益を代表するばかりでなく、農民にも亦斯の如き要求があるのである。)

以上の事實を綜合するに、所謂「紅軍」の成分なるものは大部分レンペン・プロレタリア(土匪と潰兵)であることとを知ることが出来る。而かも彼等はすでに内訌を起して居り、そして農民ブルジョアと妥協せんとする傾向を有

するものである。これ等は皆客觀的事實であつて、此の客觀的事實が説明するところのものは、革命的高潮を決定するといふ所謂「紅軍」、この偉大なる革命的事實の存在と發展とは「確實」にその「中國式特異點」を有つて居り、而かもそれは民衆自身の直接的武装勢力とは何等の共通點もないのである。

理論上よりするも又事實に就いて見るも、斯の如きルンベンの「紅軍」の發展は少しも革命的高潮を決定すべき可能性を有つてゐない。かゝる時には黨内ばかりでなく黨外に於いても一部のブチ・ブル分子が統治階級に對する憤懣から遂には所謂「紅軍」の發生を夢想するものである。然しブチ・ブルの一般的政治的欲求は終いにブルジョア民主主義の範疇を出ることは出来ない。故を以て彼等の憤懣も夢想も、時には吾々に有利であるときもあるけれども、吾々プロレタリア前衛軍が、若し彼等の政治的意識に追隨して前衛軍と成らず且つはプロレタリアやブチ・ブル的意識から解放出來ず而かも自己の階級的意識に根據し、自己の階級的能力に遵據して政策を決定するのでなければそれは便はちプロレタリアの反逆者であるのである。

都市に於ける工人の革命的指導による所謂「紅軍」がなかつたならば、その結果は次の三つの場合以外に何等をも獲ることが出来ないであらう。

- 1 統治階級に内部的戦争が一時中止され「紅軍」は重ねて潰滅されるか、又は買収される。
- 2 自身の内鬨によつて潰散してしまふ。
- 3 漸次農村ブルジョア(商人と富農)と妥協し、彼等の「白軍」となり、或は彼等の經濟的手段に壓迫されて潰散し

てしまふ。

吾々は、所謂「紅軍」運動の失敗を將來に豫言することが出来る。(この失敗とは直ちに完全に消滅してしまふことを云ふのではない。何となれば中國の土匪問題は一時に解決は不可能であるからである。)スターリン派のインターナショナルは必ず又それは中國共産黨の罪であるとして、未だコムミッテルンの「特に工人の罷工闘争に注意すべし」「工人階級の大多數を戦ひ取り」「プロレタリアのヘゲモニーを獲得せよ」等々の訓令を遵守することの出來ないものであると謂ふであらう。その實彼等は「全國的危機と革命風潮には中國式特異點がある」と、「黨内に於て、農民闘争及びバルチザン戦争に對する能力算定が不足であることに斷然反對し、更に多く兵士間の工作に意を注ぐ」べきことを以て中國共産黨を指導してゐる爲に、ルンベンのプロレタリア的意識と農村ブチ・ブル意識が、由來濃厚なるものがあり、而かも軍事的投機に慣れた中國共産黨は、コムミッテルン指導機關から斯の如き指導を受ければ、自然更にルンベニ化し、ブチ・ブル化し、従つて自然全力を農村バルチザン戦争に集中することとなり、同時に都市に於ける工人大衆の組織と闘争工作に對し「更に多くの」注意を拂ふことが出來なくなるであらう。これこそはスターリン派の許すべからざる罪惡であり、そして、それは中國革命に對する指導の最後の破産となるものである。

(四月十三日)

三 陳獨秀の見解を駁す(ソウエート區域と陳獨秀)

清算派陳獨秀等は、國民黨統治の安定を頌歌し、中國の現在は「經濟復興」の時期であつて、革命的高潮も、又その

象徴もなく、むしろその反対現象があると彼等は説く。そして中國の革命的高潮は必ず「經濟復興」といふ一階段を經過して「工人が再び工場に集つて来る」ことを必要とし、かくして始めて「工會及び共產黨の影響を擴大する條件」を造成することが出来るといふのが彼等の意見である。従つて彼等の見解によれば現に中國に於て發生しつつある事實は、工人が工場の外に分散することであつて、従つて「工會及び共產黨の影響を擴大する條件」ではあり得なく、そしてもとより革命的高潮の前提たり得ないのである。その故に陳獨秀は極端に現在のソウエート區域なるものゝ存在を欲せず、むしろその完全なる取消を主張し、ソウエート區域及び赤軍を罵ること國民黨が、「共匪」としてこれを罵るのと、完全に一致してゐるのである。陳獨秀が清算派の機關紙である「無産者」第一號に論じてあるものを見よ。即ち、

「思ふに朱徳の指揮する所謂「赤軍」なるものは、一九二七年葉挺、賀龍が失敗した後の殘餘軍隊に土匪を加へたものであつて、湘、閩、粵の邊境に流轉し、バルチザン戰爭に従事したり、移動式なソウエートを組織したりしてすでに二ケ年を經過したものである。それは地理的に都市と離れた僻遠であり、従て統治階級が重視しない爲に存在したのであり、又湘鄂間に於ける賀龍、湘贛間に於ける彭德懷、王佐等の如きも同様なる基礎と同様なる状態の下に在るのであつて、勞農大衆の組織したる赤軍ではないのである。従つて又何等民衆革命の復興を興起する表現とはならないのである。……」

「……その實廣大なる民衆の革命的高潮はその到來が不可能であり、此等の所謂「赤軍」も終に久しきに亘る存在は不可能となるであらう。若し存在し得るとすれば、そして又それ以上に發展し得るとすれば（土匪解散兵を根據として所謂「赤軍」區域が増加すれば、それは中央委員會あたりが最も得意になつて威張り散らすだらう）その時には勞農大衆とは脱離して深山に竄避したり、或は僻地を次から次と轉じて行く武装勢力となり、従つて簡単に新式な流寇と變じてしまふことは必然である。そしてそれは幾多のよき同志を犠牲とし、生存する者もその生活方法と環境の關係から日々にルンペン化して来るであらう。のみならず、内部的に首領間に權力争ひが起り黨とは脱離してしまつて、革命運動に對しては一點の意義も、又希望もないものとなつてしまふだらう。一步を護つて斯の如き不良なる結果とならないとしても少くも革命の進行過程に於いてはプロレタリアの革命政策とは全然相反した方針を探り、従つて「ルンペン・プロレタリアが農民を指導し、農民が工人を指導し」そして農村が、都市を指導することになるであらう。

陳獨秀の斯の如き言葉に對しては、吾々は階級的立場よりする回答を與ふるすべを知らない。吾々は只二個の階級の立場より回答するだけである。即ち「今日の中國に於ける土地革命過程に於ては、幾多の大衆闘争的政治的組織と武装とを發生した。帝國主義、買辦、資産階級、地主、豪紳等はこれを『土匪』『流寇』と稱し、勞農革命大衆はこれをソウエート及び赤軍と稱するのである。君は如何なる階級的立場より見るのであるか」

原則的には、陳獨秀は、完全に帝國主義、地主、買辦、資産階級の觀點に立つものである。その故に事實は一片の語と雖も反革命ならざるはない。その主要なる部分の幾つかを擧げて見やう。朱徳の指導する赤軍第四軍は、朱

德、毛澤東、自身の報告によれば、貧農が六〇パーセント、従来兵士たりし者が三〇パーセント、工人が六パーセント、學生及びルンペンその他が四パーセントである。此の成分はその大多数が貧農なることを示し、何人と雖もこれを土匪と看做すことは出来ない。地主階級の觀點よりすれば、長期間封建的掠奪を蒙つて破産したこれ等の貧農は當然「土匪」或は「新式流寇」であり得るだらう。陳獨秀の意見は、此の意味に於て正確であるのみである。彼は、現在のソウエート及び赤軍は只統治階級の不注意を利用して生存し得るのみであると云ふが、これは全然見透しのかかぬ話であつて、實に赤軍及びソウエート區域の三年來の歴史は「三省又は五省の共同討伐」が絶えなかつたではないか。國民黨の「討逆總指揮」又は「清鄉督辦」は數十百人の將軍に討伐を命令したではないか。そして赤軍及びソウエートは此等の武装闘争の過程に於て擴大しそして發展し來つたものではなかつたか、恐らく陳獨秀は、國民黨の共產黨討伐軍隊がまだ少な過ぎるとでも思つてゐるのだらう。而かも尙ほ此等の「新式流寇」の存在することとは、陳獨秀先生にとつては憤慨に堪えないことであつて、大いに「筆を投じて我に従ひ」敵を前にして纏を請ふべきである。

何をか「土匪」と云ひ「新式流寇」と云ひ「ルンペン・プロレタリア」と云ふか。これは統治階級が吾等を罵る言葉であつて、吾々の問題とはなり得ない。吾等はすでに幾多の偉大なる事實を爲した。そしてそれは現在より將來に亘つて永遠に繼續するであらう、地主、豪紳の統治を消滅し、土地を沒收分配し、國民黨を消滅して自己の政府を樹立し、自己の軍隊を建設する事等々が即ちこれである。陳獨秀先生の呪罵を勞せずとも、帝國主義、資本家、地主は

早くもすでに吾々を土匪流氓と罵つてゐるのである。

然らば、農民が工人を指導してゐるか、絶対に然らず。吾々は農村に於てプロレタリア政黨の革命的政綱を執行し、農村に於ける革命的闘争を擴大してゐるのである。そしてそれを都市に於ける革命闘争と配合し、最後の勝利は當然廣大なる都市プロレタリアの指導下に於て爲さるべきである。然し農民が坐して動かなかつたならば、又農民が工人暴動が起るのを待つて始めて動き出す様な事であれば、プロレタリア政黨が農民を指導し、都市、農村、又は兵士等の各種の革命闘争を合流せしめるのでなければ革命の全國的勝利を促進することは出来ないものである

(問友)

四 トロツキーへの回答

トロツキーは「中國には如何なる事情が発生したか」なる文章を發表し、朱、毛赤軍の發生、發展及びその前途に對して疑をさしはさんだが、それは只共產黨の「盲動的感情」と「冒險主義」への懷疑であり、そして、「スターリンが製造した暴動が革命の第三期を證するものである」ことを懷疑してゐるものである。陳獨秀は更に直截簡明に「所謂赤軍はすべて土匪である」と答へてゐる。これ等は、トロツキー主義の根本誤謬を完全に暴露してゐるもので、それはトロツキーが完全に中國の實狀を了解してゐないことを證明すると共に、彼等の反動的思想をも完全に暴露し、且つ無恥にもブルジョアの口吻を以て中國の革命運動を汚辱する謠言を放つものである。

自分は次に總括的に、正面からトロツキーの問題に回答を與るであらう。

赤軍は「如何にして起つて來たか」

赤軍は土地革命過程に於て聚集した廣大なる勞農の武裝的隊伍が生長して出來たものである。それは、中國の封建的勢力の存在が、特に農民に對する搾取が殘酷である爲に、異常に急激なる土地革命を造成し、それが土地革命に於ける殘酷なる武裝的闘争となり、そして廣大なる民衆の革命的武裝、即ち赤軍となつたのである。トロツキー派は封建的勢力の存在を根本より否認し、従つて反封建的土地革命を否認し、その結果、赤軍が如何にして發生したかを了解することが出來ないのである。

赤軍の「前途は如何」

赤軍の發展は一般的革命的形勢の發展に隨伴するものである。實に、統治階級は如何にしても安定し得ず、軍閥の戦争は繼續し擴大し、特に工人、農民は日に増し闘争を高潮せしめつゝあるため、その故に、斯の如き一般的革命的形勢の發展と共に赤軍は迅速に擴大して行くのである。故に赤軍の目標は工人闘争高潮、農民運動、兵變等と合流して、ソウエート中國の完全なる勝利を戦ひ取ることである。トロツキー派は、中國の統治階級がすでに安定し、工業は復興し、而して革命は低落（これは正しくあき盲目である）してゐると認むるが故に、自然彼の頭腦では赤軍の前途を考へ出すことは出來ないのである。

最後に、紅軍とは「結局何者であるか」に答へやう。

赤軍なる怪物が中國に於て斯くも迅速に發展したことは、中國それ自身から帝國主義者に至るまで、皆驚きあき

れた事である。如何なる地方に於ても、如何なる種類の人間でも、又は如何なる時期に於ても、悉く赤軍の事を論ぜざるはない。然し他の階級を同じくせざるもの、同じ家の住人でないもの及び集合を同じくせざるものは、同じ議論を吐くといふことは絶対にない。軍閥、官僚、地主、豪紳、資産階級の人達は、都て赤軍の發展に震駭し、狂氣して、赤軍を土匪と罵り、工場、貧民窟、農村、兵營等では、即ち勞農兵大衆は、欣喜、雀躍して赤軍の勝利を謳歌し、悉く赤軍に参加せんことを思ひ、その他にも赤軍の來着を望んでゐる多數のものがあることは、赤軍が一旦び到れば直ちに百千萬大衆の擁護を得る明證でなくて何であらう。斯の如く階級を異にすることによつて赤軍に對する異なる議論の生ずることは、何等怪しむに足りない。不幸にして陳獨秀等は、國民黨、改組派、豪紳、資産階級と同様赤軍を土匪と罵つてゐるが、それは直ちに陳獨秀が如何なる觀點に立つものであるかを示すであらう。吾等にはすでに惜嘆がない。只階級的悲憤あるのみである。（李立三）

第二編 ソウエート政權と赤軍

第一 ソウエート中國の發生

一 革命的政權樹立の問題

資本主義の世界的危機と世界革命の發展過程に於て中國の革命的高潮の形勢も日に増し接近しつゝある時に際し今や全國的革命的大衆の刻下の問題は實に革命的政權樹立の問題である。すべての革命に於ける根本問題はすなはち政權問題であるとレーニンは謂ふ。只革命的政權を樹立したる後に於て始めて能く革命的政綱を執行し得るものであり、又革命のすべての根本的任務を解決し得るものだからである。

今や國民黨統治は完全に地主、買辦及び豪紳、資産階級を代表し、且つ中國に於ける帝國主義者の利害を代表して、専門に勞農大衆を壓迫するものであることは、明瞭なる事實である。國民黨の統治下に於ては、すべての、政府、法律、軍隊、警察、監獄等は勞農を壓迫する爲に設けられてあり、従つて勞農大衆は政治的にも何等の保障もなく、あらゆる自由は綺麗さつぱりと剝奪されてしまつてゐる。

斯の如きを以て中國革命の根本問題は必然國民黨政權の打倒でなければならぬ。全國的革命的形勢の發展過程に於て吾々の爲さねばならぬ問題は革命的政權を組織することであり、これを革命工作のあらゆる議事日程に提出す

ることではなければならぬ。

然らば吾々は如何なる政權を組織すべきか。吾々の組織すべき政權は過去に於ける搾取階級のすべての政權と異なるものであることは當然である。過去に於けるすべての搾取者等の組織する政權は官僚的政權である。總統制度、國會制度、内閣制度のその何れたるを問はず、如何なる表面的宣傳を爲し、又は「自由」「民主」等の看板を掛け様と、彼等の國家政權は一部官僚の専制であり、全國的勞農大衆をして政治に参加せしむる何等の可能性をも與へてはゐない。

表面上は「全民政府」であるが、實際は完全にブルジョアジイの専制である。國民黨の政府なるものは、此のブルジョアジイの如く自己をカムフラージュさへもしない、全く赤裸々なる軍閥専制である。

吾々の要求する政府は、政綱だけ勞農大衆の利害を代表するものではない。實質的に勞農大衆が自ら掌握してゐる政權でなければならぬのだ。そして吾々の政權は根本的に官僚制度を消滅し、勞農及び一般の直接に生産事業に参加してゐる民衆が、親ら、自己の政府を組織することではなければならぬ。その故に革命的大衆的政權なるものは勞農兵の代表會議によりて組成さるべきでこれが最高政治機關となるべきである。政府の責任者はすべて直接會議によつて選舉し、大衆の監督と幫助の下に工作すべきもので、従つて大衆會議がこれを取消し又は撤廢させ得るものである。斯の如き真正なる勞農大衆を打つて一丸としたる政權こそは、吾々の要求するソウエート政權に外ならぬのである。

ソウエート政權の下に於ては、買辦、地主、豪紳、資本家はすべて徹底的に掃倒し、彼等には、何等の自由又は平等を與へてはいけない。ソウエート政權は眞の廣大なる自由、平等、及び民主を實現すべきものであるが、然しこの自由、平等及び民主は只勞農大衆のみが享受し得るものでなければならぬ。ソウエート政權はすべての搾取階級と反革命勢力に對しては、斷然極端なる壓迫手段を採用すべきである。何となればソウエートは勞農の民主專制であるからだ。

吾々が奮闘する所以は、實に全國的ソウエート政權を樹立する爲である。此の政權によつて始めてあらゆる革命問題を解決し得るものだからである、この故に吾々のスローガンは、

『ソウエート中國萬歳！』

(向忠發)

二 何故中國にはソウエートがあるか

國民黨が革命に背反して以來、彼等はすでに、從來の封建軍閥よりも更に聰明なる勞農大衆の死刑執行者となつた。彼等は、回教徒が牛を殺すときと同様、似非仁義を盾として主觀的自慰を行つてゐるのである。國民黨は、改良主義的欺瞞手段を以て革命の緩和と消滅とを企圖し、古今未曾有の最も兇惡なる白色テロル政策を用ゐて勞農闘争を鎮壓せんとしてゐるのである。然し中國の統治階級は常に何等の經濟的勢力もなく、従つて改良主義の實行力もない。國民黨も始めから改良主義は實行不能でもあり、しやふともせず、又大衆の反抗を押へることも禁ずることも出来なかつたのである。

過去一年間、都市工人闘争の發展、南方に於ける赤軍の擴大、バルチザン戦争の發展、地方的ソウエート政權の成立等一つが倒るれば他が起り、今や普遍的事實となつた。ソウエート區域は粵、桂、閩、贛、湘、鄂各省の大半以上がすでに赤軍の版圖となり、バルチザン戦争は江、浙、皖、豫、直等の北方各省に普遍し、それが平均に發展しつつある。

然し、今日では、これに對して未だ疑を懐いてゐる人がある。彼等は未だ中國の革命の高潮はないと認め、従つてソウエートも發生し得ず又存在することが出来ないと言ふ。これは中國共產黨から除名されたトロツキー派であり日和見主義者である陳獨秀一派の革命清算の錯覺である。此の清算主義的傾向は獨り陳獨秀一派のみならず、中國革命の特殊形態とその眞實の意義を了解してゐない一般大衆の中にも、或は多少此種の錯覺を抱いてゐる者がある。全國的革命高潮が未だ到来しない時に於ても、中國の革命の大衆は勞農兵自身のソウエート政權を要求するばかりでなく、而かも中國革命の特殊の發展状態に在つては此の政權の實現は確實に可能性があるのである。これは決して革命的大衆の主觀的願望ではなく、實に客觀的條件の存在があるのである。その客觀的條件は次に説くであらう。

第一、中國の一般的經濟が後れて居ること及び、地理的關係によりその經濟的發達状態が不均であること。

中國の全國的經濟は殆んど帝國主義國の支配下に在り、その故に中國は世界的資本主義の附屬品たる感を呈し、民族的經濟の發達は、従つて阻碍されてゐる。然るにその帝國主義國は二三に止まらざるを以て、各帝國主義國が

各々異なる統屬を形成し、爲に中國は若干部分に分割されてゐる。これが帝國主義國の中國に於ける手先きたるところの、彼の軍閥が割據してゐる地盤の形式を採つてゐるのである。即ち英國は南方に於て、香港をその中心としてすべてを支配し、米國も亦上海に根據して中部支那を支配せんとし、帝國主義國日本はすでに早くより旅順大連を獲得しこれを根據地として東三省及び北方を支配し、而て帝國主義國フランスも亦安南を根據地として雲貴各省を掩有せんとしてゐるのだ。従つて中國には一個所と雖も政治及び經濟の全國的中心たり得るところはない。中國には實に、ロンドン、パリ、ニューヨーク、ベルリン等の如く能く全國の都市を支配し得るものがない。東三省は未だ全國的に影響を與ふことは出來ず、上海も亦殆んどその點では問題にならない。香港の支配下に在る南方各省に對しては上海は到底問題にならない。これに反し帝國主義及びその手先きたる軍閥買辦の政府は各々地盤を分割してこれに割據してゐる結果、相互に衝突排擠の對抗的氣勢を形成し、その故に各軍閥の割據してゐる場面にはその經濟的狀態が不均等となり、それが統治區域に於ける各軍閥勢力の鞏固さの程度に差異を生じ、交通の不便な事が又統治權に強弱の差もつけて行くのである。

斯の如き形勢の下に於ては、勞農闘争は統治權の薄弱な個所に向つて襲撃を起すは當然であり、而て又これ等の地方には、地方的ソウエート政權の樹立が可能となるのである。故を以て中國革命に於ては一省或は數省を、先づ戦ひ取り得る可能性があるのであり、今日に於ては、中國の赤軍はすでに敵人の主要防備線を突破して、その薄弱なる勢力圏に進出し、都市に向て進撃を開始したのである。特に武漢を包圍することは決して遑遠なる前途

觀ではないのである。

第二 豪紳資産階級の中國統治は政治的にも經濟的にも崩潰過程上の進行を早めてゐる。

國民黨軍閥は、彼等の内部的分裂が不斷に爆發し、而かもそれが不斷に蔓延しつゝあるのみならず、帝國主義列強間に政治的にも軍事的にも、又經濟的にも中國分割競争が激烈となり、而かも大衆の革命的闘争が日は一日と高潮し又發展しつゝある時に際しては、彼等の崩潰に到るべき必然的運命は永遠に救済の途はないのである。經濟的危機の全國的普遍化、民族的工業の破産、災害の擴大は更に確實に彼が崩潰過程を加速度的に短縮するであらう。就中、全國的な、そして巨大なる兵變の氣勢は軍閥の軍隊をして迅速に瓦解せしむるに足るであらう。ソウエート區域及び赤軍を攻撃しつゝある總ての反動的部隊は、反動的將校の訓練と補充の強化によつて、一再ならず共產黨討伐を行ひ、時には數省に亘つて共同包圍を行ふこともあるが、而かも彼等の内部的大小の衝突あるにも拘らず、現在はずでに一致共同の状態にあるのだが、然し兵變の氣勢、赤軍の政治的宣傳の擴大、一致團結したる、大衆の闘争参加等に遇ふては、反動部隊も正面から赤軍に對する戦闘を敢てせず、兵士と勞農大衆との接近も亦不可能にして、従つて長驅直ちにソウエート區域に突入することは出來ないのである。若し果して斯の如くなれば、それは赤軍に武器を供給することになり、従つてそれは赤軍の壯大を來し、ソウエート區域を擴大する客觀的幫助たるものである。彼等の主觀に於てはもとよりこれを望まないであらう。然し統治權の崩潰、革命的形勢の開展は、ソウエートの發生と存在、そしてその擴大の爲の必然的客觀的條件たるものである。

第三 革命的形勢は正に平均的發展過程に在る。

全國的な工人の罷工闘争、反帝國主義及び國民黨、資本家、右翼組合、改組派、それから清算派への反対抗争、上海を筆頭として香港、廣東、汕頭、厦門、九江、景德鎮、漢口、天津、唐山、青島、北京、哈爾濱等より極く小さい町まで勃發する工人闘争、而かもそれ等は經濟的闘争から政治的闘争へと速かなる歩を運び、武装的衝突及び市街戦の發生が甚だ容易なる形勢にまで立ち至つてゐる。而てプロレタリア大衆は斷然中國革命の指導者となり、すでに街頭に立つて、公開的な大衆の大示威運動を舉行してゐる。兵變はすでに南北共通の事實であつて、軍閥の軍隊はその大小に論なく、皆、戈を倒にして赤軍に参加せよと高らかに叫んでゐる。都市に於ける貧民、學生等の、納税反対、集會、結社、出版等の自由獲得運動も日に勞農闘争と結合しつゝある。農村に於けるバルチザン戦争の擴大、地方的暴動の成熟、主要中心都市進撃の爲の赤軍の集注は、すでに工人の罷工、兵變、自由獲得運動と合流して、先づ、一省或は數省を爭取してソヴェートを形成すべき前途を見る。今や大部分の赤軍は武漢の包圍と南昌の奪取の爲に、勞農兵の協同の下に、革命の高潮の爆發を直接行動によつて實現せんとしてゐるのである。斯くてソヴェートは此の條件下に於て積極的に擴大し、全國的勝利を得るであらう。

第四 土地革命の深刻化。

中國には、土地を所有してゐないもの、又は所有地の甚だ少ない幾千萬の農民大衆があり、そしてそれは土地を壟斷する地主階級の封建的束縛と搾取を受け、又豪紳、地主階級の統治とその極端に無情なる屠殺とに遇ひ、

而かも彼等は經濟の全國的危機と農業の破産に刺撃されて、土地を得んとする要求、封建的統治の束縛から解放されんとする要求は、何者にも換へ難い切迫せる要求となつてゐる。加之、刻下の軍閥混戦、帝國主義的侵略の強化は、農村の破産を益々速かならしめ、従つて農民大衆は困窮、流離から死亡の絶對境にまで追ひつめられてゐる。實に彼等は、土地革命を實行して、土地の沒收と分配を實現し、農村に於ける豪紳地主の政權を打倒するより外には絶對に逃るべき途はなくなつてゐるのである。閩西、贛西南、粵の東江、鄂の東西南北各地に於てはすでに自動的に土地の沒收と分配を爲し、且つ農民自身の農村ソヴェート政府を組織してゐる。而かも農民は、土地を得る爲に、又封建的地主の束縛を解除する爲に、彼等は自己の政權たるソヴェートに對し、自然熱誠なる擁護と愛着を抱き、宛然、父母を愛し、生命を保護するが如き狀がある。ソヴェートは實に農民が土地革命に深く喰ひ入る事によつて自然に發生し得るものであることは一點の懷疑も無用である。此の土地闘争によつて、ソヴェートは發生し、存在し、そして擴大して行くものなのである。(阮嘯仙)

三 如何にソヴェートの組織を建設し又鞏固ならしむべきか

今やソヴェート政府建設の問題は、決して農村の問題ではなく、全國的革命形勢發展の客觀的條件は同様に都市の問題ともなつて來た。加之農村に建設されたソヴェートは必ず都市の指導を必要とするものである。若し都市に工人大衆の闘争がなく、又都市に於ける工人の階級闘争が異常に尖鋭化してゐないとすれば、統治階級は全力を擧げて農村を壓迫することが可能であり、斯の如くんばどうしてソヴェートを建設することが出來やう。

故に、如何なる地方にソウエートを建設するとしても、先づ都市の工作計劃を強化して、都市に於けるプロレタリアの戰鬥力を擴大する必要がある。かくてこそソウエート政府の指導者たり得るのである。

吾々は、都市に於ては同一職業同一産業の赤色工會及びその分會、支部を積極的に組織し、右翼工會との闘争を強化して、右翼の影響下に在る大衆を赤色工會の側に引き入れ、革命的工人の組織を擴大せねばならぬ。そして政治的ゼネラルストライキ及び示威運動を強化し、帝國主義、國民黨及びその走狗たる右翼工會に對する闘争を強化し、資本の攻勢に反抗しなければならぬ。又闘争の方法を用ゐて、工人階級を組織し、革命的プロレタリアの指導能力を作り、將來成立すべきソウエート政權の核心たるべき基礎的下層組織を建設せねばならぬ。特に工人糾察隊を組織して武装暴動を準備し、ソウエートの軍事的能力、即ち赤軍の基本的勢力を作り出さねばならぬ。

農村に於ては、積極的にバルチザン戦争を發動し、これを擴大して地方的暴動としなければならぬ。農民委員を召集しては、大衆をして、租税、公債への反抗より更に地主の土地財産の没収と分配とを實行せしめ、かくて土地革命を深化させるのである。そして農民委員會は廣大なる武装闘争を發動せしめ、農民協會を擴大し、農村ソウエートの基礎を作り、又赤軍を擴大し、バルチザン隊、赤衛隊を組織して赤軍に参加せしめ、赤軍の勢力を集中して農村ソウエート區域を擴大し、主要なる都市、又は交通の要道に向つて攻勢を執り、都市工人の階級闘争と合流せしむるのである。

又吾々は反動派軍隊の兵變を積極的に發動せしめ、これを赤軍に引き入れ、又は敵の武装を没収し、軍閥の軍事

的能力を瓦解せしめて兵卒委員會を組織し、赤軍の政治的影響を擴大し、かくして全國的な廣大な兵變を促進し革命の武装勢力を増加しなければならぬ。兵士闘争と勞農革命の闘争とを合流せしめ、武装暴動による政權奪取に於ける勞農兵の偉大なる能力の完全なる準備を爲さねばならぬ。

吾々は又都市に於ける貧民の自由獲得運動を強化し、反帝國主義、反國民黨、反軍閥戦争に参加せしめ、そして、闘争に際しては勞農の同盟軍たる作用を發現せしめ、勞農の革命戦線を圍繞せしめて革命勢力の内容を充實しなければならぬ。

勞農兵及び貧民が一致聯合して政權争奪の闘争に参加し、武装暴動を準備することによつて始めて國民黨の統治を覆し、ソウエート政權を建設し得るのである。注意すべきことは、吾々は暴動を起す前に、組織を有つことであり、勞農革命委員會（農村に於ては農民委員會或は農民協會）は暴動を指揮して政權を奪取し、新なる機關（ソウエート）の過渡的組織となり、臨時政府の作用を爲さしむるのである。赤色區域に於ては公然と勞農革命委員會を組織し、臨時政府の職を執行し、赤色區域として更に外に向つて發展せしめ赤軍を作つてソウエート區域を擴大するのである。未だソウエートの組織がなく、武装暴動の區域でもない地方では、暴動を起す前に、工會、農民協會及びバルチザン等の各派の代表を秘密に召集して勞農革命委員會を組織し、この委員會が暴動を指揮して政權を奪取するのである。

勞農革命委員會は秘密會議たると或は公開的選舉によるとを問はない。その委員は必ず、暴動に参加する工人、

農民、兵士の幹部でなければならず、特に工人と農村に於ける雇傭農分子は革命委員會に在つてその指導的作用を爲すべきである。工人と雇傭農及び貧農は革命委員會の多數を占むべきであり、富農分子の参加はこれを拒絶せねばならぬ。暴動前に於ては、富農分子が如何に積極的であつても、その動搖性と妥協性との爲に革命を裏切るものであるから、これは是非防止しなければならぬ。

勞農革命委員會の指揮下には、暴動參謀部或は軍事部を設立し、これに暴動隊、赤衛隊、工人糾察隊、又は赤軍バルチザン等に對する指揮を集注して革命の軍事的威力を以て反動的暴力を驅逐し、敵の武装を解除して勞農自身が武装しかく政權を奪取して新政權を樹立するのである。そしてこれが、此の新政權を擴大するに必要な第一歩の工作なのである。

勞農革命委員會の指揮下に於ては又反革命を掃倒すべき委員會を設置すべきである。此の委員會は計劃的に反革命派を掃倒するものであつて、先づ反革命派の領袖を逮捕し(場合によつては殺してもよい)敵をしてその指導者を失はしめ、抵抗又は攻勢の方法を無からしめるのである。廣東ソウエート失敗の原因の一は、實にその當時、反動的領袖を殺さなかつた爲に、彼等は容易に危険から逃れ、他の個所に於いて軍隊を組織して再び廣東に向つて進撃して來たことに在る。國民黨部、右翼工會其他の政府御用の民衆團體名義の組織の如き反革命的團體を解散せしめることも必要である。そしてあらゆる地方に於て、紳士、大商人、地主などの團體は皆解散せしめ、反動的分子の組織はその目的の如何に拘らず悉く禁絶してしまわねばならぬ。又軍事、政治、教育、財政及び交通機關の職員はその住

宅出入個所等を調査して政府に登録せしめることは、一面彼等の反動的陰謀を防止するものであると共に、此等の専門的人材を強迫してソウエート政府に服務せしむる爲には十分必要なことなのである。これ等の機關に服務する下級職員と雖も、固より、革命に同情を表するものは、須く此等の技術員を收容してソウエートの爲に喜んで力を盡す様にしなればならぬ。そして警察、巡査、探偵、刑事、ルンペンの頭目等は革命の隊伍中に混入することを防止せねばならぬ。

勞農革命委員會は、豫じめ敵の封鎖政策の對策を講じ、糧食、現金、その他各種の軍需品を集中するを要する。勞農革命委員會は成立の其日に於て、行動綱領を定め、且つ政權成立の日に頒布すべき土地法令、勞働法令及び勞農並びに貧民の生活を改善する法令を準備せねばならぬ。

武装暴動成功の第一日に、革命委員會は勞農兵代表會議の召集を準備し、ソウエート政府が正式に成立したならば、政權をソウエートに交附して革命委員會の職務は終るのである。而てソウエート政府は必ず勞農兵代表會議を経過して始めて成立し得るものであつて、(若し代表會議の人数が餘り多くなかつた時には、農民大會を舉行してこれを成立せしめてもよい)若し代表會議が直ちに舉行不能の場合には、むしろ革命委員會が今まで通りに臨時政府の職權を執行すべく、その場合勞農兵代表會議を召集してソウエート政府の成立を準備すべきはもとよりである。

ソウエート政府の組織原則は、勞農大衆の直接選舉を基礎とし、産業工人が工人代表者の多數を占むべく、工人代表は、代表者全部の多數者であり、而て雇傭農の代表は農民代表全體の多數者でなければならぬ。かくして工人

階級の指導作用を保證するのである。

ソウエート代表會議の代表は、工場労働者、交通労働者、職工、農民（村區全體大會或は農村組合が選舉する）兵士委員會、學生、自由業者、ブチ・ブルの下層成分及び貧民等より選舉されるものである。

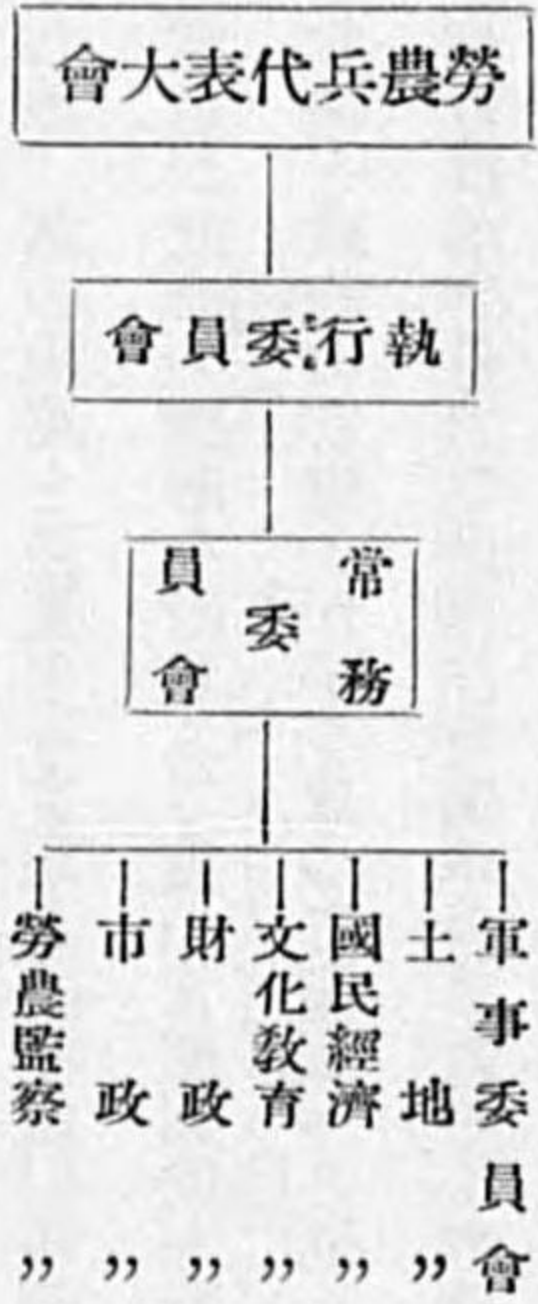
小都市のソウエートは、近郊の農民とその區の農民代表とを含むもので、彼等をしてその農區の革命的中心たらしむるのである。

農村ソウエートは、その地方に住居する産業工人（鐵道、海員の如き）或は都市から來た工人（失業して歸郷したものの如き）を参加せしめねばならぬ。彼等は實に農村の柱石たるものである。

ソウエート執行委員は、出来るだけ實際工作に参加して、決議を執行し、或は決議の執行を監督すべく、少數人の請負の如き形は絶対に禁止し、且つ官僚主義的傾向の發生を掃倒せねばならぬ。

代表會議はソウエートの最高機關であり、あらゆる政綱及び各種の重要決議案を討論通過させ、且つ執行委員を選舉するものである。代表會議が閉會したあとは執行委員會が最高機關となる。執行委員は常務委員を互選し、その地方の實際的政府を形成する。常務委員會は集體的分擔制を實行し、且つ常時開會してすべての決議を執行するものである。而て執行委員會は一定時に開會して、代表大會の決議に對する執行方法を議決し、且つ常務委員會の實行を督促する。常務委員會の下には政務の繁簡に従つて、軍事、經濟、土地、文化、教育等の委員會或は部を設け、日常の政務を處理するのである。

ソウエート組織系統は大體次の如くである。



中國共產黨は中國革命の唯一の指導者である。會つて勞農革命の十大政綱を宣佈したが、それこそ現在ソウエートが實行を必要とする政治的任務である。又中國共產黨の宣佈した土地政綱は、ソウエートが目下實行を迫られる土地政策なのである。故に共產黨はソウエートの思想的政治的指導者であるが、組織に關しては未だ直接の關係がなく、決して國民黨の「以黨治國」の如き類ではない。一個の黨を以て政府の最高統治機關と爲すことは、最

も錯誤の少ないものである。共産黨の黨員個人は、同時に、ソウエート政權下に於ける革命的大衆の一分子であつて、彼の行動は政治上に於て最も積極的であり、そして最も自覺せる勇敢なる、前衛分子であるのだ。共産黨は黨員の政治的行動を指揮し、政府機關に在つても、又は如何なる大衆組織にあつても、共産黨の黨團の作用あらしめるのである。然しこれは決して陰謀の如き類ではなく、各黨員をしてその革命前衛隊としての歴史的任務を斷然實行せしめ、黨の政策と戦術とを實現して革命の前進を促進せしむるのであつて、これは絶対に間違ひはない。國民黨の黨員が政府の機關を請負ふて黨の官僚制度を形成し、甚だしきに至つては政府の役員を強迫して入黨せしめ、黨の官僚と政府の官僚とが手を取つて腐敗へと進んで行くのとは完全に異なるものである。赤軍はソウエート政府の偉大なる軍事的勢力であり、中國革命に對しては政權の奪取、ソウエート政權の強化及び擴大をその任務といふ意義ある仕事をするものである。現在は政權奪取の過程に在り、革命の主要勢力の一である。而して政權が成立すれば赤軍はソウエート政府に統屬する軍事組織となり、従つてその指揮を受けるものである。(或は臨時政府の又は勞農革命委員會の)國民黨の黨軍の、軍を以て黨を治むる如き軍閥專制とは雲泥の差がある。

職工會はソウエート政府の基本的能力であり、ソウエートの左右の手である。階級が消滅しない時、即ち階級的政府が存在しない時に、職工會の存在があるのである。それは只存在するばかりでなく、ソウエートに對して大なる作用を有し、ソウエートの骨幹となるのである。職工會の代表はソウエート政府に於て重要な地位を占め、工人階級を代表して、その利害に關するあらゆる要求を提出することが出來、又工人階級の根本的利害に關しても、

勞働法令及びその細則に就いてソウエートに建議する權利があるのである。執行權のソウエートに在るは云ふまでもない。ソウエートは勞働者人民の政府であるから職工會とソウエートとが衝突するなど云ふことはあり得ないむしろ親密なる關係に在り、ソウエートの前衛となり、又後衛となるものである。

農民協會はソウエート農村に於ける前身であり、臨時政府でもある。ソウエート政府が正式に成立すればその任務は全部ソウエートに任せ、その組織も存在の必要がなくなるのである。何となれば農民協會は地主階級の封建的統治に對抗して農村の政權を奪取する臨時的組織であり、従つて地主の封建的統治が消滅すれば、その時には農民の政權は即ち、ソウエートであり、實にソウエートは農民協會の更に一步を進めたる政權形式であるからである。但し雇傭農工會は階級的組織であるから、職工會と同様に農村に於けるソウエートの基礎的組織である。(阮嘯仙)

第二 ソウエート中國の諸問題

一 ソウエート區域と反帝國主義

ソウエート區域が、只奥地と農村にだけある場合には、反帝國主義の問題は、そう切迫した問題ではないが、一たび大都市又は帝國主義國の直接統治區域に出て來た場合には、この問題は非常に重大なものとなるのである。

廣西省龍州に於てソウエートを樹立した時には、直ちに帝國主義に對する戦術の問題が発生し、龍州のソウエートは帝國主義フランスの工場、大商店、銀行、教會の財産を沒收し、フランス領事及び人民を國外に護送し根本的

に帝國主義フランスの龍州に於ける統治を消滅してしまつたのであつた。その爲に帝國主義フランスは、自ら大部隊の軍隊を派遣し、新武器、飛行器爆裂彈等を以て國民黨の軍隊を援助し、ソウエート勢力を龍州から追ひ出してしまつたのであつた。

此の事件によつて、吾々は反帝國主義の政綱を徹底的に實行せねばならぬことを知つた。若しソウエート區域が帝國主義の勢力範圍にまで發展した時には、當然、帝國主義國の企業と銀行とを徹底的に沒收し、租界を回收して、帝國主義國の中國に於ける勢力を掃倒しなければならぬ。この點、龍州ソウエートの政策は非常に正確であつて、帝國主義統治を推倒すべき政綱を眞に實行し、二ヶ月餘りの存在を續けたのであつた。これは、國民黨政府では永久に出来ない仕事なのである。彼こそは大衆の了解を得て眞正なる革命的外交を實行し、中國の眞實なる解放に向つて眞直ぐに突き進んだものである。

或は、龍州のソウエートは、眞然帝國主義的企業を沒收すべきではなく、かくすることによりて帝國主義フランスの猛烈なる攻撃から免かれ、従つてソウエート政權も長期の存在を保ち得たであらう、と爲すものがあるかも知れぬが、それは、疑もなく日和見主義的である。若しソウエート區域内に於て、依然として帝國主義的企業と銀行とを沒收することが出来なかつたならば、ソウエート政府と國民黨政府の間に何等の區別がなくなり、かくては廣大なる勞農大衆をして熱狂的にソウエート政府を擁護せしむることは絶対に出来ない。のみならず、ソウエート區域内に於ける帝國主義國の經濟組織及び政治的特權の存在を許すといふことは、帝國主義そのものゝ偉大なる勢力を

保持せしむるものであつて、この勢力は必ず國民黨と聯合してソウエート政府を打倒するであらう。

中國は半殖民地的國家である。従つて反帝國主義を徹底させる決心がないならば、絶対に革命のヘゲモニーを獲得することは出来ない。ソウエート政權の擴大は、帝國主義諸國の積極的攻勢に遭遇するは必然であり、これには少くとも妥協又は退讓の餘地が與へられてゐない。従つて帝國主義の攻勢を回避せずに、大多數の民衆を動員して反帝國主義闘争に参加せしめねばならぬのである。大衆動員の範圍が廣いだけ、帝國主義打倒の可能性は増加する。露國十月革命後、十四ヶ國の帝國主義國家―英、獨、伊、米、日等ソウエート政府を包圍して攻勢に出たが遂に失敗に終つたのは何故であるか。それは、ソウエート政府に賛成し、ボルセエビキの政綱を擁護する無数の勞農大衆があつたからである。帝國主義も、一時的には或る地方的暴動を壓迫することは出来るけれども、廣大なる區域に亘る繼續不斷の暴動に對しては何等これを壓迫する方法があり得ないからである。従つて吾々の根本的方針は、闘争を緩和して危険を回避することではなしに、闘争の範圍を擴大し、最大多數の民衆を動員して、あらゆる反革命的勢力を打倒することではなければならぬ。

中國ソウエートの勝利は、決して國民黨に對する勝利だけではなく、必ず同時に帝國主義に對する勝利でなければならぬ。吾々はすでに全國的ソウエート政權の樹立を準備せんとしてゐるが、それは同時に反帝國主義の激烈なる全國的闘争を覺悟するを要する。(白 登)

二 ソウエート區域の經濟問題

最近に至るまで、各地のソヴェート區域では極度の經濟的恐慌に見舞はれてゐた。現在では革命的形勢の全國的開展によりて、ソヴェート區域も日に擴大され且つ外に向つて發展して來た爲に、漸次此の經濟的恐慌に打ち勝つことが出来る様になつた。然し革命の全國的勝利を見ない中は（全國的ソヴェートの樹立に際しては、幾多戦後の困難なる闘争があるだらうが、それは將來の經濟的建設の問題である）ソヴェート區域は依然發展を繼續し、統治階級に肉薄して行く爲に經濟的困難から免かれ得ないことが少くないであらう。

ソヴェート區域に於て發生する經濟的問題の客觀的原因は、敵の封鎖政策である。何となれば、土地革命は下より上へをその方針とし、勞農大衆が自らの手によりて先づ農村に於てこれを實行するものであるが、土地革命が未だ深刻化せずして展開して行く時に際しては都市に於てもプロレタリアの勝利は期待が出来ない。而かも地主階級は農村から都市に進出し國民黨軍閥と相勾結して、それが、必然的に豪紳、資産階級、國民黨の農村封鎖となり、その結果都市に於て生産する日用工業品は農村には來らず、農民の所有する米、麥、糖、豆、茶、煙草等は、農民自身がこれを用ゐる外は、外部への賣りさばきは不可能となり、農民が必要とするマッチ、石油、布などは買ふことが出来なくなる。これが原因の一である。

この外の原因としては、或る地方に於て從來ルンペン意識又は農民意識があつた事である。農民は豪紳地主が都市に進出し、國民黨軍閥と反動的聯盟を結成して農村を苦しめた爲に、都市を仇敵視する誤れる傾向を生じ、バルチザン戦争が發展して都市にまで進出すれば、慘々に都市を破壊してしまふので、中小商業が閉店してしまふこと

が少くないのである。これがその二である。

もう一つの重要な原因は、地方的觀念と保守的傾向及び富農の方針となることである。その爲にソヴェート區域は農村にかくれバルチザン戦争は山の上に立て籠つて長期間一區域に割據せんとし、「平和的建設」だとか「天下太平」だとか云ふ狹隘な地方的保守的見解を採るに至ることである。特に富農の方針を採るに至ることは、妥協と動搖の停滯せる空氣を醸し、バルチザン戦争の發展とソヴェート區域の擴大とを敢てせず、土地革命の深化も期待し得ないことになる。これは座して斃るるを待つ清算的及び保守的傾向に外ならぬ。

斯の如き種々なる主觀的客觀的原因は、ソヴェート區域に於て經濟的恐慌又は困難を發生するものである。若し此種の困難を「武力政策」の結果であると爲すならば、それは未熟なる觀察である。果して此の種の困難が盲動主義の結果であるならば「中小商人の保護」なる政策を提出することは疑もなく右傾的危険でなければならぬ。

此の問題を解決する唯一の辦法は只バルチザン戦争を擴大し、赤軍を擴大し、ソヴェート區域を發展せしめ、都市の指導權を獲得して、革命の全國的勝利を得ることである。これがソヴェート區域の經濟的問題に對する主たる方針である。

經濟問題解決の中心政策

第一 豪紳、地主、大商人、買辦の土地財産を沒收すること。これは農民に分配して使用せしむる外、ソヴェートは計劃的に充分革命的需要を準備して、適當な現金と糧食及び織物を集中して敵人の封鎖政策を打破しソヴェー

ト區域と赤軍を出来るだけ外部に向つて發展せしめねばならぬ。

第二 中小商人の商賣を準許し、工業品と原料品とを通流せしむる機會を作ること。これと同時に商人から資本税と營業税を徴收し、これには累進的徴税を原則とする。そして他面では、商人が工業品の價値をつり上げたり又は農産品の價格を下けたりすることを制限し、必要ある時には、有富なる商家又は富農から特別税を徴收してもよろしい。

第三 暫時農民の土地收穫から百分の十或は百分の十五の所得税を徴收する。但し、農民の所得税は、赤軍を擴大し、土地革命を深化せしむる爲に必要であり、且つ土地闘争、政權の奪取、自己のソウエート政府の擁護が農民の任務であることをよく説明し且つ宣傳しなければならぬ。困窮せる農民に對しては完全に免税とする。

第四 食糧品又は金融の恐慌が発生した場合には、豪紳地主から徴收するは勿論であるが尙ほ救済が出来ない時には廣大なる農民大衆を號召して、ソウエート政權の爲の闘争を起し、農民大衆の擁護の下に富農が隠してある金銭や糧食を沒收し、又は中農からそれ相當の糧食を徴發すべきである。然し、中農の同盟を強化し、彼等を指導して土地革命を擁護させ、封建的地主の消滅を徹底せしめ、ソウエート政權の樹立とその發展の爲に闘争させ且つ富農の影響下から脱脚せしむる爲には、彼等を貧農の基礎の上に立たしめ、自覺的にソウエートの基礎的勢力の一たらしめねばならぬ。

第五 萬止むことを得ざる時は農民から糧食を徴發してもよろしい。その爲には更に宣傳を擴大し、ソウエート區

域の存在と發展の爲に大示威運動を實行し、更に廣大なる農民を號召して農民が自覺的に、一石の糧食があれば五斗を持ち出し、一丈の布はその五尺を差出してソウエート及び赤軍バルチザン等に供給し、土地革命の深化、政權の擴大の爲の闘争に必要な額を充たさしむる様にならねばならぬ。これは經濟的困難を解決し得るのみでなく、農民のソウエート政權に對する熱誠を増進しソウエートの政治的影響を擴大し得る所以となる。但し、經濟的困難を解決する爲に單純に農民から徴收することになれば、それは軍閥の課税制度と同様であつてそれは自殺的政策に外ならない。

第六 ソウエートに於て廣大なる農召を號召して組合運動を起し、農民銀行や、生産及び消費組合を作り、或は小規模なる工藝工場や紡績工場を作り、農民の日用品を作ること。これは現在の可能なる範圍に於ては着手する必要がある。

ソウエート政府が以上の辦法を執行するときには必ず農民大衆と密接なる聯繫を有たねばならぬ。あらゆる經濟的状況及びその困難なる問題は必ず農民大衆をして、よく知覺せしめることによつてのみ、大衆をして此問題の解決の爲にソウエート政府を援助せしむることが出来るのである。若し經濟的状況を秘密にして置いて只ソウエートの少數幹部のみが知つてゐる様な事があれば、それは必ず大衆をして經濟問題に注意を向けしめることが困難である。この經濟公開は注意すべき基本的原則なのである。

三 ソウエート政權と土地革命

現在全國的範圍内には、すでに少なからぬソウエート區域が存在してゐる。此等のソウエート區域の中、特に閩西と贛の西南とは徹底的に土地革命の政綱を實行してゐる。然し他は實行の不充分なところもあり、又は全然實行してゐないところもある。これは非常に重大な問題であつて吾々の深刻なる注意に値するものである。土地革命は中國革命に於ける最も重要な基本的政綱である。それは正しく土地を爭取するといふ目標があつて、始めて刻下の如き非常に激烈にしてしかも廣大なる農民闘争の全國的普遍化があり得るからである。中國統治階級の基礎は、帝國主義者より農村の豪紳地主に至るまで、その主たる經濟的基礎はすべて中國に於ける舊式な土地關係の上に建設され、従つてその五〇パーセント以上が地租をその土臺としてゐるのである。廣大なる農民大衆に對する政治的束縛と經濟的壓迫とはすべて土地關係と密接不可分の聯繫があるのである。故に只徹底的に封建地主の土地私有と、地租制度を消滅させることが出来れば、それがすべての農民（農村失業者をも含む）をして必要な土地を得せしめるのである。斯の如くなれば豪紳地主及び封建軍閥の基礎は消滅し、廣大なる革命的大衆の動員が可能となり、従つてソウエート政權の徹底的勝利を將來することが出来るのである。

今や、すでに多くの地方に於てソウエート政權は成立してゐる。然し土地の配分と地主階級の消滅とを徹底させてゐないといふことは、その間に何等土地革命を必要としない理由があるのではなく、又それが決して實行困難だといふ譯でもなく、それは只日和見主義的指導の故に富農階級がソウエート政權を把持してゐる爲であつて、この外には解答を與ふべき如何なる理由も見出し得ないのである。

若し土地革命を實行せずして、地主階級を保存し又は地主を驅逐し去つても、土地は少數の上級幹部に分配されてゐるとするならば、それは當然、革命の深刻化は不可能となり、革命的利害によりて大衆を獲得することも出来ずして、農村政權及びその經濟的利害は、只新なる豪紳及び富農の手中に轉移するであらうことは餘りにも明白である。而てこれこそ革命の失敗であつて絶対にその勝利ではあり得ないのである。或は、地主を驅逐したる後には只土地を小作農に交附すれば足りると思ふものもある。然しそれは、小作農の中には、その一部分ではあるが、農村の富農階級のあることを知らないものである。それは獨り農村プロレタリアを搾取するのみでなく、あらゆる農村の貧困者を搾取するものである。若し只土地を小作農に交附するとすれば、廣大なる貧農、それは地主階級の長期に亘る搾取を蒙つて完全に破産し、且つ失業したる貧農であるが、彼等には土地を取得し得る何等の方法もないことになり、従つて此の種の貧農大衆を動員する方法もあり得なくなる。彼等に土地を獲得せしめないといふ事は、實に富農階級の利害を代表するものに外ならぬのである。

又或る人は自作農と小作農のみが眞正なる農民であると認め、農村に於ける貧民はすべてルンペン・プロレタリアであると爲す者がある。これは明白なる錯誤であつて、且つそれは一種のブルジョアの觀點に立つものである。何となれば、帝國主義者、軍閥、豪紳、地主の中國農民に對する長期の封建的搾取は大部分の農民を破産失業せしめこれ等の失業農民は、正しく農村中最も殘酷に封建的搾取を蒙る階級であり、封建的地主階級に對すべき基本的勢力を形成するものであり、又土地革命の最も急進的なる前衛たるものだからである。若し彼等を擴大動員しない

らば中國革命の勝利は不可能となるであらう。

或は又、廣大なる貧農共は、土地の平分を要求するものであり、そしてそれはブチ・ブルの幻想であり、吾々プロレタリアの共産主義者は土地の平分には反對するものであると爲す者がある。これも亦絶対に不正確なる觀念である。共産主義者は只、土地の平分は決して社會主義ではなく、又土地問題を解決する最後的方法でもないことを指摘するに止る。土地の平分を社會主義であると爲すのは一種のブチ・ブル的幻想であることに間違ひはない。然し目下の如き民主主義革命の段階に於ては、特に、廣大なる農民大衆を煽動して、封建的地主階級の統治をくつがへす時に際しては、土地の平分も亦必要であり、そしてそれは民主主義革命の徹底的完成を可能ならしめ、而して廣大なるソヴェート政權を樹立するものである。そのソヴェート政權が擴大發展し、その基礎が相當鞏固となつた時に於て始めて、プロレタリアの土地國有が實行され得るのである。

そして又、其地の地主は決して反革命的ではなく、彼はソヴェート政權の起る時を見て自發的に地租を軽減し或は土地を放棄してゐるとも云ふ。そして或る地主は老人であるとか、寡婦であるとか、又は孤兒であるとか云ふて土地を沒收しないものもある。此の見方は皆大なる錯誤なのである。吾々が革命に於て提出するところの政綱は、根本的に地主階級を消滅し、地租制度を撤廢するものであつて、従つてそれは或る地主に對する私人的仇恨だとか、又は一般的な「革命」の指導者達の親戚朋友等によつて例外を設くべきではなく、その何人たるを論ぜず、只それが地主でありさへすれば、その土地は當然沒收さるべきであるのだ。そしてその地主が決して反革命的活動に参加し

ないならば、其他の農民と同様に自己の耕種すべき土地を領取することが出来るのである。

吾々は一般的な投機的地主と富農とに注意する必要がある。彼等は大眾運動が高潮して來たと見るとあらゆる方法を盡して自己の反革命を掩飾し、甚だしきは似非革命的旗幟の下に在つてひそかに革命のヘゲモニーを獲得せんと謀り、革命の深化を阻礙することがある。故に地主の土地は、すべて斷然沒收し、決してその何人なるやを問ふ必要はない。寡婦、孤兒、老幼、又は癡者等は、それが勞働大衆の親族である場合には、彼等の生活は當然ソヴェート政府の特別經費を以て支辨してゆくべきで、彼等の爲に地租制度を保存してやることは絶対にいけない。

地主階級の土地を沒收してこれを平分するに際し、その地方の状況を考慮せずして無茶苦茶に取扱ひ、社會の安寧秩序を破壊したならば、それは必ずソヴェート政權の存在にも影響するであらう、と云ふ者がある。これは然し通用しない理窟である。何となれば吾々は正しく地主、豪紳の安寧秩序を破壊して、廣大なる勞農大衆の新秩序を建設するものだからである。従つて安寧秩序の破壊は決してソヴェート政權の存在に影響し得るものではなく、而かも地主豪紳のすべての經濟的及び政治的基礎を破壊しないならば、それは反動的勢力の必然的存在を意味し、従つて廣大なる勞農大衆がソヴェート政權に對し、異常に熱烈なる擁護を爲すことは期待が出来ない。かくてソヴェート政權存在の基礎も亦鞏固となることが出来ないのである。

以上の如き不正確なる觀察はすべて土地革命の障害物であり、そしてそれは富農階級及び日和見主義者の方針を代表してゐるものである。従つて彼等及び彼等に類似する觀察を爲すものに對して斷然これを排斥し、土地革命闘

争を深刻化せしめ、反動的勢力の政治的、經濟的あらゆる基礎を掃倒し、ソウエート政權をして更に廣大なる大衆の擁護を得せしめ、その擴大發展、そして勝利へと進ましめねばならぬ。(問友)

四 ソウエート區域に於ける雇傭農の問題

雇傭農は農村プロレタリアであつて、都市プロレタリア及びその政黨の農村に於ける基礎となり、土地革命の指導者となり、中國革命を變轉さす主要動力となるものである。特に富農反對の戦線に於ては、その基本的勢力たるべきものである。故を以てソウエート政權下に於ては此の雇傭農に呼びかけて、土地革命へと導き又、政權奪取の闘争や赤衛隊バルチザン及び赤軍の闘争へと、これを導くことは絲毫もゆるがせにするを得ない重大な問題なのである。

若し雇傭農の革命に對する偉大なる作用を無視し、農村には雇傭農の数が極少なく、而かも散漫にして集中團結性に乏しく、又文化の程度も政治的自覺も甚だ低いものと認め、その故にこれを放棄したり又は、積極的に雇傭農の運動に組織を與へたりしないならば、それは疑もなく富農の方針であつて右傾的危險に陥るものである。

ソウエート區域に於ける雇傭農運動の主たる方針は、彼等を他の農民と劃然区分し雇傭農の獨立的階級的工會を組織することである。そして彼等をして地主階級に對する反抗戦線に於ける前衛たらしめ、且つ富農に對する階級的闘争—工賃の増加、労働時間の減少、待遇の改良等—のエニシエーテプを獲得せしめることである。ソウエート政權の各機關の工作に参加せしめ、少年前衛隊、赤衛隊、バルチザン及び赤軍の指導工作に参加せしむることも必

要である。要するに雇傭農を啓發して反帝國主義、反國民黨軍閥の闘争に参加せしめ、就中、彼等を誘導して、農村に於けるあらゆる反封建闘争に参加せしめて、此種の運動に於けるヘゲモニーを獲得せしめ、農村に於て土地革命に對する彼等の指導作用を強化させることが必要なのである。

中國共產黨全國代表大會土地問題決議には次の如く説いてある。

『中國共產黨の民權土地革命に於ける方針は、農村プロレタリアの獨立的階級的組織を形成することであつて、それは如何なる事情の下に於ても一定不變のものでなければならぬ。彼等の利害と農村ブルジョアジイとのそれは永遠に衝突すべきものであること、そしてプチ・ブル的思想にごまかされずに、商品の生産とその存在とは、農民の困窮を招來するものであることを、及び、徹底的社會主義革命のみが、よくあらゆる貧困及び搾取を消滅し得るものであることを彼等に對してよく説明せねばならぬ』

これは、中國の民權土地革命過程に於ける、將來の革命變轉が、雇傭農問題と重大なる關係を有することを指摘してゐるのである。吾々は此の雇傭農の單獨組織方針を斷然實行し、雇傭農の農村に於ける數の多寡や、學問、才能の程度如何などを重要視する必要はない。一たび雇傭農に呼びかけて立つたならば、ソウエート區域に於ける最高の雇傭農組合を組織し(省ソウエート區域では全省的雇傭農組合を組織し、縣ソウエート區域なれば、全縣的雇傭農組合を組織するのである)これとソウエート區域に於ける最高の赤色職工組合と聯合せしめ、以下區分會、農村支部、細胞と、雇傭農組合の一貫したる組織系統を成さねばならぬ。經常的には、區或は縣或は省の雇傭農大會

を召集すること、(これは決して少数ではない)そして彼等の政治的訓練を強化し、積極的に彼等の階級闘争を啓發し、土地革命の先頭に彼等を持ち來すことは、第六回大會の方針を正確に實現する所以なのである。斯くすることによつて土地革命は徹底的に解決され、富農の反動的作用は消滅し、そして農村革命の基礎的勢力が建設され、農民の同盟軍を指導しては、社會主義革命の變轉に必要な威力を準備して、完全なる農民の解放と勝利とに到達し得るのである。

もう一つの問題は、ソウエート區域に於ける雇傭農に土地を分配すべきや否やの問題である。原則的には雇傭農は土地を所有する必要はない。何となれば、雇傭農は土地革命の任務を有し、而かもその指導者となつて、封建制度の消滅を徹底させ、土地國有を實行し、出来るだけ早く社會主義革命へとこれを導かねばならぬからである。従つて私有制度は根本的にこれを消滅し、農村經濟をして社會主義的集體的生産化と、完全なる農民の解放へと向はしめねばならぬからである。

然し、この原則の實施は機械的な運用であつてはならない。若し雇傭農が痛切に土地の分配を要求するならば、これに土地を分配して彼等の要求を満たさしめる必要がある。

問題は雇傭農が當然土地の分配を受くべきものか否かではなく、雇傭農運動を如何に進行さすべきか、如何にこれを組織すべきかが主眼であつて、且つこれと雇傭農の利益を保護する法令とを關聯させることが必要なのである。ソウエート區域に於ては、斷然雇傭農に對する原則的方針を實行し、雇傭農の獨立的組織、ソウエート労働法の實

行はもとより、彼等をして土地革命過程に於て生活の改善を取得せしめ、赤軍やバルチザン部隊に入り込ませしめ、ソウエート政府の機關に在つては、その指導的地位に居らしめ、且つ彼等の政治的水平線を高め、土地革命に於ける彼等の指導的作用を深く了解せしめ、富農に對する階級闘争に於て、社會主義革命への進路を獲得せねばならぬのである。斯の如くなれば、雇傭農は、土地所有の不必要を自覺するであらう。これと同時にソウエート區域に於ては、雇傭農及び貧農を指導して農村組合を開始し、農村をして集體的生産の初歩的訓練を受けしめねばならぬ。然し、この工作はもとより、實際的教育の初歩的訓練であつて、決して直ちに社會主義を建設しやうとするのではない。

雇傭農の獨立的組織と、積極的に雇傭農運動を起すことに至つては、ソウエート區域に於ける重大なる問題であつて、中國共產黨のすべての農村支部に於ける最も切迫せる任務である。

五 ソウエート區域に於ける農婦工作

土地革命が日に増し深刻化し、ソウエート區域が日に増し擴大進行して行く時に當つては、農村に於ける廣大なる農婦大衆が續々として闘争に参加し、且つ常に最前線に立つて、勇敢に彼等の特殊な作用を表示してゐる。惟ふに各地共、その闘争の發展をすべて成り行きに任せて農婦運動の計画的系統的工作が殆んどなく、従つて黨の農婦運動に對する指導を強化することが出来なかつた。これは極めて重大なる損失である。特に闘争が起つた後には、婚姻問題、養子問題を普遍的重大問題化するものであるのに而かも此等の問題に對する適當なる解決方法を講ずる

ことも甚だ少なかつた。その爲に紛糾をかもし、農民の反對を買つた事は極めて吾々の注意に値する問題である。故を以て、特に茲にソヴェート區域に於ける農婦工作を提出し同志の注意を喚起すると共に、ソヴェート區域に於ける農婦工作をして更により結論と、そして方法とを作り出し、以て農婦運動に對するプロレタリアの指導力を強化しなければならぬ。

一、ソヴェート區域に於て農婦工作に對する主たる前提は、廣大なる農婦大衆を動員し、これをして闘争に参加せしめ、土地革命、地方的暴動及びソヴェート建設の工作に参加せしむることである。そして闘争に當つては必ず農婦自身の解放運動に注意し、彼女等の束縛を解除してその闘争能力を増加せしめねばならぬ。かくして封建的勢力の更に徹底的破壊を爲し、封建的思想を更によく掃倒せしむるのである。故を以てソヴェート區域及び闘争發動の地方に於ては必ず農婦自身の利害に關するスローガンを提出し、これと一般的な政治的及び經濟的要求と聯繫せしむる必要がある。かくて、廣大なる農婦大衆を發動して、その積極的なそして熱烈な参加を可能ならしめ、黨の農婦に對する影響を擴大して、農婦大衆を黨の周圍に引き寄せねばならぬ。

二、吾々の提出する農婦自身の利害に關する要求が、農民の反對を引き起すことが問題とならないだらうか。過去に於ても多くの地方（湖北、江西等）で農民の反感を引起すのを恐れて農婦自身の要求は提出しなかつた。甚だしいのになると農婦運動を放棄してしまつたものさへある。これらの極めて誤つてゐることは云ふまでもない。吾々は農民の反對などを恐れて農婦の要求を提出しないなど、云ふことはあつてはならないばかりでなく、農民

に宣傳し、これを説服して、反對せしめない様にし、むしろ農婦の解放運動に同情し賛助せしむる様にしなければならぬ。吾々は、農婦の解放と農民運動とは極めて大なる關係があり、農婦解放運動は農民闘争と土地革命の勝利を更に速かならしめるものであることを指摘せねばならぬ。結婚の自由、離婚の自由、婦女の賣買反對……などは皆同様に農民にとつて有利なものであるのだ。故に吾々は斷乎として農婦の利害に關する要求を提出し、農婦の闘争を指導し、これと同時に農民大衆に向つてこれが詳細なる解釋を試み、宣傳又は説服の方法を用ゐて彼等の封建的思想を打破し、彼等をして農婦解放運動に同情と賛助とを與へしめねばならぬ。

三、ソヴェート政府成立の第一日に於て婦女の解放とその保護に關する法令を公佈すべきである。そして婦女には政治、經濟、法律、及び教育に關して男子と同等の待遇を與へ、従つてソヴェート政權下に於ける婦女（これは農民の婦女であつて富農分子のそれではない）は、土地所有權、選舉權、被選舉權、結婚及び離婚の自由を有ち、且つ彼女等をして積極的にソヴェート政權の工作に参加せしめねばならぬ。

四、ソヴェートは、その分區、分村に於て經常的に農婦會議を召集し、農婦の政治及び文化教育を強化せねばならぬ。そして農婦の爲に各種の訓練班や學校を設け、専門的工作人材を養成する必要がある。救護學、運輸、交通斥候等の工作技術等がそれである。

五、廣大なる農婦大衆を號召して赤軍を擁護し、且つこれを援助せしむること。慰問隊を組織して赤軍を慰問し洗濯隊や裁縫隊を組織しては赤軍兵士の爲に洗濯及び裁縫の任に當らしむることなどがそれである。運輸隊を組織

して赤軍の爲に日用品や食物を運ぶことも亦必要である。

六、ソヴェート婚姻法がまだ出来上らないうちは、婚姻問題の解決は只原則的決定があればよい。現在用ふべきものは次の諸點である。

- 1 離婚は、必ず双方の同意を経ること。
- 2 一方が離婚を申出で、相手方がこれに不同意な場合には、ソヴェートに提出して解決し得る。而てソヴェートは次の數項の一に該当するものは離婚することが出来る。
 - イ、生理的不具者
 - ロ、感情の劣悪なるもの
 - ハ、生活困難なるもの
 - ニ、年齢の差があまりに甚だしいもの
 - ホ、妻にして夫の虐待に堪え得ないもの
 - ヘ、夫にして妻の虐待に堪え得ざるもの。
- 3 以上の諸項の一に該当せず、或は故意に、或は又他人の離間挑撥によるものは、ソヴェート政府はその離婚を許可しない。
- 4 重婚、畜婢畜妾、買賣結婚、掠奪結婚、誘拐結婚、強迫結婚等は皆これを禁止する。
- 5 此の條項に觸れないものは、双方の同意の下にソヴェート政府に登録して結婚することが出来る。以上の婚姻問題解決方法は當然十分に完備したものではない。只目前の問題を解決する爲に比較的適當なものであるに過ぎない。或る地方の如きは既婚者及び婚約者の離婚を禁止し、又は、結婚は双方の村の農民協會の許可を要するものがある。前者は婦女をその壓迫及び苦痛から解放し得ないものであり、後者は、父母のみの意志で

あることの代りに、農民協會がやるのと異なる。これ等の方法はすべて改正を要するものであることは勿論である。

最後に提出すべき問題は、農村の工作同志とソヴェート區域の工作同志達とは、鬭争工作、その生活、行動、男女關係等に關してよく注意せねばならぬ。即ち、右傾、サボタージユ、腐敗、ローマンテツク等の不正確な傾向を極力防止することである。黨がよりよき注意と訓練とを爲すばかりでなく、各同志も自覺的に自らの教訓を強化して堅固なる自律的精神を養ひ、よく大衆の前衛となつて、これが信頼を勝ち得なければならぬ。そしてそれは結局工作の絶えざる進展となり、良好の收穫となるのであらう。(鄧穎超)

第三 中國赤軍の問題

一 ソヴェート政權と紅軍

ソヴェート政權は一種の革命的政權である。従つて此の種の政權は、革命的大衆の武装暴動の上に建設されねばならぬ。そして内部及び外部の反革命勢力に對して激烈なる武装鬭争を爲さねばならぬものである。特に現在の如き地方的ソヴェート區域に於ては、全國的ソヴェートの獲得をその任務と爲すものなるが故に、更に有力なる武装組織を必要とせざるを得ない。全國的革命高潮の以前に在つて赤軍の發生したことは、ソヴェート區域が、やはり全國的革命高潮以前に存在し得たこと、同様な客觀的條件を有つものである。就中注意を要することは、農村に

於ける階級闘争が激烈である爲に、革命の全國的高潮がまだ到來しない中に、實際的な土地革命の闘争が起り、地主階級の土地を奪取分配し、従つてその武装に於ては、當然政權の成立を必要とし、又赤軍の發生を必要とするといふことである。故に地方的ソウエート政權と赤軍とは、すべて土地革命と密接に關聯して居り、従つて土地革命の擴大と發展とは、ソウエートと赤軍の擴大を隨伴し、それと同時にソウエート及び赤軍の擴大は、革命そのものをして更に前進發展せしめ、土地革命の深化とその擴大を招來するものである。

ソウエート區域に於ては、農民バルチザン、自衛軍或は赤衛隊の組織だけでは絶対にいけない。是非出來るだけ正式な赤軍の組織を擴大しなければならぬ。何となれば、現在のソウエート區域に於ける任務は決して平和的割據に在るのではなく、出來るだけそれを擴大し、全國的ソウエートを戦ひ取る一種の動力たらしめねばならぬからである。故を以て各ソウエート區域に於ては、僅かにその區域を保衛するだけでは駄目である。是非共全國的ソウエートの獲得を主要目標として赤軍の擴大を謀らねばならぬ。赤軍の擴大することのみが、一個偉大なる勞農革命の武装組織を建設し得て、ソウエートの全國的勝利を促進するものだからである。

今や或るソウエート區域に於ては赤軍の武装に根據して前進しつゝあるのを吾々はすでに見る。そしてそれは赤軍の偉大なる作用をすでに證明した。若し誰かが、赤軍の戦勝に基いて區域を取得するといふ事は、單純なる軍事的勢力であつて、決して大衆の闘争的勢力ではないと思ふものがあるならば、それは完全に書生の見解であると云はねばならぬ。即ち赤軍それ自身が決して雇傭軍隊ではなく、それは實に大衆の武装闘争から發展して來た武装組

織であり、従つてそれはプロレタリアの指導下に在る勞農革命軍であつて、斯の如き勢力を以て獲得した勝利は決して單純なる軍事的勝利であるとは云ふことが出來ないのである。

若し赤軍の占領地方に於て大衆的威力を擴大せず、大衆を援助して彼等の政權を樹立し、そして土地革命の深化を謀らないならば、それはもとより重大なる日和見主義的錯誤である。吾々の赤軍は決して斯の如きものであつてはならない。それは赤軍の基礎が大衆の革命的活動の上に建設されてゐるからである。

ソウエート政府と赤軍との關係に關しても、非常に注意に値する問題がある。或る區域でソウエート政府を組織したならば、その區域内のあらゆる政權は完全にソウエートの手中に集注さるべきが當然である。赤軍は只軍事的組織であり、従つて無條件にソウエート政府の命令を受けすべきが當然であり、決して國民黨式の軍事專制は許さるべきではない。同時に各個の赤軍の兵士は應にソウエート政府の積極的擁護者たるべく赤軍の兵士と勞農大衆とは同一の資格と權利とを以てソウエート政府に参加しなければならないものである。然し、ソウエート政府の赤軍は、如何なる事情の下に在つても、常にそのソウエート區域の防衛者たるばかりでなく、全國的ソウエートの創造者でなければならぬ。この故にソウエート政府は最大の能力を用ゐて赤軍を擴大し、これをして更に廣大なる區域に向つて發展せしむる様になければならぬ。(鐵拳)

二 赤軍論

一、赤軍發生の基礎とその發展

世界的潮流より後れてゐる中國の政治、經濟及び地理的條件に於て、特に土地革命の尖鋭化は、中國革命に對し特殊なる條件を與へ、土地革命の深刻化とその發展過程に於て、中國革命は一個特殊なものを獲得した。これがすなはち赤軍である。此の革命的軍事的組織形式は、文化の後れてゐる政治、經濟及び地理的條件に於て、生長し發展し、そして偉大なるものとなり得るものなのである。

今や全國に於ける赤軍の驚くべき發展は、その數に於てすでに十萬に垂んとし、此の特殊なるイスクラは到るところ、吾々をして大暴風雨の將に到らんとする形勢を感知せしむるに足るものがある。而かもこれは何人にも打ち消し得ない明白なる實在なのである。中國革命に於て斯の如き奇異なる現象（事實は何等奇異と爲すべきものではない）があり、又革命的暴動以前に正式なる赤軍の發生があるといふことは、清算派一派から謂はせれば奇怪至極でもあり、又夢囈でもあるのだ。然し事實は完全なる答辯を清算派に與へてゐる。一九二五年から二七年にかけての大革命は大衆に何者を與へたか、一九二七年の失敗の後、國民黨の分裂があり、その殘酷なる暴政と無情なる屠殺とは何者を大衆に與へたか、若し吾々が此間の事情を了解したならば、赤軍なるものは決して天降りのものではないことを知り得るのであらう。

中國の革命過程に於て赤軍は一の特異性を有つて居り、そして特殊なる意義を有するものである。若し吾々が斯の如き事實を玩味したならば、彼の勞農大衆の云ふ「赤軍に参加しやう」「赤軍は何時吾々のところまで來るのか」の眞意が分明し、工場裏に於て赤軍の勝利を語る工人、外郷にまで赤軍をたづねて行く農民、又は、行軍中にも朱毛の所在をたづねて千里をも還しとせず、これを尋ねて行く兵卒大衆の氣持を察知し得るであらう。斯くて日和見主義者達の譏は一錢にも値しないものとなる。

元來下級の清算主義者は、どんな問題に對しても必ず、彼等の墮落してゐる本性と十分なる反革命性を露出するものである。陳獨秀、汪精衛の合同芝居は決して偶然ではないのである。赤軍に對し、侮蔑し、謠言を放ち、漫罵と咀咒とを與ふることは、彼等に共通の事實である。然し謠言は事實に打ち勝ち得ず、しかも此の事實の發展は正に清算派の醜態を暴露するに足るものがある。

故を以て吾々は、全黨員に呼びかけ、更に、最大の努力を以て赤軍を樹立しなければならぬ。「中國はその革命過程に於て五十萬の赤軍を有つことが出來たならば、革命はその勝利に到達し得るであらう」と中國代表に語つたスターリンの言葉を思ひ出す。吾々は此れを方針としてはゐるが、今にして始めて此の語の眞意を了解することが出來た。吾々は應に十萬の基礎の上に立つて更にこれを五十萬にまで擴大せねばならぬ。

二、赤軍とは何ぞや、赤軍の任務は如何

赤軍は勞農の革命的軍隊である。それはすでに勞農革命の任務を負擔してゐるが、何處にそれが實現されたか。清算派の先生達の馬鹿さ加減を吾々は次の事實によつて見ることが出来る。龍州に於ける赤軍は帝國主義國フランス領事を驅逐し、且つ帝國主義者の財産及び教會堂を沒收し、全國各地に於ける赤軍もすべて封建勢力を破壊してソヴェート政權を樹立し、徹底的に民權革命の任務を完成せんとしてゐる。そして赤軍は到るところ大衆の熱烈な

る歓迎を受けてゐるのだ。陳獨秀や汪精衛が「盲動」流寇」又は「土匪」など、如何に叫んでもそれはすべて讒言ではないか。若し陳獨秀と汪精衛の謠言が事實であるならば、赤軍は即ち「匪」であつて大衆の歓迎などあるべきでない。而かも何が故に江蘇の農民大衆は太湖に蟠踞する「天下第一軍」を歓迎して止まないのか。若し赤軍を歓迎しないものがあるとするれば、それは歓迎しないばかりでなく、これを痛恨しこれを咀罵するものであつて、それは豪紳地主、買辦、資産階級である。何となれば赤軍は彼等を革命せんとするもので、汪精衛如きも赤軍に對して咆哮漫罵を爲す所以は赤軍が彼等の基礎を動搖させるものだからである。然し陳獨秀が汪精衛と合流するのは偶然であらうか、吾等が彼を稱して反革命と爲すは事實に遠いことだらうか。そしてその何れが彼を汚辱するものだらうか。

赤軍は勞農革命の軍隊である。その任務は、全國的ソヴェート政權の爲に闘争することである。現在の革命階級に於ける十大政綱こそは赤軍の行動綱領であるが、然し同時に、闘争に際してはその地方の實際狀況に則して別個の闘争スローガンを提出する必要がある。

三、赤軍の戰略と戰術

赤軍の戰略と戰術の問題は、一個興味ある問題を提供する。何が故に大部隊の軍閥軍隊が少數(狹義に解して)赤軍を消滅し得ないのかといふことは極めて興味ある問題でなければならぬ。

戰略と戰術とは經濟的條件がこれを決定する。中國に於ける封建的殘餘勢力の存在は正しく軍閥制度出現の基礎であり、従つて軍閥の軍隊の戰略と戰術とは當然この基礎の上に建設されたものでなければならぬ。更に説明すれ

ば吾々は帝國主義とブルジョアジイの軍閥軍隊の戰略と、戰術とに對する影響を否認することは出来ない。但しそれは一般的であるといふ譯には行かない。

封建軍閥の軍隊はその封建的特殊性に根據を置き、而かもそれが幾多の集團に分裂して、地盤とそして勞農大衆の血と汗とを争奪してゐるが爲に、彼等は個人的利害の上に立つて動き、従つて如何なる軍隊と雖も自己の武力を犠牲にせんとはしない。これが彼等の赤軍殲滅威力を減殺してゐるのだ。反動的軍閥は三省共力して朱、毛の赤軍を殲滅せしめんとしたが、何健と金漢鼎、又は何健、金漢鼎及び張貞等の間柄が正しく此間の矛盾を反映してゐるのである。

軍閥軍隊の基礎は貧窮者と失業者化した農民であつて、土地革命と赤軍の發展とは此の軍閥の基礎的條件を破壊してゐるのである。人力が戰術の主要原素であり、兵士の動搖はその作戰の重心を失はしむるものである。赤軍に遭遇した兵士は到るところ、大舉して赤軍側に寝返りをしてゐる。これは軍閥が赤軍と戰を爲すに際し、如何とも引き止める方法がないのである。

農村に探偵や間諜を放つて戰争を失敗させる方法は、軍閥が赤軍を攻略する時の作戰としては不利である。此の事實が、吾々が最先きに提出したる問題に對する適當な回答であり得るであらう。そしてこれは清算派の云ふが如く、赤軍は「土匪」であつて山中に躲避してゐるものではないことを示すものではないか。故に現在では、赤軍に向つて進撃する時には防禦的進撃を爲してゐる。そして赤軍は勞農革命の軍隊たるが故に、敵を殲滅する決心を有し

而かも戦術上の主要なる原動力たる大衆の勢力は、只革命的軍隊たる赤軍のみが獲得し得るものであつて、大衆的威力を以て敵を殲滅し、又瓦解せしめ、その敵を獲得して吾々の豫備の武器を供給することになるのである。これは實に意味のあることではないか。吾々は大部の兵士が如何にも親しそくに武装したまゝ赤軍に投ずるのを見る。これは清算派の思ひも及ばぬ事なのである。

斯くて吾々は、目下の形勢に對する、赤軍の戦略と戦術とは、應に威力を集注して統一ある指揮下に立たしめ、交通發達の區域と中心的都市とに向つて進撃し、敵の主力に打撃を與へこれを瓦解せしめることではなければならぬ。而して赤軍は此の戦略と戦術とを實行するに際しては應に一點の動搖もあつてはならない。此の戦略は、都市に於ける工人闘争の高揚、農民暴動、兵變等各種の革命的勢力と合流して一省或は數省の政權を獲得せねばならぬものである。

四、都市に進撃するを要しないか？何をか「農民が工人を領導する」と云ふか？

これに就ては、赤軍に對する右傾的觀念を發見する。吾が右傾的分子は今や恐慌を來し「赤軍の發展は餘りに早過ぎる、工人は追いつき得ない、これはいけない、これこそ「農民」が工人を指導するものではないか」と悲鳴を擧げてゐる。そして、これは農民意識が發展したものであるといふが、それはどういふ意味か、彼等が赤軍を農民バルチザンと看做してゐることが、この錯誤を生ずる所以なのである。そして工人闘争の形勢を過小に算定するところが、即ち右傾ではないのか。若し果して彼等の云ふが如くならば吾々は赤軍に向つて次の如く説くであらう。諸君は、今日ではまだ鄉村に歸つて隠れてゐる方がよい、まだ時期が早い、工人はまだ立つて君等を指導しないし、

吾々にも工人の組織がよく出来てゐないから、ユツクリ立つがよい、と。斯の如き錯誤の由つて來る所以は、實に、赤軍がプロレタリアの指導にかゝる勞農革命軍であり、そして革命の高潮の到來を推動する直接的動力の一であることの意義を了解してゐないが爲であり、更にプロレタリアの指導なるものを機械的に理解して、共産黨の正確なる指導こそプロレタリアの指導であることを了解してゐないからに外ならぬ。

赤軍の威力を以てして武漢を攻略すべきや否やの問題に至つては（革命的條件がすでに完備してゐるや否やに關せず）その問題自身が邏輯に合せざるものである。吾々が是非知らねばならぬ事は、

- 1 武漢の政權を奪取して先づ革命の勝利を得るときはそれは、必ず革命の全國的高潮が到來した時である。
- 2 武漢を奪取する時は、勞農兵の大衆的威力が必ずや一つに合流する時であり、特にプロレタリアの指導が始めて可能となる時である。

3 若し武漢に於ける工人闘争が高潮しないならば、赤軍は武漢を奪取することが不可能であり、それと同様に若し赤軍が武漢へ進撃したならば工人闘争は必然的に高潮を呈するであらう。何となれば赤軍の發展は一般的革命的形勢の發展に隨伴するものであつて、決して此の一般的革命的形勢と分離して發展し得るものではないからである。

最後に一言すべきことは、吾々は今や十分なる努力を盡して赤軍を建設しそしてこれを擴大すべきであり、従つて吾々のスローガンは「五十萬」の赤軍を迅速に實現する使命を絶叫することではなければならぬ。（關向應）

第四 ソウエート區域と赤軍の概況

一 その全般的形勢

全國に於ける勞農闘争は正に復興しつゝあり、農民大衆の武装闘争も日に増しその普遍的發展を見る。特に南方各省に於ける土地革命の深化とソウエート區域の擴大及び赤軍の發展とは制禦するを得ない大勢となつた。今各省に於て比較的重要なる區域に就いて、ソウエートの發展狀況を述べるであらう。

一、江西省

江西全省は南昌附近の一隅を除けば、すべて赤色區域の版圖となつてしまつた。(反動派も自ら八十一縣が、悉く共產黨の勢力がないところがないと認めてゐる)贛江に沿ふて下つた赤軍の勢力は吉安縣下游の峽江縣にまで達してゐる。その他東部、西部、北部の各區は、農村の殆んど全部が武装勞農大衆の活動範圍であり、都市も亦その多數が赤色化してゐる。次に江西省八十一縣の中赤色版圖に屬するものを舉げて見やう。

北部 瑞昌、永修、安義、德安、星子、九江
西北部 武寧、修水、銅鼓
西部 萬載、萍鄉、分宜、新喻、安福、蓮花、永新、寧岡、遂川、萬安、泰和、吉安、吉水、峽江、宜豐、上高

南部 興國、零都、寧都、樂安、永豐、崇仁、宜黃、臨川、南豐、廣昌、石城、瑞金、會昌、信豐、贛州、南康、上猶、崇義、安遠、龍南、定南、虔南、大庾
東部 弋陽、橫峯、貴溪、玉山、廣豐、上饒、鉛山
東北部 德興、樂平、鄱陽、浮梁(景德鎮)湖口

二、湖北省

湖北は江西と同様、武漢三鎮を除けば、他は、白色統治の範圍外に在る。全省に亘る農村及び多數の市及び縣は皆赤色區域内に包含され、甚だしきは武漢郊外の數十里附近まで、赤軍、バルチザン、又は赤衛隊の足跡が印せられてゐる。赤色の各縣は次の如くである。

東部 陽新、大冶、黃岡、蕪水、蕪春、鄂城、黃梅、廣濟
東北部 黃安、麻城、羅田、黃陂、孝感
北部 鄖陽、襄陽
西部 施南、鶴峯、五峯、巴東、宜都、松滋、枝江、荊州、江陵、公安、石首、監利、沔陽、潛江、宜昌、沙市、長陽、宜恩、漢川

南部 咸寧、薄圻、通城、嘉魚、崇陽、通山

三、福建省

西部の各縣は完全にソウエート區域であり、しかも赤色の勢力は漸次開展して南部及び北部にまで及んだ。即ち次の如くである。

西部 長汀、上杭、武平、龍岩、永寶、寧化、清流

南部 平和、漳平、大田

北部 建寧、歸化、將樂、邵武

四、廣 東 省

東江、西江、北江及び瓊崖、その總てが鬭争の歴史を有つ區域であつて、曾つて國民黨軍閥の嚴重なる壓迫を蒙つたが、農村に於ける大衆的武装組織及び農會は、尙ほ多く存在してゐる。最近では東江及び瓊崖等の地方に於て勞農大衆の鬭争が又攻勢を示し、赤軍の出沒が、反動政府のテンテコ舞ひを惹起せしめてゐる。最近に於て鬭争の激烈なる地方は次の諸縣である。

東江 豐順、梅縣、饒平、大埔、興寧、五華、蕉嶺、平遠、海豐、陸豐、紫金、河源、惠陽、普寧、惠來、潮

安、揭陽、澄海

瓊崖 瓊山、文昌、定安、瓊東、樂會、萬寧、陵水

五、廣 西 省

廣西省のソウエート區域は、勞農兵大衆が蔣介石と廣西軍閥との戰爭中に造りあげたもので、廣西省西部の二十

餘縣が皆ソウエートの影響下に在る。その中心的各縣は、

百色、奉議、恩隆、恩陽、果德、隆安、養利、東蘭、南丹、河池、那馬、龍州

六、湖 南 省

湖南全省の勞農大衆は、長期の鬭争を経験してゐるが、白色テロルの累次の高壓に遇ふて大衆的組織が大破壊を蒙つた。然るに東部と西部の二大ソウエート區域は兩三年來常に存在し、最近は擴大の趨勢に在り、南部に於ける鬭争も漸次に發生して來た。

東部 平江、瀏陽、醴陵、攸縣、茶陵、酃縣、桂東

西部 桑植、永順、石州、慈利、澧縣、安鄉、華容、大庸、龍山

南部 耒陽、郴縣、宜章、汝城、資興、新田、甯遠

七、河 南 省

南部地方の湖北、安徽と接してゐる地方は、由來幾年かの鬭争の歴史がある。現在赤色勢力は更に鞏固となり且つ擴大の形勢裡に在る。そして此の地方の紅槍會の大部分が漸次革命化しつゝある。商城は此の區域の中心地であつて、これに次ぐものは光山、羅山の二縣である。西部に於ても亦廣泛なる農民の武装鬭争が起つて來た。

八、四 川 省

四川省の民衆は、無數の小軍閥の搾取と、そして屠殺とを蒙つて、納税に反抗する「神兵」運動を起し、それが東部

各縣に蔓延してゐる。一九二九年には、贛糧助の一個旅が叛旗を翻し、その全部の兵卒がソウエートの旗幟下に走つて來た。共產黨の政治的影響は日に増し普遍的となり、廣大なる兵士及び農民及び東北部、東南部各地に於ける「神兵」が、日は一日と革命化しつゝある。此等「神兵」の萬源、城口、開江、墊江、鄰水、長壽等の諸縣に於ける勢力は極めて大である。彼等は納税、糧食徵發、高利搾取への反抗及び打倒軍閥をスローガンとして、ソウエート政府の樹立を準備してゐるのである。要するに四川省に於ける「神兵」の大部分はすでに赤軍との合流を自覺してゐるからその前途の如何に有望なるべきかは推想するに難くないのである。

九、安徽省

北部各縣では、由來、敗兵や土匪などが隊を結んで豪紳、地主の秩序を破壊して居り、西部の、湖北東部と河南の南部に近い地方では當然それ等の地方に於ける鬭争の影響を受け、従つて、大衆の革命的鬭争も亦漸次活潑となり、バルチザン戦争もすでに開始された。英山、霍山、六安、霍邱等の縣は皆赤色區域である。最近の新聞が傳ふところでは、霍山もすでに赤軍に占領されたとある。

十、江蘇省

江蘇の宜興、江陰、無錫の各縣は一九二七年に於ける暴動區域であり、小鬭争は始終絶えない。最近では、江北の各縣に於ける鬭争が激烈となり、幾多の失業農民の自發的武装騒動が頗繁である。大刀會、小刀會等の如きがそれだ。彼等は豪紳、富農若しくは軍閥などにまで利用され易いけれども、一部の革命化も亦争はれない形勢で

ある。南通、如皋、泰興、清江、泰縣の江北の諸縣は赤色農民の武装鬭争が最も激烈なる地方である。

十一、浙江省

浙江省西部の蘭溪、義烏等の縣は曾つて著名なる鬭争が発生したところであり、近來鬭争の最も激烈であるのは永康、武義、宣平、遂昌等の諸縣である。最近では江西省東部の赤軍が浙江省に入つて來てバルチザン戦争に従事した爲に、江山、常山等の縣も亦赤色區域と變じた。

以上の如く、農民バルチザン戦争の區域はすでに十一省の範圍にまで蔓延し、就中江西、福建、湖北、湖南、廣東、廣西の六省がその勢が最も大である。此等の省に於ては、すでに地主階級の土地を沒收してこれを貧農や兵士に分配し耕作せしめてゐる個所が少なくない。ソウエート政府を建設した地方は更に多い。或る地方では、ソウエートの形式はないけれども、すでに實質的な農村ソウエートを有つところがあり、或は革命委員會を成立して、従つて政權が農民協會或は農民委員會に歸屬してゐるところもある。

その他の五省は、赤色の勢力が廣大なる區域を支配するには到らぬけれども、然し發展の形勢は甚だ速かである。四川省、河南省には曾つてソウエート政權が成立したことがあるのである。

此の外北方の各省に於ては大飢饉の後に、自然發生的農民鬭争が紛々として起り、それが迅速にソウエートの方向に進んでゐる。直隸省の玉田、遵化等は正に廣大なる農民鬭争とその組織とが發動して居り、而かもそれが加速度的にバルチザン戦争に變化する趨勢に在る。直隸南部の磁州一帯には更にバルチザン戦争の廣大なる基礎が出來

上つてゐる。又北部の懐柔、密雲から房山、易縣一帶に亘つては皆バルチザン戦争を準備しつゝあるのである。東三省のソウエート聯邦へ進撃する前線に當つた滿洲里、同江、富錦などはソウエート聯邦の赤軍の影響を受けて兵變を起し、それ等が皆農村に至つてバルチザン戦争を始めてゐる。該地方の勞農兵等はソウエート聯邦攻撃反對の種々なる行動は、大衆のソウエート政權に對する認識が相當なものであることを表示してゐる。

之を要するに、ソウエートの旗幟は晉に楊子江の南北に飛揚するのみではなく、すでに珠江流域、長江流域から黄河の流域に向つて發展し、又廣東、福建の東南部から蠻烟瘴雨の雲南廣西の境にまで達してゐるのである。(典琦)

—此の文は本年一月に草したものであるから現在は更に擴大されてゐる—

二、赤軍の全國的概況

革命の全國的形勢が日に増し展開しつゝある時に際し、赤軍も亦自然これに隨伴して擴大し、そしてそれが、此の局勢を推動する主要動力の一となつてゐるのだ。彼等は長期間の闘争の歴史を有し、バルチザン戦争を應用して無数の闘争を起し、多數の大衆を組織し、彼等の武装的蜂起を幫助し、土地革命を實行して、ソウエート政權を樹立し來つた。のみならず最近に於ては龍州に於て帝國主義の銀行財産を沒收し、帝國主義國の領事や宣教師を追ひ拂つて、封建的勢力の掃倒、帝國主義打倒及び地主、買辦、資産階級、國民黨の反動的統治の顛覆等、民權革命の段階に於ける主要任務は徹底的にこれを實行したのであつた。

目下革命の全國的形勢は漸次高潮に向ひ、反動的統治は極度に動搖し、崩潰しつゝあり、而して赤軍は勞農大衆

の全國的擁護の下に、積極的にその勢力を集注し來り、統一ある指揮下に在つて、交通の要衝又は中心的都市に向つて進軍し、都市の工人闘争、地方的暴動、兵變、その他一切の革命的勢力と全國的合流を爲して、重大なる打撃を敵に與へ、最後の勝利に向つてその歩を早めつゝあるのである。彼の體裁を飾るブルジョアジイの機關紙すら、赤軍が都市を占領した記事を一日として記載しない日はないではないか。赤軍の聲勢は、實に、全中國を震動せしむるばかりでなく、世界到るところ全く、吾が赤軍戰鬪の喊聲を聞き得るのである。

英雄的闘争中に於て、赤軍の組織は急速に進展し、正に一日萬里の勢である。現在すでに成立してゐるものが合計十四軍、人數約十萬、その主要なる成分は貧農であつて、平均全數の約六〇パーセント、銃器六萬以上、大砲二百門、飛行器五臺、これ等が湖南、湖北、江西、福建、廣西、河南、安徽、江蘇、浙江、四川の各省に分布してゐるのである。湖北東部の第九軍、湖北西部の第十軍及び浙江南部の第十三軍の三軍に就いては、未だ詳細なる報告に接しないが、その他の各軍の情況は次の如くである。

1 第一軍

湖北省東部の赤軍第三十一師、河南省東南部の第三十二師及び安徽省西部の第三十三師とが合編して成立したもので、人數五千三百、六〇パーセントが貧農である。武装者は三千以上、飛行器一臺、三十一、三十二の兩師はすでに三年間の闘争の歴史があり、且つ土地の分配、政權樹立の工作を開始した。現在は湖北、河南、安徽三省の境界でバルチザン戦争をやりながら武漢三鎮に向つて發展しつゝある。

2 第二軍と第六軍

第二軍はすなはち賀龍の指揮する軍隊であつて、東江に於ける失敗後、轉じて湖南の西部邊境に入り此の兩三年來幾多の奮闘を経過して、五六千の農民を武装し、湖南湖北の西部一帯に亘つて游撃し、すでに土地革命を開始し、政權を樹立してゐる。この人數六千、その中の四〇パーセントが貧農であり、武装者は四千六七百ある。第六軍は、湖北西部の農民闘争から成長したもので、従つて貧農はその全數(六千人)の八十五パーセントあり、五千以上の武装者を有し、軍長は曠繼勛。集注政策を實現する爲に、最近では、一縦隊を派遣して第二軍と聯絡をとり、且つ第二軍と共同の指揮機關を組織し、賀龍をその總指揮に推して武漢方面に向つて發展してゐる。

3 第三軍、第四軍及び第五軍

第三軍は江西省西南部の第二、第三、第四の各團及び第一、第二大隊が合編して成つたもので人數五千人以上、多數はその地方の貧困なる農民である(約八〇パーセント)。武装者四千六七百、廣東北部、湖北東部及び江西省西南部一帯に亘つて游撃してゐる。

第四軍は即ち朱毛の指揮する軍隊であつて、それは、武装した八千の勞農の英雄的闘争によつて建設されたものである。そして湖南省東部及び南部、江西省西部及び東南部、廣東省北東部、福建省西部一帯に亘つて三四年間の戦闘を経過して、二三百萬の農民を組織し、一萬以上の大衆を武装せしめて、湖南、江西、福建、廣東四省の幾多の白色軍を撃滅し、これ等四省の廣大なる大衆闘争を推動して、幾多の土地を分配し、無数のソヴェート政

權を樹立した。

第五軍は二年前の平瀏の暴動の産物であつて、彭德懷指揮の下に、湖南東部、湖北南部、江西西部の各處を游撃し第四軍と共に光榮ある歴史を有するものである。人數は七千、その七〇パーセントが貧民であつて、武装者は五六千である。先達までは第四軍と聯合して、江西省を游撃し、長江中部の革命的闘争を推動し、これを地方的暴動へと導いてゐるが、最近では又江西省西南部に在る第三軍と合流し、三軍の合同指揮機關を組織し、朱德を總指揮とし、毛澤東を總政治委員として長江方面に向つて發展し、漢口、九江の奪取と、一省或は幾つかの省の政權樹立の爲に準備してゐる。

4 第七軍

廣西系軍隊が兵變を起した後、プロレタリア前衛分子の指導を受けて、赤軍第七軍を成立したもので、廣西省左江、右江一帯に亘つて游撃してゐる。人數八千、その八〇パーセントが兵變を起した兵士であつて、従つて武装は極めて完備して居り、銃器約八九千挺、飛行器四臺。一月下旬龍州城を攻略し、國民黨の軍閥統治を覆したのみならず、龍州に於ける帝國主義のあらゆる勢力を掃倒し、海關を沒收し、帝國主義フランス教會堂、銀行及び大商店を沒收し、フランス領事及びソヴェートの法令に服従しないすべての外國人を國外に護送してしまつたのであつた。帝國主義及び國民黨は極度の恐慌に陥り、只その雄厚なる武装能力を以て大衆に向つて兇猛なる壓迫を加へ、帝國主義フランスも兵五百、飛行器五臺、爆裂彈四百磅を差遣し、國民黨軍閥と聯合して此の赤色政權を

撲滅せんと企圖したのであつた。大衆は斯の如き殘酷なる進撃に遇ふも、生死を顧みずしてソヴェート政權擁護の爲に戦ひ、フランスの飛行器二臺を奪取したが、遂に衆寡敵せず、暫時退却するの止むを得ざるに至つた。

5 第八軍

第五軍第五縱隊が大冶城を攻めた時に、その防備の爲に派遣された軍隊が即ち獨立第十五旅であつた。彼等は早くより赤軍の事を聞き、赤軍の生活を羨慕してゐたが、これに参加する方法がなかつた。然るに此處に機會は到着し、最先きに第二團第二營第五連の兵士が發動を開始し、各連各團の兵士大衆がこれに續いて陸續として響應し反動的長官を殺し、縣知事を活きどりにし、縣城を占領し、赤旗を掲げて赤軍を歓迎したのであつた。かくて彼等が革命と合流してからは第五軍第五縱隊及び湖北東部の武装農民と共に赤軍第八軍を組織し、湖北の東部及び南部一帯を游撃し、土地革命を實行してゐる。人數五千その多くは背反した兵士で武装者は四千である。現在は湖北の東南部と江西の北部一帯を游撃し武漢方面に向つて發展してゐる。

6 第十一軍と第十二軍

葉挺、賀龍の元との部隊であつて、東江の革命的農民と聯合して組織されたのが赤軍第十一軍である。東江方面を游撃し、惠州に向つて發展してゐる。人數五千、貧農はその六〇パーセントを占め、武装者四五千。第十二軍は朱毛が福建西部に於て武装せしめた農民であつて、人數九千、貧農がその八〇パーセントを占め、八千以上が武装者である。福建西部の十餘縣に於てバルチザン戦争を爲し、すでに政權を樹立し、土地を分配し、現在の勢

力は福建省の北部及び南部に及び、且つ韓江、東江方面に向つて發展し、第十一軍と聯繫を保つて潮州、汕頭の奪取を準備してゐる。

7 第十四軍

現在は只一個縱隊が成立してゐるだけで、これを三支隊に分ち、南通、如皋、海州、泰興等の縣に分佈して游撃してゐる。人數二千、貧農はその六〇パーセント、武装者千餘人。これは益々擴大して長江の中心區域に向つて發展してゐる。(最近の消息によれば第十四軍の人數はすでに四千に擴大し、武装者も二千以上あると云ふ。)

以上の正式な赤軍の外にも、直隸省の南部(磁州)北部(懷柔、密雲等)及び京東(玉田、遵化)或は東三省の邊境(同江、富錦、密山、延吉、海拉爾等)、河南の唐河、鄧縣、四川の萬源、城口、綦江、湖南の新田、耒陽、郴、宜章、廣東の瓊崖、江西の景德鎮、弋陽、橫峯、及び安徽省の南陵等には、すでに皆大小のバルチザン隊が成立し、今や赤軍の組織を建設中である。各處のソヴェート區域に於ける赤衛隊その他の特別な隊伍などでも赤軍に劣らない様な能力を有ち、武器も亦少くはない。今やそれ等は漸次集注して赤軍の組織に轉化する爲の準備中である。

要するに、中國革命が日々に進展し、赤軍の組織も亦日に増大して止まるところを知らず、その前途たるや計り知るべからざるものがある。國民黨軍閥は、云ふまでもなく、赤軍と革命的勞農大衆の爲に―それは全世界の帝國主義も亦同様である―消滅せんとしてゐるのである。(紅旗社)

(思ふに此の文章が根據とする材料は新しいものもあり、古いものもある。古いものは一九二九年の十一月のも

のであり、新しいのでも三月までの資料である。恐らく、赤軍の發展が加速度的である今日に於ては、その數字は多くの加算をせねばならぬだらう。

三 福建省西部ソウエートの情況

イ その過去と將來

閩西八十萬の勞農大衆が闘争によつてソウエート政權を樹立し、朱、毛赤軍の長期に亘るバルチザン戦争の經驗に援助と指導とを獲て、政治的には、確實に偉大なる成績を現はしてゐる。彼等は地主、豪紳、國民黨、軍閥を驅逐し、土地を分配し、工人の生活を改良し、従つてその政治的影響は全福建省及び東江、贛南方面の勞農大衆にまで普遍的に擴大したのである。

閩西ソウエートの實際包括地域は、龍岩、永定、上杭、長汀及び平和、武平、古城の一部であつて、龍岩、永定の縣城はソウエートの統治下に在る。そして日々に發展の状態に在ることは明かである。敵はしばしば共同攻圍を試みたが、殆んどソウエート區域は重大な損失はなく、反つて農民を教訓する結果となり、彼等をして只懸命に闘争を擴大することのみが、生面打開の途であることを知らしめたのである。そして敵の軍隊や民團などの動搖して叛旗を翻すものが日に多く金漢鼎も敢て上杭や長汀に在る軍隊を出動せしめ得ず、劉和鼎、張貞などはその軍隊が閩西から離れることを楽しむ如くである。

東江の大埔一帯に於ける地主豪紳などは、すっかり氣を腐らして、ソウエートへ往來する人々を罰しやうともしない。それは、遅かれ早かれソウエートが必ず此の地方まで發展して來ることを知つてゐるからである。

閩西のソウエートは確實に勞農の政府を出現し、常に大衆會議と代表會議があつて、多くの工人、貧農乃至は婦女までソウエートの代表會又は委員會に参加し、そして一切の權力がソウエートに屬してゐるのだ。ソウエート政府の下では、田地を所有しない農民、又は田地の少ない農民は、すべて分配され、薯皮を食つてゐた貧農は皆白米を食ふ様になり、農村の水道、橋梁、道路は皆大修理が加はり、多くの地方で組合が組織されて、商人の暴利は出來なくなり、且つ安い利息を以て貧苦なる農民に金を貸す様になつた。疾病も無料の診察醫が置かれ、且つ藥品の廉賣が行はれてゐる。そして工人は八時間労働が實施され、工賃は増加し、婦女は又、あらゆる社會的及び家庭的壓迫から解放されてすべて自由を獲得してゐる。

閩西の勞農大衆はソウエート政權に據つて自らを訓練してゐる。土地の分配に當つては、幹部側としては、只その主觀的立場から地主階級の土地を沒收する事のみを考へたが、然し九五パーセント以上に達する貧農は土地の平均分配を主張して止まなかつた。實際、斯の如き貧農がその大部分を占むる如き地方では、あまりに少數であるところの中農や富農の利害を觀點として土地の平均分配に反對することは、正しい事ではない。而して土地の分配に際し、最初大衆は人口に應ずる平均分配を主張したが、老弱又は廢人にまで同様に土地を分配することは、土地の荒廢を結果し、小作米制度が秘密裡に復活することになり、又幼年者は労働を強要される事になることは經驗上證明し得る事なので、遂に彼等も、労働力を基礎とする土地分配方法に賛成することになつたのである。

農村ソウエートの組織に關しては、彼等もすでに經驗があるので幾多の改善が爲された。或る地方では、農村ソウエートは、數ヶ村の大眾を一所にして代表を選挙して組成したものだつたが、直ちにその不便を感じて現在ではその大部分が、一農村が一個ソウエートを組織することに改められた。(あまりに小さい農村は別) 人數の少ない農村では、人民全體會議を最高政治機關とし、別に代表會議を必要としないところもある。最初ソウエートが成立した地方では、開會毎に幾人かの領袖が發言するだけで、農民は只聽衆として、噪いだり、賛否の表示をしたりするだけで、而かも、その多くは領袖の提出した意見に賛成し、婦女の發言などは殆んど問題にされなかつたものだ。然し、ソウエートが成立して、次第に日が経つにつれ、形勢はこれと全く異り、農民は次第に意見を發表する様になり、すでに、職業を有たないところの上級ソウエートの代表の撤回を實行し、ソウエートの鞏固と擴大の爲にはそこに重大なる缺點があれば、遠慮なく指摘することが出来る様になつた。而かも、斯の如く缺點を改善するといふ事は、大眾の注意を喚起したばかりでなく、吾々閩西に在る共産黨も自己の責任を認識して、これ等の缺點の改善の爲に奮闘することに決定したのであつた。

第一に重大なる缺點は、大眾の創造力が未だ充分に發展することが出来ず、ソウエートのすべての政治的施設もその多くは、上より下への精神を表現してゐた事であつた。例へば組合、俱樂部、レーニン學校等を辦理するにもすべて縣ソウエート又は、各縣の聯合會に於て辦法を規定し、これを各農村をして執行せしめたり、上級機關の幹部も主觀的に各農村に於ける工作の一致を要求したり、従つてソウエートの最高執行權力は實際はまだ委員會が握つて

居り代表會議或は大眾會議は只一個の諮問機關に過ぎない様な形勢であつた。斯の如きを以て、大眾は、ソウエート政權の好いところは認めてはゐるが、一部の上級機關の幹部が彼等に替つて爲す好い政府であるが、自らその仕事をする政權機關であるとは、完全に認められない状態であつた。閩西の共産黨はすでに二個の主張を提出した。一は、軍事と財政を除くその他の政治經濟及び文化事業は、出来るだけ各農村の大眾自身の創造を援助する方針を採ることであつて、黨から好い意見を提出すればそれは、一面に於て上層ソウエートの指導工作に影響するは固よりであるが他面に於て特に各支部が大眾中に入り込んで討論を發展させ、大眾をアヂツて、彼等に意見を提出せしめ、かくして、一切の施設は、皆各人の意見を充分に討論させ、相互に競争することとする事である。そして他の一は、今後は、代表會議或は農村民衆大會を最高政治機關と確定することであつて、重要事項は必ず、彼等の充分なる討議を経過せしむる様にし、而かも討議のみではなく、出来るだけ會議に参加した人々を吸引して各種の工作執行に參與せしむることである。黨としては、常に大眾が自己の意見を發展させる事を援助するのみでなく、彼等の工作執行をも援助して、斯くしてソウエートの大眾的基礎を強固ならしむる事が出来るのである。

第二の重大なる缺點はあらゆる能力を集注し、斷然これを外部に向つて發展せしむる事が出来ぬ事及び、多數農民の武装も、一地方に停滯して、地方的性質の赤衛隊以上には出ず、自由にこれを集注し發動することが出来ない事である。客觀的には、軍事を幫助する爲にその資金を集めること、大眾工作の擴大發展とはやゝもすれば、農民に誤解され易いので實行が困難なことである。何となれば、對外的發展が充分でないとすると、彼等は經濟的に

商品の輸出入に對する困難を解決せんとして、商人に對し濃厚なる妥協的傾向を帯ぶるに至るからである。そして彼等は、商人保護を公布するばかりでなく、商人をして税金の負擔を完全に免かれしめ、農民は尙ほ一五パーセントの土地税を納めねばならぬ）従つて更に借款或は徵税が必要となるのである。商人が自由に物價をつり上げる事に對しても取締の方法がなく（組合を除く外は）甚だしきは、店員と工人の經濟的闘争を制限する必要に迫られる事さへあるのである。閩西に於ける共產黨はすでに、すべて保守妥協的傾向とは斷然積極的奮闘を爲すべく決定し、各勞農大衆をして、外部に向つて發展する事は彼等の生死に關する闘争であることを認識せしめ、一切の武装及び人力、財力を集注にして外部に向つて發展する計劃を實現し、商人に對しては、現在では事實上彼等に對して積極的攻勢を取ることは不可能であるけれども、ソウエートが確實に勞農政府の權威を樹立した時には彼等の勞農に對する擄取を出来るだけ制限し、直ちに營業税を徵收し特に店員と工人の闘争に於ける機會主義的傾向に對しては、斷然反對を決意せねばならぬ。

閩西ソウエートは決して自らの缺點を掩ひ隠しはしない。又その必要も絶対にない。勞農大衆は階級的敵人の長期に亘る統治を受け又その欺瞞的宣傳を蒙つてゐた爲に、好い政治など云ふものは經驗がなかつたのに、現在では反つて自己の政權を樹立した最初のものとなり、すでに自己を試験し、且つ自己批判を爲す機會が與へられ、従つて隨時自己の缺點を改正することが出来る様になつたのである。ソウエート政權のみが、勞農大衆自身の政權であり、全中國の勞農大衆はソウエートの政權の爲には當然奮起闘争するであらう。（渾代英）一九三〇・三月

□、勞農兵政府統治下に於ける大衆の生活

福建省西部の勞農大衆は昨年（一九二九）五月の暴動によつて豪紳の統治を覆へし勞農兵ソウエート政府を建設して土地革命を實現した。現在の福建西部は、國民黨の統治下に在る地方とは斷然相異なる世界となつてしまつてゐる。従つて此の地方の大衆の生活は國民政府から壓迫されてゐる大衆の生活とは天壤の距りがあるのである。然しこの地方の實狀は反革命の新聞紙はあまり登載しないので各方面でも此の地方に於ける大衆の實際生活を知ることが少ない。故にその大略を次に紹介するであらう。

一、暴動が勝利を得た後は工人の工賃が増加し、農民は土地を分配された。過去に於ては工人は着るに衣なく農民は食するに飯なき状態であつたが、今では土豪を打倒して年貢米を廢除し、工賃を増加したので、彼等の生活は従來と截然異なるに至つた。従來は勞農が富家に從屬してゐたものが、今では金の有るものを反つて從屬關係におとし、地權證書、借金證書、納税證書は綺麗サツパリと焼き棄て全部これを無効とした。そしてすべての稅務局を焼き拂ひ、稅務局員を焼き殺して、軍閥及び國民黨のあらゆる擄取及び苛稅、雜稅の撤廢の目的を達したのであつた。

二、暴動の爆發するや、勞農兵は協力一致して、快刀の亂麻を斬るが如く、土豪、劣紳、軍閥、官僚及びそれに類似する、國民黨指導委員と帝國主義の探偵（神官、牧師等）等の惡魔の如き擄取階級をば、根こそぎにこれを殺してしまつた。故に現在の福建西部の勞農大衆はすでに政治的壓迫と經濟的擄取から脱離してゐるのである。そして

此の地方以外に於ける農民大衆を援助して、反動勢力を消滅せしめ、その壓迫から脱離せしめることを計劃すると同時に、他方、生産の改良、水利の整理、道路の修築、學校及すべての建築事業の創業を進行せしめてゐるのである。

三、福建西部のソウエートの下には各々縣ソウエート、區ソウエート、郷ソウエートがある。此等のソウエート政府は、民衆大會で選舉された代表者が、代表會議を開いて勞農自身のあらゆる問題を決定するのである。そして委員を選舉して大會の決議を執行せしむるのである。縣ソウエート代表は各郷の民衆大會から一定數の代表を選舉し、又これを復選するのである。工人は職業を單位とし、赤軍、赤衛隊、兵士等は隊を單位として一定數の代表を選舉しこれを復選する。福建ソウエートの代表は區、縣から復選の形式で選出されるのである。而て此のソウエート治下に於ては十六歳以上の男女は均しく被選舉權があり、過去のすべての搾取階級及びその走狗は選舉權も被選舉權もない。現在の各級政府の代表と委員とは、困苦をなめた勞農兵と革命的學生及び小商人である。各級ソウエート代表會議は定期的に舉行しあらゆる問題を決定する。若し或る代表が、その選出地の民衆の意見を代表することが出来ない場合には、大衆自ら大會を召集し、代表の資格を取消して別に代表を選ぶのである。政府委員が代表會議の決議の執行を願はざるか又はそれに努力しない時には、代表會議はその委員の資格を取消し別に委員を選出する。要するに絶對的民主政府であつて、その行動と主張はすべて大衆の意見であり、従つて國民黨の軍閥政府とは完全に異なるのである。

四、勞農兵の様な貧乏人にはとても出来はしない、と國民黨では罵るが、然し福建西部に於ては工作が次の如き進行を示してゐるのである。

- 1 幾月かの闘争に於て、一萬以上の精悍なる赤軍、赤衛隊を組織し、今や正に擴大強化しつゝある。赤色區域の擴大を積極的に準備し、國民黨軍閥の共同討伐と反革命派の封鎖を打破し、國民黨統治の下に壓迫されてゐる大衆暴動を援助して、軍閥の混戦を消滅せしめ、ソウエート聯邦の武装擁護を準備してゐるのである。此の外閩西の百幾萬の革命的大衆中、老少を除く強壯なる男女の赤軍、赤衛隊の後備軍隊、少年前衛隊等が二十萬以上に達する。
- 2 農村に於けるあらゆる闘争を解決した。先づソウエート政府はあらゆる水道(河川)を修築して各農民の田が皆充分なる水を得ることが出来る様にし、従つて旱魃の憂もなく、收穫が減少することもなく、又農民間の水争ひを絶無とした。のみならずその他のあらゆる邪魔物を除いたので現在では、宏亮たる歌聲の外は、喧嘩又は泣聲は聞えなくなつた。
- 3 搾取を軽減して、各村に皆消費組合を開設した。勞農等が必要な油、鹽などは大衆自身が入れるので商人の搾取は受けてゐない。この外各種の生産組合も組織され、工人はこれが共同經營の任に當り、又その權利を享有してゐる。
- 4 區政府の多くは信用組合(農民銀行)を作り、ソウエートの大衆は、正當な理由さへあれば(農業或は工業

上) 政府から貸借する事が出来る。その利息は多くとも月一步で、高利貸の搾取は打破されてしまった。

5 各縣にはレーニン師範學校を開設し、區や村にはレーニン小學校がすでに全區の十分の六七は開設してある。然し教師が缺乏してゐると、國民黨軍閥たる劉和鼎、張貞、金漢鼎などから荒されてまだ一般的には普及されてゐない。成年者の補習夜學校も亦漸次各處に設けられ、學校教育の外にも普遍的な識字運動があり、村を單位とし、老幼男女を問はず十人を一組とし、その中で比較的字を識つてゐるものを組長とし毎週、村ソウエートに於て各組長を召集し、科目と教授法とを授け、革命歌又は勞農が必要とするものを教材とする。要するに現在閩西の老幼男女は皆教育を受ける機會があるのである。

6 婦女は解放され各級ソウエートの代表も委員もすべて男子と何等異るところがなくなつた。同時に婦女の革命に對する貢獻は男子と同様となり、赤軍、赤衛隊、少年前衛隊、戰鬥、斥候、示威運動等にも無論女も同様に參加するのである。

7 ソウエートは勞働保護法を決定し、八時間勞働を實行し、工賃を増加し、徒弟の年限を縮少し、工人を虐待するあらゆる條例を廢除し、工人をして集會、結社、言論、出版の絶對的自由を得せしめた。

8 ソウエート區域には乞食がなく、竊盜もなく、政府は各人に工作を分配し、革命戰線に參加せしめてゐる。癡者及び孤兒は政府に於て、土豪、劣紳の宏大なる家屋に收容し、政府の經費を以て養つてゐる。

9 各都市は勿論、村間僻地にまで、壁の上に革命的標語を貼り、便所の中までも革命的空氣を充満させ様とす

るのである。これ等の標語を貼りつけるにも決してブルジョア的方法によらず、完全に石灰又は各種の顔料を用ゐてゐる。石灰が就中多い。それは何時までも消えず、色も褪せず、敵も容易に剝ぎ取ることが出来ぬからである。字を書く場合には最も多く靴刷毛又は木片、竹片……等を用ゐるがこれは、吾々プロレタリアートが標語を書く場合には最も便利なる物である。閩西では此等の器具を用ゐて標語を書いてゐるがそれは厦門の大商店の看板店の如き元氣のないものとは比すべくもない。

10 區や村の政府では醫者を招聘して、公立の診療所を設け、ソウエートの人民は無料で診察して貰ふことが出来る。同時に藥種組合(或は公共藥館とも云ふ)を各地に設けてある。農民は從來病にかゝつても醫者を呼ぶことが出来ず只死を待つばかりであつたものが、今では政治問題に關してソウエートに意見を提出すればそれをソウエートが解決してくれるばかりでなく、僅かの病氣まですべてソウエートが解決してくれるのである。同時に區や村のソウエートも亦勞農の政治的又は經濟的問題を解決するばかりでなく、勞農の一身上の病患までその解決を仕事としてやつてゐるのである。これなどは佛の顔で人を騙して飯を食つてゐる廟守などの大いに困却することに違ひない。

11 二つのソウエート區域が五里以上離れてゐれば、その間に一つの驛站が設けられ、専門に郵便事務を擔任してゐる。これ等の郵便事務員は、經濟的報酬は非常に少いけれども、仕事に對しては非常な熱心さを示してゐる。そしてソウエート治下の民衆は、何かの消息を得たならば、その好し惡しに拘らず直ちに政府に報告する

それが重要な消息である場合には、直ちに上級政府に申達する外、近隣二十里以内のソウエート或は大衆的團體に報告するのである。この爲にソウエート區域の消息は非常なる傳播力があり、且つそれは報告となつて他省のソウエート區域にも到るのである。斯く敏活なる交通網の建設は完全に大衆の能力に依據するものであつて、これは資本家の如き金錢を對照とするものゝ不可能な事に屬する。

12 各村にはクラブを建て、大衆の遊び場に供するのだが、大衆を教育するにも最も宜い場所なのである。だからそれは、ブルジョアジイのダンス場などゝは完全に異なるのである。あたりの壁には一ぱいに標語や畫報が貼られてあり、屋内の腰掛、テーブルその他の器具は、ブルジョアの様な立派なものではないが、然し反つてプロレタリアの精神を充分に表示してゐる。每晚誰か政治報告をやり、又は故事を講じ、笑話し、新劇を演じ唱歌又はスローガンを叫んでゐる。外にも色々な樂器などがある。全村の老幼男女は每晚一堂に集り歡呼高歌して實ににぎやかである。

以上は閩西に於ける大體の狀況であるが官僚共が聞いたら何と感ずるだらう。

次には、閩西に於ける土地革命の實況とその工作經驗とを語り、各地ソウエートの参考に供するであらう。

ハ、土地革命の概況

一、土地の沒收

土地は農民が切實に要求してゐるものであり、又農村闘争の主要目標である。閩西に於ては去年の五月闘争の大

なる發展があつてから、幾縣かの統治階級の政權を毀滅して土地革命を實行したのであつた。土地は如何に沒收し分配さるべきか、閩西の經驗によれば、第一に土地政綱に根據して條例(章程)を規定し、各級政府或は農會等に貼りつけるのである。此の規定は異常に具體的なることを要し、而かも通俗簡明にして、農民をして一見直ちに了解せしめる様にせねばならぬ。第二にはその地方の社會的階級成分に根據して沒收と分配の方法を決定し、これを大衆の要求に合致せしめねばならぬ。第三には土地政綱と規定とを大衆に向つて普遍的に宣傳し、大衆をしてこれを深刻に了解せしめ、且つこれを擁護せしむることである。第四は、沒收と分配の方法であつて、それは、民衆大會の表決通過を必要とし、土地を沒收することは自分自身の仕事であることを大衆に認識せしめ、かくして農民の土地の爲に闘争する決心を固めさせることが出来るのである。第五には、土地政綱の宣布と土地の沒收とは非常に迅速なるを要し、大衆の熱情が高潮した時に乘じて土地を獲得せしめ、そして更にその闘争勇氣を奮はしめねばならぬ。

以上の工作に就いても、當時は注意を怠らなかつたが、然しその工作は充分でなかつた。その主要なる原因は正確なる調査と統計がなかつた爲に土地を沒收する標準が決定しなかつた爲である。「地主階級の土地を沒收する」といふ問題は、閩西では、何處の縣でも大衆には提出が出来ず、各地共、期せずして「すべての土地を沒收する」と「すべての地權を燒棄する」ことの決議を通過してしまつたのである。何となれば、第一回の閩西大會の調査によれば閩西の土地の七五パーセントの田は稅務局の手中に在り、困窮なる自作農が二〇パーセントであるがその土

地は自己の耕種にも足りない状態であり、従つて貧農の数は絶對多數である爲に、すべての土地を沒收することに賛成してしまつたのである。

二、土地の分配

これは何人も非常に煩はしい仕事であると認めてゐる。然し事實は全くこれに反し、それは只田を分配する標準を定めさへすれば宜いのであつて、田の大小瘦肥などは問題にならず、豊富な經驗を有つてゐる老農でも測量學も知らず、地質學も知りはない。然し土地のよしあしだけは一見直ちに見當がつくものだから、その場所に臨んで分配すれば、一點の争端も發生しはしない。

田を分配する標準として當時閩西では二種あつた。

第一は勞働を標準とする事であり、勞働の出来るものに分ち、出来ないものには分配せず、又生産道具(農具)のないものや、耕種の資本(肥料の如き)のないものには田を分配せずして、他の仕事を與へるのである。

第二は人間を標準とする事であつて、豪紳地主(地主の雇人には分配する)反動派商人、癡人及び職業を有つてゐて、それで生活を維持することの出来るもの以外に、老幼男女を問はず平均に分配することである。

此の二つの方法は閩西から始つて、始めは第一の方法を採用したが、その結果は大衆の九〇パーセントが土地の分配にあづからない事となつた爲に最後に第二の方法を採用して平均に分配することになつたのであつた。これは固より土地革命の意義に關する宣傳が不充分であつた爲であつて、それに窮迫してゐる農民は、一旦田を分けて貰ふ

ことが出来るとなると争ふて土地分配を要求した事が原因である。吾々の經驗によれば此の二つの方法を認めることは、好いこともあるが又悪いところも出来て来る。それを比較すれば

第一は、勞働力を標準とする爲に(一)勞働を獎勵することが出来(二)生産方法を改良して生産量を増加することが出来るが(三)一時に大多數民衆の擁護を獲得することが出来ない。

第二の人間を標準とする事は(一)勞働の獎勵とならず、従て生産を獎勵する意義を失ひ(二)勞働するものが少く、多くの田を分配されるも耕種する力なく、従つて收穫に影響して生産額の減少となり(三)勞働者が少く、自ら耕作することも出来ず、従つて分配された田は、自然、勞働力あるものをして代つて耕作せしめる結果となりやがて租稅收納の傾向を可能ならしめる。(四)そして農民に共產主義的觀念を植ゑつけ得るが、社會主義的土地革命の意義は遂に徹底し得ない。(五)然し、大衆の擁護を獲得する可能性は多くなる。

斯の如く比較して見ると、土地の平均分配は實行不可能のことが出来るもので、九〇パーセント以上の民衆の要求であるから、それは止むを得ないのかも知れない。然し閩西では注意するところあり、次の如き缺點補救の方法を規定した。

- 1 ソヴェート政府から布告を出して田地は他人の代耕を許さざることとした。
- 2 荒蕪の田地で收穫の少ないものは、ソヴェート政府に於てその他に於て餘分の田地を回收して勞働力のあるものに耕種させる。

3 農産品展覽會を開催し、好いものは褒獎して、生産を奨励する。

三、田地分配の方法

第一 村を單位とし全村の人口と田畝とを調査して平均分配する。然し或る村では人口が多く田が少ないなど云ふ所では、他村の田地を耕作させる。即ち從來耕作してゐた田地を標準として分配する。

第二 民衆大會に於て通過した田地分配の決議は、速刻各村落に付いて若干人を推舉し、一々該村の所屬田畝と人口とを登記せしめ尙はその登記日數を限定する。

第三 登記が終つたならば、ソウエート政府は各登記者に就いて、田の肥瘦と收穫とを標準として、何處の田は何某の耕作すべきものを定め、且つ田地分配の期日を定める。

第四 ソウエート政府（或は農會）は全村の田畝の番號に按じて、幾多の木札を作り、札には田の番號（幾つかの谷地）及び何某をして耕作せしむるかの意味を書き、ソウエート委員會は登記者及び大衆と共に、各方面に分れて、その木札を挿して歩き、それと同時に政府から田地分配方法に就て布告を發する。

田地分配方法は大凡以上の如くであるが、田の大小肥瘦は、收穫量に應じて分配の標準とし、そして大會に於て公に表決されてしまへば、最早や絶対に問題とすることは出来ない。田畝の登記を爲すときには種々の弊害が伴ふから注意せねばならぬ。即ち田畝の實際面積を隠して少なく登記することがそれである。閩西に於ける此問題の経験としては、民衆大會を通過したことは政府が布告を出す、それと同時に、誰々が幾らの田畝を隠したといふこ

とも聲明することゝし、若し誰かと故意でなく、ほんとうに間違つた場合などは、政府に申告したものは處罰しないことにした。

その次には分配して餘つた土地の處分であるが、その一部の田畝をソウエート政府の公田としたものである。この名前がどうも妥當でない。若し政府に公田があるとすれば、農民に分給したものは私田である。現在閩西には、幾多のソウエート區域に於て此の公田があり、それは主として建設事業と、農村に於ける癯者及び孤兒を救済する爲のものである。此種の田は、全區域の農民共同耕作とした所もあり、政府が農民に耕種させ、収入の三〇パーセントを土地税として納めさせてゐるところもある。（普通の土地税は一五パーセントを最高とする）。閩西では此問題に對しては確定的な主張がなく、試験的態度を採つてゐる。此の耕作に出すか又は共同耕作せしむる方法は、好いとも悪いとも現在では誰も斷定を下し得ない。共同耕作の方がよさそうだと云ふ位のことである。以上は田の分配であるが、閩西には鑛山がなく、僅かばかりの石炭鑛があるけれども産額は極めて少く、それに交通も不便なので、是非分配せねばならぬといふ問題にはならない。山林の分配問題は、閩西が木と紙が唯一の輸出品となつてゐる爲に、山林と田とは同等な重要性を有つて居り、従つて山林問題に關しては次の如き方法を以てこれに當つたのである。

第一 山林の所有權はすべてソウエートに歸せしめ、從來、山林を營業の對照としてゐたものには分配するが政府

に於て土地税を徴収する。

第二 松、竹等の林は田と同様の分配方法を探り、柴山及び荒山は分配せず民衆の自由使用に任せる。

第三 松と杉の兩種の山林は、民衆が必要なきに使用することとするが、政府の許可を要し、若し二十本以上伐木するものは區ソウエートの許可を要し、五十本以上のものは縣ソウエートの許可を要する。

第四 山林の中特別なのは竹林であり、これは全區の人口に按じて平分するのではなく、紙を造る能力と技術とを有するものに分配してその共同經營とする。

四、土地税

土地税は累進法を採用し、三等に分けて徴収する。田が三擔（譯者註、三石）以下なる時は徴收せず、三擔以上は五パーセント、五擔以上は一〇パーセント、一〇擔以上は一五パーセントを徴収する。土地税に關しては現在では未だ統計が出来てゐない。要するにソウエートが何程の收入があるのかを知ることが出来ないのだ。それは鬭争時期に於ては詳細なる叙述は不可能でもあり、又その必要もあまりないからだ。——一九三〇・二月（定龍）

四 江西省西部に於けるソウエート區域

一、その鬭争歴史

一九二七年武漢政府が革命に背叛したる後、八一暴動を前にして吉安の革命大衆はすでに積極的に八一工作に響應する準備を整へたが後、賀龍、葉挺が南征に途を變へたので、吉安の大衆は極端なる壓迫の下に處して遂に武装衝

突を開始してしまつた。然し當時は力があまり弱かつたので、久しからずして沉寂状態となり、やがて又廣東暴動の爆發により刺撃されて、萬安に極めて英雄的な暴動が起り、吉安の革命的空氣もこれを壯として贛軍第八師の某小隊長が隊を率ゐて参加したのを手始めとし、附近の會匪（何等かの目標を有する匪）亦紛々として参加を申込み、斯くて遂に勞農革命軍七、八、九の三個縱隊が成立したのであつた。そしてバルチザン戰爭を開始したが、好い政治的指導はなく、行動綱領もなく、又地方の大衆工作に注意しなかつた爲に、發展が出来なかつたばかりでなく、反つて損失を蒙つたのであつた。東固、延福の二ヶ所に於ては、正式な土地革命工作がなかつたけれども、納税反對、徵收反對などは、客觀的にすでに實現し、部分的には大衆も土地革命の意義を相當認めて來てゐた。一九二八年七月に至り、七、九の二縱隊は改編して赤軍獨立第二團となり、行動も亦正軌となり、赤軍の政治的影響は、その擴大を結果し、大衆の赤軍に對する認識も亦これに隨つて擴大し、且つ深刻化し、大衆自身の組織が又擴大され、そして健全となり、納税や公債強募に對する反對も時に實行され、かくて赤色區域の形勢は益々鮮明となつて來たのであつた。然し、「道高きこと一尺なれど、魔の高さ、正に一文」であつて、バルチザン戰爭の初期に於ては、一般豪紳地主は尙ほ大衆中に隠れ封建的關係を利用して大衆を操縱することが出來た。それも納税反對、公債反對のソロガンが一呼さるゝや、大衆は彼等自身の階級の上に立つて自ら働きかけ豪紳地主と鬭争を始めたので、豪紳等は遂に軍閥と勾結して大衆を殺すばかりでなく、彼等自ら靖衛團の組織を進行せしめ、これをして専ら革命の壓迫に當らしめることになつたのである。二個の赤色區域の周圍には四百以上の武装組織があり、赤軍の二個團と大衆の

威力とを以てして尙ほ半ヶ年の努力の後次第にこれを消滅し得る如き始末であつた。此の期間中赤色區域の政權は農民協會に於いてこれを支持し、一九二九年七月に至つて、東固、延福の二區に始めて勞農革命委員會が成立し、赤色區域の範圍も亦擴大し得たのであつた。吉水縣の阜田區、同水區、仁善區、泰和縣の仙差區、仁區、吉水縣の鶴區、水南區、白沙區、吉安縣の外延區、位行區、純化區、興國縣の同城崗、崇賢、方太、高賢の各區にも相前後して革命委員會が成立し、峽江、新喻、分宜、寧都、永豐、樂安等の縣にも比較的小さくはあるが皆赤色區域があり、東固、延福の二區ではすでに土地の分配が終つた。

從來、豪紳地主の勢力が最も雄厚なる地域では、農民も亦自動的に農民協會を組織して豪紳地主に向つて熱烈なる闘争を行ふものであるが、一九二九年十月前後には東區の東固、北區の延福などは正式にソウエート政權が樹立され、區ソウエート及び各縣各區の革命委員會を基礎として更に、贛西革命委員會の組織が成立し、各區の工作を統一指揮することとなつたのである。今や、總括的贛西ソウエート政權の建設を籌備しつゝあり、革命委員會の指揮下に在る赤軍もすでに二、三、四の三ヶ團となり武裝は二千以上に達する。

□、土地問題

贛西の土地關係は何等特殊な狀況はなく、土地の所有權は多く地主或は變相的地主（豪紳が一人占めにしてゐる公田）の手中に在り、農民の成分も、従つて小作農が多數を占めてゐる。故に土地分配のスローガンを叫び出せば土地は農民への空氣が比較的高い。然し贛西の公田（特に文天祥、歐陽修、羅狀元等の祀田）は地主の土地よりも

尙ほ多く、それが農民の私有の觀念に影響し、誰も特に多く得やうと思ふものはなく、且つ農村の工人も熱烈に土地を要求してゐるので、その結果は農民自らが、一切の土地を沒收しこれを平均に分配することを要求するに至つた。然るに農民の斯の如き要求が提出さるゝや、革命的隊伍に参加して形勢を見てゐた富農分子は直ちに反革命的陰謀を開始したが、それも大衆的支持には敵せず遂に全部驅逐され、現在では延福、東固の二區はすでに平均分配の方法によつて、一九二九年八月前後に土地問題を解決してしまつた。その分配方法は次の如くである。

土地の平分を決定した後、革命委員會中の土地委員會は直ちに測量に従事し、その肥瘠、人口等の調査を爲し、ソウエート區域内の人民は、男女の別なく、三歳以上はすべて一個の單位と爲し、人口を標準とし、肥瘠を配量して分配耕作せしめたのである。土地の所有權はすべてソウエート政府に歸屬し、その他の比較的耕作に容易な、茶畑、油畑、竹林、森林等の土地はソウエート政府がこれを管理し、毎年一回づゝ勞働に従事せしむることとした（この勞働には代償を與へず）。そして收穫した茶及び油は、ソウエート區域内の人民に、必要の限度内で、ソウエートから廉價にこれを賣りつけ、孤兒、寡婦及び長期間ソウエート政府に服務するもの或は赤軍の兵士などは土地の分配にあづからない。そして孤兒寡婦に對してはソウエートに於てその生活の全責任を負ふのである。但し寡婦でも年齢三十歳以下のものは、配偶を擇ばしめ、五十歳以下の者は手藝を習はせるのである。

ハ、大衆組織と武裝の問題

贛西のソウエート區域に於ては、此の一ヶ年間は反動派軍隊の大舉蹂躪に遭はなかつたけれども、然し彼等が一

たび区域内の實際狀況を知つたならば、絶えずやつて來ては騷擾する可能性がある爲に、ソウエート政權区域内の農民協會は未だ取消さず、工會も元の如くその職權を行使してゐる。農民協會は平時には何も仕事がないので、此の区域内の農民は老弱者及び一部の富農を除いて全部がその會員であり、そして男子會員の中二十一歳以上四十歳以下の者は皆赤衛隊の組織に参加し、二十歳以下十五歳以上の者は全部少年前衛隊の組織に参加するのである。赤衛隊の組織方式は區を以て單位とし縦隊を成立するのである。そして全区の快槍を集注する爲に快槍隊を設け、同様に全区の土炮を集注して土炮隊を設け、土槍若干を集めては土槍隊を成立し、別に給養隊、交通隊、救護隊（男女各若干）を設け、そして村を單位として大隊を成立させるのである。大隊には土槍隊（全村の土槍）、給養隊、交通隊を設け、大隊は更に若干の中隊に分ち（人数は百乃至二百）すべて舊式の兵器（刀、戈等）を使用し、少年前衛隊も大體これと同様で、只快槍、土槍及び戦闘準備の組織がないだけである。そして平時には普通木銃を以て操練し、戦時には赤衛隊と合併するのである。兒童團も亦木銃を用ゐる、少年隊及び兒童團は毎日黎明時に野外演習を行ひ、木槍には火繩をさしはさんで興味を起させ、或る時には大爆竹などを用ゐて戦闘の演習をさせるのである。赤衛隊も毎日曜に二回教練をやり、農村工人はすべて赤衛隊に加入することになつてゐる。

二、經濟問題

經濟問題で困難を感じることは殆んど必然に近い現象であつて、續西ソウエート區域に於ても、軍事的勢力の對外發展を積極的に計るばかりでなく、經濟的問題に對しても、色々な方法を設けてこれを大過なく實行して來たの

で現在ではその全部的解決を得た譯ではないが、殆んど大きい問題となる様な事はなくなつた。その經濟問題解決方法は次の如きものである。

- (一) 累進税の徴收を原則とし農民の收穫は、一ヶ年間の自家用食糧を除いた以外に就いて累進的方法によつて徴收する。（谷一石に就いて一桶、（譯者註、一桶は六升）二石は二桶、三石は四桶）
- (二) 油、茶、紙、竹及び樹木の収入はソウエートに於てこれを處理する。
- (三) 赤軍第二第四兩團の援助基金四千元を以て平民銀行を開設する。
- (四) 米の輸出を禁止する。
- (五) 販賣人からは最低の税を徴收する（市場に於ける營業者）。商店に對しても亦累進的課税を採用する。
- (六) 鐵鑛及び磁器工場を整理する。
- (七) 平民工場を開設して農民の必需品を製造する。
- (八) 政費及び政府の従事員の生活費を減少し、各人毎月の小使費として單に二元を給し、各級の經常的工作人員も亦これと比較して減少する。（ソウエート區は七人、村は三人）

現在は鬭争の時期である爲に宣傳費用は比較的多く、工作費も亦多い。東固區だけで平均一千八百元を要する。

ホ、選舉法及び組織法

ソウエート区域内の人民は地主豪紳及び富農を除くの外、十六歳以上の者は皆選舉權及び被選舉權があり、そし

て、村を基礎單位として農民五十人毎に一人の代表を選び、工人は十人で代表一人を選出することが出来る。自由職業のものは農民の中に合併し、少數の工場（機械修繕工場及び平民工場）は直接代表を派して参加するのである。而て村ソヴェートの組織は七人を推舉して委員と爲し、その中の三人を以て常務委員會を組織し、その三人の共同責任とする（合議制とする）。區は、農民百人毎に代表一人を選び、工人は二十人に就いて代表一人、そして工場は直接代表を派して、區ソヴェートが組織され、その代表中から十三人を推舉して委員と爲し、中七人を常務委員として、軍務、財政、社會保險、教育の四部を分擔し、別に人民審判委員會、土地委員會を組織して前掲の四部と對立し主席一人を推舉し、各常務委員は一部或は委員會の經常工作を分擔するのである。

へ、大衆闘争の状勢

土地を平均分配してからは、ソヴェート区域内の闘争は比較的少くなつた。然し今度吉安を攻略するといふスロガンを提出してからは、大衆の闘争的感情が非常に熱烈となり、九個の赤色區域に於て戦闘組織のある赤衛軍は九個縦隊あり、各隊には五千前後の武装大衆があつて、非常なる勇敢さを示し、六五回に亘つて、各人が乾し米を準備する始末であつた。吉水縣内の同水區に於ては、贛河の交通を斷絶せしむること一ヶ月の久しきに亘り、吉安縣の信行、外延の二區は、反動軍隊と幾度か正面衝突を爲し、泰和縣の仙善二區も亦反動的軍隊と一二回の戦を交へ、贛江の兩岸では、赤軍の爲に浮き橋を架設したり、渡船を徴収したり、又は赤軍の傷兵を救護し、敵情を偵察したりして、軍隊と協同して戦に従つたのであつた。新組織のもの又は組織が尙ほ強固でない區域ではすべて自動

的に豪紳を捕殺し、契約を焚燒し、土地問題が尙ほ未解決な區では農民が、革命委員會又は農民協會に對し速かに土地を分配せんことを要求してゐる始末である。惜むらくはこれ等大衆の感情が極めて高潮に達した時に、責任ある工作同志がその全部の注意力を吉安の奪取に注いでゐて、土地革命工作を強化しなかつた。然し現在ではこれに對して積極的に意を注ぎ、九個の赤色區域に於ける土地問題も最近に於て解決することが出来た。

尙ほ小さい事項ではあるが語るべきものがある。

(一) 此等の地方は比較的産米區が多いので、米穀の輸出禁止は、一石に就いて僅に五角前後といふ値を出現せしめ、この爲に一升の米は只三錢（三個銅板）となり従つて、あまり米を喰ふことの出来なかつたもの、又は米を持つてゐない工人の生活は比較的容易となつた。

(二) 婚姻の制度が改革された。従來これ等の地方では一人の大年増を娶るにも二百元以上の費用を要したが、今では、これと異り、約束が出来れば結納などはやらす結納を婚約のしるしとすることなどは一切許さず、従つて結婚の自由は赤色區域一般に普遍的となつた。

(三) 抗債條例。すべて利息による搾取を爲すものを債と云ふのであつて、この債に反抗する幾條かの臨時條例が發布された。

- 1 富者は貧者から借りたものは、皆濟すること。
- 2 富者が富者から借りたものは、ソヴェートに納める。

- 3 貧乏人が富者から借りたものは一切返還するに及ばない。
 - 4 掛賣代金及び第三者から借りて、又貸したものは、抗債條例は問題としない。
- 斯の如くして、久しからずしてその他のソウエート區域との合流が出來、江西全省のソウエート政權が實現するであらう。(克 珍)

五 江西省西南部赤化の情況

1. 組織と闘争

贛西南に於ける大衆の革命的感情とその闘争は由來甚だ猛烈なるものがあつたが、就中中國共產黨の正確なる指導によつて、闘争の發展は更に一日萬里の勢となつた。

去年の十一月頃までは贛西に於ける、組織ある勞農大衆は三萬人に達せず、贛南は一萬餘人に過ぎず、合計五萬人には到らなかつた。大衆の武裝が更に薄弱であつたことは云ふまでもない。然し現在では、贛西に於ける組織ある大衆がすでに三四十萬に達し、贛南にも二三十萬はあり、彼等の影響下に在る大衆に至つては正に百萬以上を算へられる。赤色區域に於ける大衆は男女老幼の別なくすべて彼等自身の組織に参加するのである。赤色區域は、贛西南の吉安、吉水、萬安、太和、峽江、安福、分宜、新喻、袁州、永新、蓮花、寧岡、遂川、興國、零都、寧都、南豐、信豐、定遠、大庾、永豐、樂安、贛州等の諸縣を包含し、これ等の諸縣には皆完備した武裝組織がある。たとひ主たる縣城例へば吉安、贛州等の如きは反動勢力の統治下に在るとは謂へ、それは只僅かに一個の孤城を所有する

だけで、一たび城門を出れば即ち赤色の世界であつて、吉安の對岸なる水東の如きは、吉安を去る僅かに一里しかないのに、全然異なる二つの世界がハッキリと分れてゐるが如きが、その好例である。安福、分宜、萬安、安國、零都、寧都、永豐、樂安、新喻、峽江の各縣の如きに至つては、相前後して大衆の爲に幾度か占領せられ、永豐、樂安、零都、興國、安福各縣の城壁は皆大衆によりてたゞき破られてしまつた。そして此の全國唯一の大赤色區域は湖北省の通山、通城、廣東省の東江、潮梅、福建省の永定、龍岩、などゝすでに聯絡を採つて、湘鄂贛閩粵を打つて一丸としてゐるのである。

大衆闘争の狀況は更に活躍そのものである。示威運動、豪紳の殺戮などは大衆にとつては日常の茶飯事である。贛西の各縣に於ては、大衆會議は各區各村に於て舉行される。そうでないと大會を舉行する様な會場がないのである。大衆は自身「吉安奪取」のスローガンを提示し、一面に於て政權樹立、證文の燒棄、又は土地の分配等に忙しみに拘らず、同時に又赤衛隊、少年前衛隊、童子團の組織や、武器の製造、歩哨勤務、探偵、運輸又は戰鬥にも忙しいのである。そして敵と戰鬥を交へる時には、大衆が自動的にこれに参加する數は幾萬人なるを知らない。それは最も少ない場合でも數千を數え得る。この五六ヶ月以來は贛西では、常に此種の武裝闘争の連続であり、従つて寸毫の閒暇もなく、而かも大衆はいさゝかの疲苦を感じないばかりでなく、革命的感情は日々に高漲して行く状態に在る。今年の一月大雪が降つた時に白軍が地主郷紳を援助して、郷里に歸つて借金取りをやらせた時には、大衆は雨雪を物ともせず(譯者註、此の地方あたりでは、雪はめづらしい)戰鬥を繼續し、夜晝の別なく歩哨をやつたり船

の検査をやつたり、交通を阻斷したりして、吉安と南昌及び贛州との交通をすつかり斷絶さしてしまつたのであつた。今でも江西省の統治階級は贛江の航路を恢復し得ないでゐる状態だ。白軍が農村に來る毎に大衆は一と晩中彼等に挑戦し、糧食や燃料を供給しなかつた爲に、白軍の兵士は皆田舎に行くことを願はず、一面では戦に敗れることを恐れると同時に饑餓と凍死とを恐れてゐるのである。贛南方面にては、大衆は到るところで土地を分配し、政權を樹立しそして赤軍を組織してゐる。贛西南の大衆は常に「吉安を打て、南昌を占領しろ、肥つちよの魯(魯滌平)を捉へよ、蔣介石を捉へよ」と叫んでゐる。インターナショナルの歌、赤軍の歌、暴動歌などは男女老幼の別なく誰一人唱へないものはない。半夜又は深更に於て、吾々は、隨處に於て悠揚たる而かも壯烈なる歌聲を聴き得るのである。

赤色區域附近の白色地帯では、一般大衆は「赤化」の影響を受けて紛々として立つて農會を組織し、武装を準備し赤旗を作り、代表をソウエート政府に派して聯絡を探り、土地分配、政權樹立、赤色の組織を爲すに就いて彼等への援助を請ふてゐる。各都市に於ける小商人學生及び一般の貧窮せる階級はすべて自動的に組織を起し赤軍への響應を準備してゐるのである。吉安縣城内の商人の如きは、「赤軍又はソウエートの爲に探偵となり報告を送つてゐるものが非常に多い。そして一般のプロレタリアは全く白色統治區域から逃げ出して赤色の農村に來てしまつたのである。こゝ四五ヶ月來吉安城内では毎日午後六時から翌日の午前八時までは一切の通行を禁じてゐるが、反動的統治の恐慌状態はこれによつてその一斑を窺ふことが出来るであらう。吉安の居留民並びに商店では從來幾度か代表を

以て成光耀(反動派の旅長)が吉安を去ることを要求して、反對に赤軍の入城を歓迎し、二十萬元の現銀を用意して、赤軍入城の際に軍費として供給しやうと準備してゐたものである。又各家では赤旗と爆竹を用意して赤軍歓迎の準備さへもしたのであつた。而して農村の大衆は都市に對して封鎖を實行し、野菜、穀物、薪炭等の都會への搬入を爲さず、爲に城内の米價は遂に二十二三元にまで騰貴し、松の木の新一ククリが十八錢(十八個銅板)でも買ふことが出来ぬ状態となつた。そして村落に於ける米穀は一石に就いて銅貨二吊(普通十枚を一吊とす)となり、マッチの如きは無代で供給される様になつた。城内での各種の紙幣は農村では一切通用せず、この故に都市經濟は大恐慌を起したりした。都市の農村に對する政策もやはり封鎖であるが、市民はコッソリと農村の需要に應じ、布、鐵、鹽、紙、油、印刷器の如きは斷絶することなく、今まで通りの供給があつた。贛西では「何んな品物が一番高いか、赤い布が一番高い」といふ面白い俗言がある。これは人々が争ふて赤い布を買ふてこれを旗幟とするからであつて、大衆の活動を如實に語るものである。

□、赤色政權の樹立

贛西南の農民協會は兩三年前にすでに成立し、而かもそれが非常に多くの地方にゆき亘つてゐる。革命委員會も亦すでに二ヶ年間の歴史を有し、最近ではその大半がソウエート政府に改設された。昨年十二月には贛西の吉安、吉水、峽江、安福、分宜、萬安、太和、永新、蓮花、寧岡諸縣の大衆が贛西ソウエートを建設した。此の贛西ソウエートが成立してからは各縣、各區、各郷のソウエートは先きを争ふて紛々として樹立され、現在では到ると

ころ眞紅の旗幟が天空に飄揚たるを見ることが出来る。贛西ソウエートが成立した時には、贛西各縣の大衆は皆同時に盛大なる祝賀會を舉行し、それが三日間或は一週間少も二日間に及んでゐる。彼等は到るところに於て示威運動を爲し、講演を爲し、又は芝居などによつて革命的空氣を空前に高潮させたのである。最近では又江西全省ソウエート政府が吉安に成立した。ソウエート成立の方法としては、すべて大衆が直接或は間接に代表を選挙し、代表會議が委員を選挙し、委員會が常任委員を選挙するのである。贛西代表大會の人数は百人餘り、會期は一週間であつたが、全省代表大會はその數三百、會期はやはり一週間である。現在各級ソウエートはすでに革命的政綱を宣布し、大衆は喜びに溢れて「これこそ吾々自身の政府である、そしてそれは國民政府を打倒せねばならぬ」と叫び、そして開會毎に彼等はソウエート政府擁護のスローガンを聲高く叫んでゐるのだ。農村には到るところソウエートの政綱、布告、宣言、ビラ、標語等が見られぬところはない。此の省ソウエートがあらゆる闘争の指導者となつてからは、ソウエートの任務は各級ソウエートの建設、徹底的土地分配及び赤軍の擴大と大衆の武装であらねばならぬ。ソウエート統治下に於ては初步的建設はすでに開始され、生産消費並びに信用等の各種の組合は幾多の地方にすでに成立し、東固ソウエートの管轄する東固銀行が發行する流通券は信用が極めて厚く各縣に流通し、吉安城外半里なる水東にまで通用されてゐる。これは固とより東固銀行の基金が充分であるからではあるが、又大衆の熱烈なる擁護が、反動階級の紙幣流通を拒絶し、現銀を持つて來ては東固銀行の紙幣を換へて行く爲に外ならぬ。教育方面でも労働學校はすでに開設され、尙ほ大規模な赤軍學校があり、學生が六百人以上に及んでゐる。この外道路の修

繕、物價の抑制、商業の保護等すべて新なる現象を呈せざるはない。あまたの頑固なる老人連までが頭を集めクビをひねつて談じて曰く「堯舜太平の日を圖らざりき今日に於てこれを見んとは」。これによつてもソウエート政府が如何に人心を得て居るかを知ることが出来る。そしてそれは決して、廣東及び武漢時代の國民政府とは比較にならないものだ。その他の政黨の如きは更に談ずるに足りはしない。故を以て魯滌平と成光耀の二つの大軍閥が自ら「命なり」と嘆じ、一般の豪紳は「吾々の最後が斯くも早く來るとは思はなかつた」と悲傷してゐるのだ。そしてプロレタリア大衆は「今こそ吾々の世界である」と同音に云ふ。

ハ、土地革命

贛西の蓮花、永新、寧岡の各縣では二年前すでに土地分配工作を實行し、吉安縣の延福、東固及び贛南の興國縣の各地はこの二年來租税を納付せず、農民は自ら耕して自ら喰ひ、安樂な生活を營み、只土地の分配を實行しないと云ふに過ぎない。然しこの種の安樂な生活は各農家に普遍的に實現することが出来ないことが大なる缺點である。「吉安奪取」のスローガンが提示されてからは、大衆は自動的にソウエート政府に向つて田地の分配を要求し、ソウエートが期限を定めて分配の實行を布告するや、大衆は踴躍して、政府機關の指導の下に自ら分配の手傳ひをしたのであつた。現在では上述の各縣を除く外、吉安、太和、興國、峽江、安福、零都、吉水、永豐、樂安等の諸縣でもすべて分配が完了した。土地を沒收する標準としては、比較的長い闘争歴史を有つてゐる區域ではあらゆる土地を沒收し、そうでないところでは、只地主、豪紳、反動派及び富農の剩餘の土地、又は祠廟の公産等を沒收したのであ

つた。そして大きい山林で分けるに都合の悪いところはソウエートの所屬とし、小さい山林は農民に分配した。ソウエートは大鑛山以外未だ一寸の土地も所有してはならない。分配の標準に至つては、男女老幼すべて同様であつて、反動派の家族（譯者註、召使も含む）も反革命的でないならば土地の分配にあづかり得ることゝした。

反動派の勢力は大衆的政權の下ではすでに掃倒し盡したと云ふてよろしい。彼等の一部は南昌、南京及び上海に逃げ、一部は大衆への贖罪として殺され、他の一部はソウエートに歸順してゐるのである。そして彼等の武装は、半年も月給を出さない爲に、根本的に動搖し始め、而かもソウエートの「善政」を見せつけられるので生活に困らないものでも、又は土地を有つて居り、仕事を有つてゐるものでも紛々としてソウエートに來り投ずる状態である。要するに贛西南に於ける地主豪紳等の反動的統治の基礎は、早くもすでに大衆のハンマーと鎌によつて毀され盡されてゐるのである。

二、赤軍の發展

去年の十一月前までに、贛西南に於ける赤軍は、只第二、第三、第四の三個獨立團だけで鐵砲も全部で七八百あるに過ぎなかつた。（蓮花、永興に在る銃器は除く）然るに「吉安奪取」のスローガンが提示されるや、吉安縣八村の聯防游擊大隊羅炳輝部下の百三四十人全部が参加し、これに踵を接して幾多の白軍の兵士が銃器を持參で参加したので、黄公略を軍長とし、これを三縱隊に分けた。銃砲は二千である。此の正式な赤軍隊伍を除く外、吉安、太和、萬安、峽江、吉水、永新、蓮花、永豐、樂安等の縣にも十幾個或は幾十個の游擊隊と赤衛隊があり、銃器も約二千

ある。贛南方面では、第七、第八、第九の三個獨立團があり、各團に三四百の銃器があり、而かも各地各縣の游擊隊はこの中には入つてゐないのである。赤軍學校の武装はもとより極めて完備してゐる。

十二月になると赤軍第五軍（彭德懷）が贛西に移つて來、今年の二月には朱毛の第四軍も亦江西省にやつて來た。かくて四、五、六の三軍が贛西南に集注したことになる。第五軍の江西省にやつて來たのは六個縱隊のその半数で、二千餘人であつたが、最近では安福、分宜、高安等を攻め落して白軍の鐵砲一千餘機關銃若干を獲得し、馬江（吉安の西）の戦では五軍の一縱隊を以て、白軍成光耀の一營を消滅せしめ、その餘の敵は城に立て籠つて敢て出て來やうとはしない。安福、分宜の戦闘の如きは正に破竹の勢で、安福全城の四五百に餘る鐵砲を悉く奪取してしまつたのであつた。第六軍の戦闘力も亦強く、元の第二、第三、第四の各獨立團は轉戦千里、數年間鳴らした軍隊であつて、去年の冬は、峽江、三曲灘を攻め袁州の商團軍、吉安の成光耀軍と戦ひ、水東、張家渡、横口渡等に戦ひ、萬安、興國を攻めて殆んど勝たざるはなかつたのである。水東を攻めた時の如きは、第四團だけで、武装者が僅か二百人ばかり、雪の降る寒い日に、七八百の敵と交戦して遂に大勝を獲、百三四十の鐵砲を分捕り、三四百人の敵を殺したのであつた。第四軍に至つては、すでに敵がその風を望んで膽を冷す軍勢であつて、今回は福建省から江西省に入り、零都、寧都、永豐、永安等を経過し一路長驅して吉安、吉水に迫り、五、六の兩軍と會同したのであつた。爲に全江西の反動統治階級は震動し、蔣介石も即刻唐雲山の一族、金漢鼎の一師、陳雷の獨立團及び湘鄂方面の白軍を派して吉安奪回を爲さしめた。その結果は、吉安の富田、白水の南に於て、歩兵銃四五百、迫撃砲若干門、

機關銃六挺、手榴彈四十餘擔、俘虜幾百人かを赤軍に送つたことになつてしまつた。その二日後—二月二十六日—施家邊に於ても歩兵銃二千餘、迫撃砲十幾門、機關銃十五挺、馬匹及び無數の軍用品を俘虜一千七八百人と共に赤軍に送り、斯くて唐雲山の一族は全滅して、一銃一兵をも餘すなく、唐雲山自身は後方に在つた爲に僅かに死を免かれたのであつた。

斯の如く赤軍が百戰百勝する所以は當然幾多の條件がなければならぬ。然し何よりも赤軍の兵士大衆が自覺してゐることが最も大なる原因ではなからうか。彼等は實に如何に戦ふべきかを知つてゐるばかりでなく何が故に戦ふかを知つてゐるのである。出發しないうちは、一般に皆、戦はなきア、面白くないと云ふ。一たび出發命令がある時、皆雀躍して國民黨の消滅、革命成功萬歳を高唱し、いざ戦鬪となると、彼等は敵に向つて極力宣傳を爲し、これが切りくづしに妙を得てゐることは驚くべきものがある。俘虜の兵士などは、この宣傳によつてその大部分が赤軍編入を希望し、赤軍こそは自分等の家郷であると云ふ様になる。兵士生活をこれ以上希望しないものもあるが、それに對しては、赤軍が御馳走してやり、旅費までやつて、赤色區域から出るまで保護してやるので、彼等は赤軍の萬歳を大呼し、充分赤軍に心を牽かれて歸つて行くのである。負傷兵の如きは、物質的供給も精神的慰安も與へられるので、そんな事は彼等としては始めての經驗に屬するのである。

此の外大衆の擁護も亦赤軍が戦に必勝する主たる條件の一となる。即ち敵軍が來ると、在住民は悉く逃げてしまつて空虛となるが、赤軍は到るところに於て幾萬人かの歡迎大會が開かれるのである。交通、探偵、運輸、嚮導及び

その他一切の軍事工作には大衆が熱烈に參與し、特に戦鬪となれば、大衆は、一校隊を形成して戦はざるに先づ敵を敗つてしまふのである。實に幾千幾萬の武装大衆が潮の如く押しよせて赤旗が天空を遮り「殺せ!」「突貫」の聲が天地を震動せしむる状態なのである。そして戦に参加しない老幼婦女は、茶を運んだり、飯を運んだり、負傷兵の看護をしたり、實に肥つちよの魯が云ふ「贛西南では三歳の小兒から八十の老爺まで悉く土匪ならざるはない」は少しも間違ひではないのである。

ホ、反動派武装團體の動搖

赤色區域が日に増し擴張されるので反動政府の財源は益々枯涸し、兵士の月給などもすでに半年以上支給せず、それと同時にソウエート區域内の赤軍は、愉快なる生活と平等なる待遇を受けて反動派軍隊とは正に雲泥の差がある爲に兵士は次第に革命化の傾向を示して來たことは事實である。吉安八村の聯防游撃大隊羅炳輝などは全部赤軍に参加し、その他にも或は一小队或は一班の兵隊がその長官を殺して武装のまゝ赤軍に投ずることが常に有る。戦に臨めば、彼等は「御百姓さん、打たなくともよい。貧乏人は貧乏人を打つものぢやない。俺達はやて來た。俺達は新しい同志なのだ」と高らかに叫んで來る。今年一月、富田に駐在してゐた小數の兵士は一人の農民に二圓やつて、赤軍のところまで連れて行つてくれる様に頼んだ。その人達は元來湖南の農民協會の會員で馬夜の事變の時逃亡したもので現在四五十人だが皆赤軍に参加したいと云ふのである。吉安の延福では、二人の農民が白軍に捉へられ、長官は兵士に此の二人の銃殺を命じたが、その途中兵士等は農夫に云ふ「山へ行つたら、君等は死なねばならぬが、

乃公達は鐵砲を空に向けてブツ放すから、俺達が逃げたあとで君等もすぐ逃けるがよい」と。又白軍が油田を攻めた時には民衆大會が開かれてゐることを知つたので、それを一網打盡にしやうとし、兵士に發砲を命じたが彼等は命令を聽かない。そして云ふ「吾々は何故吾々の兄弟を打たねばならぬのか」と。そして空に向つて鐵砲をブツ放し、大衆へ知らせせて、皆逃げさせたのであつた。此外にも、白軍の兵士の中では、何か秘密文書でも持つてゐる交通係でも見付け出すと、用心しなければいけない、これ／＼の地方には行かぬ方がよい、など注意を與へる者もある。南昌衛守司令部の兵士などは、戸口調査をサボつて、自發的に兵士委員會を組織し、共產黨の兵士綱領を提出して張輝瓚に向つて示威的請願をした事がある。以上は兵士大衆が日々に革命化しつゝある實證であつて、反動的統治の最後の保障もかくして殆んど崩潰せんとしてゐるのである。

△刻下に於ける鬭争の總目標は全江西の奪取に在る。

國民黨軍閥の混戦が擴大し延長され、そして江西の大衆鬭争が更に尖鋭化しつゝある時に際しては、全省政權の奪取はその實現が決して遠い將來ではないのである。今やあらゆる工作は南昌に向つて發展し、東北部の方志敏、西北部の德安、九江とも聯絡を保つことが出來たから、反動派が如何に謠言を振り撒かふとも、それは只彼等の末路が近づきつゝあるを證するだけである。諸君、立て、遠からずして南昌城頭赤旗の翻翻たるを見るであらう。(紅旗社) 四月一日

六 湖南、湖北、江西の境界地方に於ける赤色區域

湘鄂贛邊境の革命は幾年かの長期に亘る鬭争を經過し、革命的勢力は豪紳地主階級に對して固より猛烈なる打撃を加へ、而て邊境の統治階級は最後の努力を以て封建の名残を延長せんとしてゐるだけで革命的勢力に向つて攻勢を採る様な餘力などは勿論ない。而かも平江、瀏陽、銅鼓、萬載、修水、通城、通山の各縣は皆崇山の峻嶺であつて交通も不便であり大きい商工業者もないので、ブルジョアジイは政治的にも經濟的にも勢力は有つてゐない。此の邊境の農村經濟は多くその大半は地主階級の手中に握られ、その大部分は中小地主である。而かも彼等は多年軍閥の擄取を蒙つて居り土匪討伐などの暇がなく彼等自身の經濟さへも解決することが出來ず、その故に農民への擄取と壓迫を強化してゐるのである。即ち彼等は自己の統治を鞏固にし、革命的勢力を消滅せしむる爲に、極力國防の武装を擴大し、農村自治などと云ふものを組織してゐる。

此の地方は山が多くて田が少なく、農産物は稻と甘蔗の外は、茶油、茶葉、紙、馬鈴薯等がその主たるもので、密柑、桃が補助的産物である。而て土地所有權は地主の手に皆握られてゐて、税といふ税は皆重税である。農民は一年中一生懸命に働いてしかも飽衣暖食することが出來ない。此の二年以來は農村の鬭争が深刻となり、大部分は地主の土地を沒收し或は租税不納の爲に猛烈に鬭争したりして、豪紳地主階級の經濟は完全に破産の状態となり、而かも軍閥の徴收金にも應じなければならぬので全く維持の方法がなくなつてゐる。(平江、瀏陽の常備隊の如きは數ヶ月間月給が支給されず、又衣服も與へられてゐない) 故に彼等は只農民、工人及びブチ・ブルに對する擄取を強化する一途あるのみで、その故に大衆の苦痛も益々苦しくなり、生活も亦次第に悪化して行くのである。高い小作料

や高利の貸金ばかりでなく、次から次ぎと苛税が続く。瀏陽では三石乃至六石收穫ある田畝に六元の税がかゝり、五石乃至十石以上の者は累進的に課税されてゐる。小作人はその收穫が十石なれば五斗の税がかゝり、茶油はひと搾りに就いて十二兩、折表紙一石で六角、戸數割は百乃至二百文、通行證(十六歳以上は各人一枚)は一枚三百乃至四百文又は一元のものもあり、見張り隊は十六歳以上の男がヶ月に四百乃至一千二百文の課税がある。平江縣の鐵砲購入を名目とする税は一戸に就いて三元、期日通りに納めねばならず、良民證、通行證など、云ふ税が一と月毎に五六百文取られるのである。銅鼓縣の銃器購入税は各團から二百元を徴してゐる。又萬載縣の自治委員會では戸數割が五角……等々、此の外にも屠獸税、印花税、所得税、清郷税等は各縣何處にでもあり、その名目だけが四十種を下らない。

此の邊境の農民としては貧農がその大部分であつて、生活は異常に悪劣であり、住居なども全くの茅屋か又は破小屋で衣服などは一つとして完全なものはない。口にするものは芋半分米半分で、その大半は馬鈴薯の小さく切つたもので、甚だしいのになると、山野から採つて來た名も知れぬ草を喰ひ、冬季に布團もない者が甚だ多い。工人の生活も亦似たり寄つたりで、最も多いのは紙工であるが毎日の賃銀が約五百文、而かも同様に地主の搾取を蒙り(紙工場主は大部分地主である)、同様に白色テロルにおびやかされて、その苦痛は農民に劣らないものがある。勞農大衆が斯の如き搾取の下に、すでに忍び難きを忍んで來てゐるので革命に對する要求は異常に切迫してゐることに不思議はなく、従つて此の地方の革命闘争は、急速度に展開してゐるのである。

豪紳地主階級の統治も既に日と共に動搖し、國民黨軍閥も亦、この故に反革命戦争を準備しつゝあり、一致して革命的勢力に對し攻勢を採り、極めて残酷に革命的民衆を屠殺しつゝある。平江縣だけでも殺されたものが一萬餘あり、瀏陽は四千以上、その他萬載、修水、銅鼓の各縣でも一千以上の農民が殺され、山林には未だ埋めてゐない死體の累々たるものがある。平江縣の白虎洞、百泉洞、黄金洞、辜家洞、灶門洞、徐家洞、瀏陽縣の金坑、東瓜漕、螢火洞、大光洞、白水洞、上下源湖、東坤、銅鼓縣の一、二、三、五の各區、萬載縣の西坑、成坑等の一帶は最も烈しい受難地であつて農民の房屋は完全に焼き拂はれてしまつてゐる。農民の米穀、牲畜は勿論、カマドから臺所道具、破れ衣物まで全部掠奪され、運びきれぬものは火で焼いたり、或は糞尿を灌いだり、平江縣知事宋春梅の如きは、神出鬼没で農民自衛軍の大殺戮をやつたりした。

革命的大衆は敵の爲に斯の如き虐殺を蒙つても、勇氣が減少するどころか、反つて益々憤恨を發して革命的となり、一般の農民も深刻なる認識を有つ様になり、平江縣の黄金洞の農民の如きは、自分では馬鈴薯を食ふても、赤軍には米を供給するといふ始末である。去年の秋收闘争(秋の取り入れ時の闘争)は邊境の各縣に普遍的に爆發ししかもそれが非常に激烈であつて、多くの地方では地主が聯防隊を連れて來て、無理に上納米を取らうとしたが、農民赤衛隊の爲に打ち敗され、取られた穀物を又奪回してしまつたのであつた。各縣の赤衛隊はすでに普遍的組織となり、人數や銃器の點では反革命派の武装より稍々劣るけれども然し戰鬥力は彼等よりはるかに多い。邊境の革命的勢力は日々に前進發展しつゝある。各縣に於ける工、農會の組織及びその發展は極めて迅速である。ソウエート

區域も日々に擴大し、以前は只平江、瀏陽、修水、銅鼓が赤化してゐたばかりであつたが、今では萬載、宜春、宜豐、通城、通山の各縣にまで發展し、以前は瀏陽縣でも只一區と五區だけの赤化であつたが、今では二、三、四、六、七、八の各區がすべてそうである。又銅鼓縣では、平江に連接する一部分だけが赤色であつたのに、今では全縣に亘つてソウエート政府が樹立されてある。赤軍及び赤衛隊の勢力も亦日に増し雄厚となり、國民黨軍閥や豪紳地主の部隊で赤軍に投ずる者あるは常に耳にする所で、最近では萬載に於ける兵變がそうであり、その他でも、赤軍と交戦中に武装のまま、赤軍に投ずるものが非常に多いのである。赤軍に俘虜となつた兵士は、好い待遇と宣傳を受けるので、歸還した後にも口を極めて赤軍を賞し、「土豪劣紳は、赤軍などは人を捕へて煮殺す奴等だと云ふが事實は實に好いところだ。吾々は土豪の爲に死力を盡すなどは實に馬鹿氣なことだ」と云ふてゐる。故を以て、各地の自衛隊も自らそれを辭し、各縣の見張り隊も自覺するものが多く、従つてその組織は殆んど瓦解に等しいものとなつた。斯くて共產黨の政治的影響は日に増し擴大し、國民黨政府の大衆に於ける威信は日々に縮小され、従つて赤色區域は次第々々に擴大して行くのである。(陽 清)

七 湖北、河南境界附近の赤軍

—赤軍兵士の通信—

△國民黨の統治

國民黨軍閥の鄂豫邊境に於ける「訓政」工作はすでに三年の歴史があるが、此の三年間の成績は、大衆の反抗闘争

が尖鋭化した程度によつて知ることが出来るであらう。鄂豫邊境に於ける國民黨軍閥の壓迫と搾取とは苛税、雜税、保衛、清郷を除けばあとは「流血」政策であつて、その故に大衆の反抗は租税不納、借金棒引きの階段から、遂に漸次進展して豪紳地主階級の土地と財産を沒收して、自己の武装政權を樹立する様になつたのである。彼等の苛税雜税に至つては、屠獸税、煙酒税、硝磺税、雜貨税等の外、戸籍税、灶頭税、戸數割、家屋税、婚嫁税、清郷税(田賦に二割の附加税を課す)、銃器税、電柱税、勦匪税等々であつて、これは各戸が全部が完納せねばならぬものである。田賦の如きは一九二六年に比し三倍となつたばかりでなく、一九三六年分まで徵收する始末である。この外に紅契復驗(不動産買賣、質入れ契約書の作製の税を再驗査する)といふものがあり、それが一契約書に付いて一元八角である。以上は平時の事であるが、若し戦争でも起れば、人夫や車の徵發、軍用金の取り立てがある。一般の百姓達は連年の不作と長い間の軍閥の搾取により、納税金などは勿論ないが、一日二度の食事にしても尙ほやり切れない状態である。その爲に一部は山の中に逃げ込んでしまつた。豪紳、地主、國民黨は尙ほもその手を緩めず、直ちに保衛團を組織し、清郷委員會を成立せしめ大衆に納税を命じてゐるのだ。

國民黨軍閥も、こんな固苦しい方法が上策でないことは知つてゐる。その爲に一群の走狗を雇つて、何とか黨部何とか清郷委員會などと云ふものを組織して、到るところ「農民は土豪劣紳を打倒する必要はない。若し土豪劣紳が倒れたなら君等に耕作する田地を給するものがなくなるのではないか」と叫ばせてゐる。孝感縣の走狗黨部などでは「共產黨は、工賃増額、租税不納、借金棒引や、兵士の給料を毎月支拂ふこと及び待遇の改良などを叫んでゐる

るがそれは、君等に對する彼の陰謀であるから欺されずにこれを防備しなければならぬ」と説き、黄安縣の清郷委員會の布告には「十歳の幼女が口に自由を叫び、三尺の童も目に長上がない。黄安は素と禮義を尊ぶの地である。變じて禽獸の住むところとなつた」とある。これ等の欺瞞はやはり彼等が大衆に對する「訓政」工作なのである。

△國民黨の白色テロル

然し大衆は馬鹿ではない。結局國民黨と共產黨と何れの理窟が正しいのかを大衆はハッキリ認めてゐる。その故に大衆は自身の利害の爲に、豪紳地主に對して勇敢に租税不納、借金棒引を主張し、且つ漸次に豪紳地主の財産及び土地の没收、自己の政府の樹立（鄂豫邊境革命委員會）自己の武装（赤軍）の組織へと進んでゐるのである。國民黨軍閥は最早や死に瀕して精神が錯亂してゐるけれども、依然として無理押しをやつてゐる。そして彼等の無理押しの方法としては、即ち流血政策に外ならぬ（彼等に一標語がある、曰く、若し共產黨討伐の聯合戦線を組織しないものがあるならば、血を以て全村を洗へ）。税金や借金に反抗する農村は、殆んど家屋の十分の五六が焼き拂はれ、革命政府を樹立した農村では十分の八九が焼き拂はれてゐる。黄安縣七里區地方では、何も知らぬ農民百五十餘人を引つゝつて、老幼男女に拘らず全部最も残酷な死刑を行つた。或る者は心臓や目をエグリ取られ或は焦し焼かれ、又は指を切られたり、竹槍でサシ殺されたりしたのである。孝感縣の土豪は農民の死活を顧ず、故意に穀價を騰貴させた爲に農民は或る土豪の穀倉を破つたところが、孝感縣の縣長は百餘りの清郷軍を率ゐ、二十ばかりの石油罐をブチマケて一氣に五六ヶ村をキレイに焼いてしまつた。焼かれた家は百二十餘家、殺された農民は二十七人、

一人の老婦人は細られたまゝ、鐵道線路に横にされて、轢き殺されてしまつた。國民黨は、共產黨の殺人放火を云ふが、その實は最も兇惡な殺人放火は只國民黨軍閥だけである。吾が赤軍は豪紳地主を殺すだけで、その他に對しては全く非常に平和的である。

△吾々の赤軍

大衆は以上の如き嚴重な武力壓迫を受けて愈々自己の武装の必要を感得した。現在鄂豫邊境の革命委員會の下には豫備軍と常備軍の二種がある。豫備軍は皆鄂豫邊境八縣の農民であつて、十八歳以上四十歳以下は皆赤軍に入る義務がある。武器は新舊兩方で、各人が必ず一つづゝ持ち、皆軍事的訓練を受け、すでに幾多の戦闘を経験した。去年一ヶ年間夏斗寅、徐源泉の二軍が空陸兩方から攻めたが、その結果は、彼等の側に二、三千の將士の損失があつただけであつた。常備軍は合計三ヶ師、人數六千餘人、これが六個の先遣隊に分れてゐる。武装は齊備して居り組織も嚴密である。赤軍の特異點としては次の如きものがある。

- 1 兵士の誤りは兵士相互が批評し、相互に糾正し合ふ外は、すべて兵士委員會で責任を負ひ、長官又は軍紀などで取扱ふことは非常に少ない。
- 2 軍用金の財源と支出とは完全に公開し、且つ兵士委員會の審査を必要とする。
- 3 長官も兵士も生活は一切平等である。
- 4 軍隊中にテニス、フットボール、琴、棋などの娛樂的設備がある。

5 特筆すべきは、赤軍は到るところ大衆の土地分配を補助し、反動的勢力を掃倒し、大衆の武装組織と訓練とを援助してゐることである。だから赤軍が行きさへすれば幾千萬の大衆は歓迎會又は慰勞會を舉行するのである。赤軍の兵士の家で田を耕作する人がないときには、皆な手傳に來る。大會が開かれる毎に大衆は「吾が赤軍」と親愛なる叫びを擧げる。赤軍の兵士も「此の鐵砲は自分のものではない、長官のものでもない、勞農階級のものだ、萬國勞農階級のものである」と云ふてゐる。

6 國民黨の軍隊でも、その兵士大衆は皆赤軍に好感を持ち、戦を交へる毎に多くの彈丸を残して行くのみでなく、彼等の軍情を情報するのである。わざ／＼兵變を起して赤軍に投ずる者さへある。故に國民黨の大小軍閥は皆赤軍の標語とピラを恐れ、攻勢に出るときでも或は退却する時でもいつも、字を知らない兵士を先きに出して掃除をさせてから通過して行くのである。或る時、或る國民黨軍隊の兵士が一枚の赤軍のピラを持つてゐたら、反動軍官は、直ちに彼を銃殺にしてみました。曰く共匪と私通するものであると。(紅旗社)

八 廣東省海陸豐の狀況

蔣桂戰爭以前は、反動勢力が全力を盡して海豐、陸豐、惠陽、紫金の革命軍を鎮壓し、村落を包圍したり、山林中まで捜査したり、色々な残酷な方法を悉く用ゐたものだつた。その爲に大衆の革命闘争は、表面的には暫時消沈してしまひ、幾多の赤色區域は皆反動勢力に踏みにじられて慘々たるものがあつた。然し大衆の闘争熱情は依然繼續醸し、愈々積んで愈々烈しく、一旦蔣桂戰爭の勃發するや、眞紅の火焰が爆發と共に發したのであつた。

此地方の大衆は曾つて長い間の豊富な闘争經驗があり、従つて自己の力量に對しても深刻な認識がある。軍閥國民黨の斯の如き空前の屠殺と壓迫に遭ふも容易に屈服しないのはその爲めである。故を以て闘争の一たび開始さるゝや、勇敢に、普遍的に、そして迅速なる進展を示し、惠州の工人闘争、淡水多祝河口鹽田工人が警察官を毆打したり、多祝の女工が捐税に反抗したり、海豐の工人が自動的に反動分子を捕へ又はピラを撒き、陸豐縣梅隴の農民の租税反對や、紫金縣農民が自ら地主の牛と武装とを奪つたこと、そして兵士大衆が無抵抗にこれに銃器を交附したことなどが次から次へと起り、多祝の商人の如きは踴躍してソウエートに金を寄附したりしたのであつた。これ等はすべて闘争復興の初期の狀況であつて、夏の收穫時には赤色の農村では土地政綱の實行を開始し、バルチザン戦争を擴大して、惠陽縣の白花、平山、横瀝、海豐縣の赤和二區の如き反動統治下に在る農村にまで租税反對闘争を起させ、地主を捕へて毆打したりした。「八一」には大衆は到處示威運動を舉行し、ピラを撒き、スローガシを叫び電線を切り、そして大會を開いた。附近の幾多の農村でも此の影響を受け、皆ソウエート區域に代表を派して參觀せしめ、彼等のソウエート樹立を補助してくれる様に頼んだものである。

秋になると、大衆闘争は更に春草の萌え出づる如き勢となつた。その時は丁度蔣桂戰爭の最中で反動派軍隊がその方面に集注したので敵の勢力が薄弱となり、大衆の注文通りに行つたのである。海豐に於ては、工人大衆が納税反對の罷工をやり、自己の工會を組織し、仙尾埠頭の工人は經濟闘争を起して貨物主を毆打した。水夫も課税に反抗して港に入らうとしなかつた。そして海陸豐の工人の鹽稅徵收反對などもあつた。彼等は國民黨がロシヤと絶交

したのを見て、「中國革命はソウエート聯邦の援助がなければ決して成功するものではない」「國民黨がロシアと斷交した代りに、吾々の工會がそれを行はふ」と云ふてゐる者が多い。そして彼等は右翼工會に對する認識も次第にハッキリして來たので、國民黨に對する厭恨は今や普遍的現象となつてゐる。

農民闘争も亦同様であつて、惠陽では減稅や、納稅反對、道路修築反對、人夫徵收反對又は民團に對する反抗などがあり、海豐でも收稅吏の捕殺や租稅不納があり、陸豐の農民は民團費の徵收に應ぜず、村落の包圍に反抗して武装衝突を起し、紫金縣では農民が租稅不納をやつて地主を捕殺してゐる。從來革命に對して懷疑を有つたもので、今では斷然革命に参加し、ソウエートの土地革命こそ眞に彼等を解放に導くものであることを認識した。「共產黨の革命は殺人と放火だけであると云ふが、殺すのは地主と豪紳であつて、國民黨の如く農民を殺すこともせず、又國民黨の方がズット兇惡ではないが」とか、「國民黨の擄取は滿洲朝廷より十倍もひどい」など云ふのが農民の間では常に聞かれることである。

土豪劣紳は彼等の子弟が保衛團員となるだけで、その他の人々は何人も彼等の爲に命を投げ出さうなど云ふものがない。それは實に、自らプロレタリア兄弟を殺すことであるからだ。海豐縣の警備隊は銃器を持つたまゝでソウエートに投じて來る始末である。淡水の警備隊でも「吾々は警備隊の兵士にならないで赤軍に参加せねばならぬ」と常に云ふてゐる。即ち彼等は國民黨に對して合流して全部的兵變行動を起すには至らぬけれども、ソウエートに彈丸を運んだり、ソウエートが武器を要求すると抵抗なしに之に應じたりすることは普通の現象である。

「共產黨の暴動の時には吾々は只銃器をやりさへすればよい」とか「ソウエート政府はほんによい」とか、又は「吾々もソウエートに参加しやうぢやないか」とか或は又「赤軍に参加するがほんとうだ」など云ふてゐる。従つて捕虜にでもなると、歸還しやうとはせず、ソウエートに留つて赤軍の兵士になることを望むのである。

貧乏な商人も亦皆國民黨の苛稅、雜稅に反抗し、公平や梅隴の商人は暴動さへも要求し、町と云はず村と云はず時々大衆の示威的騷動があり、鐵道や橋梁を毀したり、電線を切つたり、反動派をして風聲鶴淚、草木悉く兵の如き感あらしめ、勇敢なる大衆の攻勢に、反動派はたちまちその醜體を暴露するのである。ソウエート聯邦擁護や軍閥戦争反對の示威運動には更に廣大なる大衆の自動的参加を見るのである。

赤軍の發展は一般的大衆闘争と共に進展し、今では四十九ヶ團が建設され、赤石、后門、石沙、黄羌、河口、石頭棚、日中坪、上護、大棚、坡溝、炮仔、高潭等に進撃したことがある。而も到る處反響があり、ソウエート區域の擴大は眞に迅速なるものである。就中海豐縣城に攻め寄せた時には、多數の民衆が續々として参加し、勇敢なる地方暴動の試練を始め、農村政權から進んで、都市政權の樹立を見んとしてゐる。

一般大衆の國民黨に對する仇恨はすでに極點に達し、改組派の改良主義的欺瞞もハッキリと認識する様になつた。「汪精衛、張發奎などは皆反革命であり、蔣介石、李濟琛、陳濟棠、徐景唐などは少しも問題にならぬ」と彼等は謂ふ。今度改組派は二人の黨員を赤石に派して活動せしめ、革命黨は共產の名義を用ゐることを取消して、護黨救國軍と改めさせ様としたが、大衆の抗議に遭ふて、直ちに赤軍又は赤衛隊の爲に銃殺されてしまつた。これなどは此

の地方の一般的狀況を語るものではないだらうか。(紅旗社)

—一九三〇年二月—

九 廣西省ソウエートの狀況

イ、廣西省に於ける客觀的條件

廣西省の勞農大衆は經濟的方面でも或は政治的方面でも、完全に帝國主義フランスと、豪紳、資産階級、國民黨の分割支配下に在り、農村に於ける地主は同時に高利貸であつて、農民に對する搾取が非常に殘酷である。即ち高利の貸付と高度の地租を徴収するばかりでなく、自分が納めねばならぬ税金まで農民にその一半を分擔させてゐるのである。且つ彼等の多くは失意の軍人か或は軍隊と密接な關係を有するものであつて、農村では大いにその「紳衿」(名望家)を振り廻して、その政權を握り、傍如無人な振舞が多く、従つて農民の生命財産は完全に彼等の手中に弄ばれてゐるのである、彼等の中でもいさゝか聰明なものは、農民が日に破産に趨くのを見て、半封建的搾取の遂に妥當ならざるを覺り、その一部の財産を出して工場を作り、甚だ低廉なる工賃を以てこれ等失業農民の勞働力を購ふを有利としてゐるものもある。此種の計劃は必ずフランスと共同して各種の工業を營むもので、南寧の製皮工場、柳州のセメント工場、梧州の製紙工場、煙草工場、硫酸工場、及び大都市間の自働車道路の修築等これである。數多の破産農民は、於是大都市に集注して來るのであるが、その生活たるや、豪紳地主に抑へられてゐる時と少しの變りもない。一日の勞働時間は十四五時間で、打たれたり罵られたり、又は罰金を取られたり誅められたり、而

かもその勞働の代價は、本人の生活費用にも足りないのである。すべての工會は國民黨の請負式制度に完全に操縱され、従つて工人の苦痛や要求などは少しも知らず、工人の利益を謀るなど云ふことはもとより無いのである。そして工會の唯一の作用と云ふべきは、毎月、各工人から一元といふ血と汗の固りを納めさせて、資本家の工人壓迫を援助することである。此の外日新月异の苛税や雜税、連年の戰禍、又は帝國主義フランスの商品が輸入され、金融の支配權を握つて一般物價を騰貴せしめることなどは、皆大衆の生活をして日は一日と悪化せしめ、急轉して革命的方向に到るの止むを得ざるに到らしむるものである。

ロ、大衆闘争の經過

廣西省の勞農大衆が、帝國主義フランスと、豪紳、地主、資産階級、國民黨の高壓下に在つて、その生活が異常に困窮してゐることはすでに述べたが、就中、瘠地の多い西部地方(左右兩江)に於ける大衆の蒙つてゐる壓迫と搾取とは更に直接にして且つ深刻なるものがある。従つて此の三年間といふものは、一日として彼等の搏撃的闘争がない日とてはない。右江の東蘭鳳山一帯の大衆は曾つて一千人餘りで、而かも舊式鐵砲で以て黃紹雄の一師の衆と戦を交へること二年の久しきに及び、今尙ほ消滅しないで最後の勝利を得てゐる。左江の龍茗に連接する一帯の農民も亦少數の武装を以て黃紹雄の一師の兵力と數ヶ月間交戦してこれも亦最後の勝利を得たのであつた。その他各處の農民が豪紳地主と武装衝突を起すことは、すでに極めて普通の現象となつてゐる。斯の如き日々尖鋭化する闘争過程に於て大衆の政治的認識が深刻となり、斷然自己の能力を組織化し、一致して敵人殺戮を爲すことが、此の苦

痛の深淵から跳ね出る唯一の方法であることを認むるに至つた。斯くて工人は國民黨の工會から離れ始め、自己の工會を組織して闘争綱領を規定し自らの切迫せる要求を提出するばかりでなく、帝國主義、國民黨の打倒、勞農兵ソウエート政權の建設をそのスローガンとする至つた。農民協會の發展も亦非常に普遍的となり、大衆の信望も極めて厚く、一般の農民は農民協會の決議は知つてゐるが政府の命令はこれを知らないといふ有様である。兵士大衆も最早軍閥の爲に鐵砲的たるを欲せず、蔣桂戰爭勃發に際しては、プロレタリア前衛隊の指導の下に、下層の兵士大衆は一齊に立ち、周囲の響應を得て反動的長官を追ひ出して兵士委員會を組織し、赤軍と改稱して、赤旗を立て勞農大衆を聯合して百色に勞農兵ソウエート政權を組織し、右江一帯を占領して八時間勞働制を頒布し、地主階級の土地は全部沒收してこれを土地のないもの又は土地の不足してゐる農民に分與し、兵士の生活と待遇を改善し、只一つの特別税以外は、すべての税金を廢除してしまつたのであつた。

ソウエート政權成立以後は、各地の大衆組織は更に擴大し發展し、赤軍游擊の結果は、その影響の及ぶ限り赤色の世界と變じ翻翻たる赤旗が左右兩江二十餘縣に充滿し、二月二十二日には、大衆の威力を以てして龍州城を占領し廣西省ソウエート政權を樹立したのであつた。龍州は廣西省の經濟的中心地の一であり、佛領印度支那との交通の要衝である。帝國主義フランスは、従つてその地方に雄大なる政治的並びに經濟的勢力を有し、商店、銀行、教會、官署等は到る處に在る。大衆の龍州城を占領するや、軍閥國民黨の政府を倒しただけでなく、フランスの銀行、教會、大商店、海關及び領事館まで沒收してしまひ、ソウエートの法令に服従しない外國人は、全部國境外まで護

送したのであつた。斯の如き反帝國主義的行動は、豪紳、地主、資産階級、國民黨などは幾十年來敢て爲し得ないところでもあり、又爲すを願はざるところのものである。而も大衆は、自己の政權下に於て數日の中にこれを實行してしまつたのである。これこそ中國革命の新紀元を開くものではないか。中國革命史に於けるその偉大なる意義は大衆が自己の政權を樹立することによつてのみ帝國主義の徹底的驅逐と、その中國に於ける一切の勢力を掃倒し得るものであることを確實に證明した事である。豪紳、地主、資産階級、國民黨の如きは、無條件に帝國主義に屈服し、特に革命の鎮壓に際しては完全に帝國主義と一致の行動を採つてゐるのだ。龍州の赤色政權も始終大衆の擁護を得て、帝國主義國民黨の壓迫摧殘下に於て存在してゐるのである。戦闘飛行器五臺、四百磅の毒瓦斯、五百名の精兵が帝國主義フランスの命を受け、廣西派、改組派及び一切の國民黨軍閥と聯合して斷えず龍州ソウエートを攻撃したものだ。

此の攻撃によつて大衆は只暫時龍州城を退出したのであつたが、龍州以外の地方では、ソウエート政府の勢力は依然として尙ほ保存されてゐるのである。此の數ヶ月間のソウエート政府の一切の行動は已に大衆をして深刻に自己の政權の意義を認識せしめ、近き將來に於て必ず此の政權を恢復し全廣西に擴大するだらうことを信ぜしめた。此の間のソウエート政府の顯著なる成績は次の如くである。

- 一、帝國主義的あらゆる勢力を掃倒し、民衆の仇敵なる國民黨軍閥政府を打倒したこと。
- 二、地主階級の土地を沒收し、田畝區劃標を毀して、農民の能力に應じて分配耕作せしめ、すべての契約や債券を

- 燒棄して、豪紳、地主、富農及び高利貸などの反革命的勢力を掃倒したこと。
- 三、勞農大衆は皆各自の組織を作り、女工、青年工、雇傭農等も皆獨立の組織を爲し、その爲に彼等の特殊な利益はすべて保障することが出来たこと。
- 四、反動派から取つて来た銃器で大衆を武装し、各農村各都市の赤衛隊を組織したこと。
- 五、一切の税金を廢止して累進税の徵收を實行したこと。税率は各人の所得に應じて定め、富農は三分の一乃至五分の二、土地の分配にあつた農民は十分の二、或は十分の三、商人は資本五百元以上の者は百分の一、千元以上の者は百分の五、二千元以上の者は百分の八、三千元以上の者は百分の十、そして貧農と小商人は少しも負擔させない。
- 六、日刊新聞を作り、勞働學校を創立し、消費組合その他大衆の文化を昂上させる娛樂機關を作つたこと。

(曉 蘿)

十 六安縣(安徽省)第六區のソウエート條例

第一章 總 則

- 一、本選舉條例は勞農專制の原則により、職業代表及び地方代表の二種の方法を適用す。

第二章 選 舉 權

- 二、ソウエート区域内の人民は、人種、男女及び居住年月の多少を論ぜず、次の資格を有するものは、皆ソウエー

ト選舉權及び被選舉權を有す。

- 甲、農工商に雇用される工人及び使用人。
 - 乙、手工業者及び筋肉勞働者。
 - 丙、搾取を目的とせずして、自ら勞働する農民。
 - 丁、生産事業及び社會に有用なる勞働事業によつて生計を維持する小學教員、醫者、自由職業者。
 - 戊、從來プロレタリア又は革命の爲に努力したるもの。
 - 己、ソウエート圏内の各種軍隊及び兵士。
- 三、次の一項に該當するものは選舉權、被選舉權なし。
 - 甲、土豪、劣紳、地主、反動派。
 - 乙、統治階級の警察官、憲兵又は手下であつたもので反革命的行爲あるもの。
 - 丙、金貸の如き經濟的搾取を爲すもの及び財産收入あつて自ら勞働せざるもの。
 - 丁、僧侶、道士、卜者、キリスト教徒及び迷信の宣傳者。
 - 戊、流氓やゴロツキで永久に生産形態から脱離し寄生虫となつてゐるもの。
 - 己、自己の利益を増して勞働者を雇傭するもの。
 - 庚、第二條の各項に當るものにして選舉期間内に反革命的行爲があつたもの。

辛、癡者、病人、又は精神錯亂のもの。

第三章 代表人數の比例

- 四、工人は四人に就いて代表一人を選び、農民は五百人に就て代表一人、兵士は五十人毎に一人、都市の貧民(各種の商人、醫者、筋肉労働者等)は百人毎に一人の代表を選び、過半数を以て當選とす。
- 五、各代表は青年又は婦女にても差支なし。

第四章 選挙法

- 六、勞、農、兵士、貧民及び婦女の選挙は別々にこれを行ふ。
- 甲、工人は町の工場地方を單位とし、工會が一ヶ町、一ヶ工場、或は一地方の工人全體會議を召集してこれを選挙す。
- 乙、農民は選挙區を單位とし、農會が、全區域の農民會議を召集してこれを選挙す。
- 丙、都市の貧民は、その町を單位とし、自由集會によつて選挙を行ふ。
- 丁、手工業者、筋肉労働者、小學教員、店員は工會の選挙に参加するものとす。
- 七、代表選出の手續
- 甲、會場に集つた有権者に於て代表若干人を決定す。
- 乙、二人の推薦者と五人の賛成者があり、それが會議に上程されて過半数を得れば正式な代表者と爲す。

丙、推薦の方式により、舉手によつて表決する。

- 八、選挙期日は準備會にて決定し、先づ各區、各團體に通告し、期日には會場に監視人を派し、且つこれを指導する。

第五章 選挙區

九、農民には地方選挙制度を採用す、選挙區合計二十六區。

第六章 代表者の資格

- 十、第一條による有権者はすべて代表者の資格あるものとす。
- 十一、各處に於て選出した代表にしてそれを承諾しないか又は選挙條例に違反したものである時は、隨時これを撤回せしめる事を得、而て同時に審査委員會を開いてその代表者の資格を剝奪するものとす。

△六安縣第六區の肅反條件(反革命者打倒條例)

- 一、革命的民衆及びその家族を捕捉し又は殺害したるものは、すべて死刑に處す。
- 二、反革命の軍人を導き又はそれと勾結して革命的民衆及びその家族を捕捉或は殺害したるものはすべて死刑に處す。
- 三、すべて反動的機關又は團體に對して革命的大衆の行爲或はその行く先きを報告したるものは死刑に處す。
- 四、密に革命的情操を破壊すること重大なるもの或は系統的に反宣傳をやつた者はすべて死刑とす。

- 五、他人を使喚して一、二、三、四各條の罪を犯さしめたる者も死刑に處す。
- 六、以上各條の罪を犯したる者にして、その家族が反動的狀況なく、又搾取壓迫等の事がないものは、連坐せしむるを得ず。
- 七、反動的言論あるも反動的行爲なきものは肅反委員會にて、その罪の輕重を參酌し罰金或は禁錮に處す。
- 八、人を強迫し、又は利を以てこれを導き反動的行爲を爲さしめたる者は、肅反委員會にてその輕重を酌量して罰金或は禁錮に處す。
- 九、次の一項に該當するものは、肅反委員會に於て死刑、罰金、或は禁錮に處す。
 - イ、工賃を差し引き、工人及び店員を虐待したる工場主及び店主。
 - ロ、ヒドイ小作料又は利息で農民を搾取したる地主。
 - ハ、月給及び食費を天引きして兵士を虐待したる將校。
 - ニ、貧乏人を搾取し、公金を私腹し、村民を魚肉とした政治を執行せる豪紳。
 - ホ、貪婪にして富を致せる官吏。
 - ヘ、豪紳地主の忠實なる走狗。

- 十、直接又は間接に革命團體を破壊したものは、肅反委員會にてその情狀を參酌し、死刑、罰金或は禁錮に處す。
- 十一、詐つて革命團體の機關又は共產黨の名義を借り言論を發表し或は印刷物を配布したものは死刑に處す。
- 十二、詐つて革命團體の機關又は共產黨の名義を借り、他處に於て農民を欺いて財物を獲得したものは、そのもの、動機とその時の環境とを酌量して處理すべきであつて、すべて死刑に處してはならない。
- 十三、革命的勢力を藉りて私恨を報ずるものはすべて反革命を以て論ず。
- 十四、事情の爲に革命團體の或る個人に反對する者にして、革命團體そのものには反對しないものは反革命を以て罪するを得ず。
- 十五、他人を反動的であると誣告したものは罰金或は禁錮に處す。
- 十六、本條例の各條の罪を犯したるものでも發覺以前に自首した者は原因を參酌して減刑或は免除するを得。
- 十七、本條例の各條の罪を犯し共犯者を供述したものは減刑するを得ず。
- 十八、肅反委員會は民衆の利害と要求とに根據するを肅反の原則と爲す。
- 十九、大衆の認識がまだ足りない時には肅反委員會は以上各條の罪犯を處置するに當り、大衆に説明し、必要あれば民衆大會を開いて裁判するものとす。
- 二十、すべての罪犯に對しては、ソヴェート肅反委員會の裁判審定を経るを要し、各村の警備隊が自由にこれを解決することを得ず。

第三編 全國的ソウエート統一政權への展望

第一 ソウエート區域代表大會

一 召集の經過

1、中國共產黨より全國總工會へ

反革命統治の動搖と崩潰は繼續し、中國革命は今や歴史的重大なる時期に立ち到つた。各大都市に於ける工人闘争が勃興し、國民黨と右翼工會の威信は全く地に墜ち、主要産業工人大衆の直接闘争や罷工運動が不斷に爆發し、それ等が、中國革命の主要動力が敵の中堅營壘に搏撃してゐることを表現してゐると同時に、反帝運動の復興、農民の土地革命の擴大と深化、ソウエート區域の伸張、赤軍の偉大なる發展等は、中國勞農革命の高潮が正に洶湧しつつあることを證明する。

中國革命の急激なる發展はすでに如何なる反動統治階級と雖もこれを防禦し得るものがない。これこそ中國工人階級歴年の階級闘争の偉大なる結果である。何となれば中國工人階級は資本の攻勢に反抗し、帝國主義と國民黨、軍閥、地主、豪紳に對する反抗に於ても常に革命の最前線に立ちて猛闘し、全國的革命大衆を指導して、反動的統治階級に對し決死の戦闘を試みたからである。斯の如き長期に亘る奮闘に於て敵の統治に打撃を與へ、敵の威力を

薄弱ならしめて、反動的國民黨には安息の機會を與へず、かくして革命は全國的に新なる團結を得て今日の中國革命復興の新局勢を形成したものである。

革命の發展過程に於ける農民の土地奪取闘争も亦愈々白熱して來た。今や農民ソウエート區域とバルチザン戦争の轟發は南部中國即ち福建省西部、江西省の西部及び東北部、廣東省の潮梅地方、湖南省東部の平江、瀏陽、湖北省の全部、河南省の南部等に蔓延し、それ等の地方は日に増し左傾化し革命化し、此の一ケ年の間に於ける各地の兵變と、兵士大衆の赤軍参加といふ現象は反動的軍隊をして更に動搖恐慌を來さしめ、勞農兵の革命闘争は斯くして平衡的發展の形勢を示してゐるのである。

目下の革命的形勢より吾々は次の如く斷言し得る。即ち反革命的統治階級は急速度に墓穴に向つて進み、階級闘争の勝敗の歴史的決定を見ることは近い將來であると。廣大なるプロレタリアの斷乎たる指導の下に中國革命は完成するものであつて、而かもその意義は今日に於て愈々明白となり、重大となつて來たことを吾々は深く信ずるものである。帝國主義を中國から追ひ出す爲にそしてすべての地主階級の土地を沒收する爲には、徹底的に土地革命を實行し、帝國主義と國民黨軍閥が盤據して惡を爲す制度を根本的に推翻する爲には、中國プロレタリアが最大級の決心を以て革命を指導し、眼前に展開するあらゆる革命的實際任務を解決せねばならぬものであることを吾々は愈々確かめ得た。更に換言すれば、安徽、湖北、江西及び福建の西部、廣西の西部等の大ソウエート區域の存在は幾億萬の革命農民に圍繞されて、正に疾風迅雷的に豪紳地主を打倒し、國民黨の反動統治を推翻し、ソウエートと勞農

自身の武装とを建設したことの證明である。赤軍空前の發展は朱毛の第四軍を始めとして最近湖北の大冶に於て成立した第八軍まで、その集團的武力はすでに合計五萬人以上に及び、廣東、廣西、福建、江西、湖南、湖北、河南の諸省を游撃し、廣大なる勞農大衆の歡迎を受けてゐる。北方の農民運動に就いては、滿洲農民の自然發生的反地主闘争が日々にその革命的意義を深刻化し、鮮明なる反抗旗幟を掲げて一致して土地革命の偉大なる目標に向つて進んでゐる。斯の如き革命復興に際し、反動軍隊の廣大なる兵士大衆も亦幾萬の革命的農民大衆を獲得して、強固なる勞農聯盟を樹立し、プロレタリアの中心的指導によりて、敵を消滅せしめ、勞農の民主專制を建設したのである。

吾が共產黨はプロレタリア政黨として、此の階級闘争の重大時機に際し、中國勞農階級の徹底的解放を目指して奮闘する爲には、そしてプロレタリア革命の最後の勝利を完成する爲には、中國工人階級は必ず、ソウエート及び游撃區域の偉大なる闘争を計画的に指導しなければならぬ。その故に本黨は特に總工會に對して、本年五月三十日に全國ソウエート區域代表大會を召集し、全國の勞農兵各代表を一堂に會し、目下の革命に於ける重要問題を討議せんことを提議するものである。その此の會議の主要なる任務は、更に鞏固なる農民革命聯盟を組成し、プロレタリアの思想と行動によつて計画的に階級闘争の指導を爲しこれを勝利へと導くことである。そして農村に於ける雇傭農の階級的組織を強大ならしめては、土地革命過程に於ける地主反對の中心的營壘を建設し、勞農の武装を擴大し、ソウエート政權の樹立を普遍化せねばならぬ。而て斯の如き重要問題に對する解答は、皆中國革命を完成する重要保證たるものである。總工會は中國工人階級の組織指導機關であり、又中國革命を指導し、階級闘争を推動

する柱石であり、且つ中國革命運動史上に於て最も光榮ある歴史を有するものである。従つてこの革命的形勢が緊張したる時に際しては、本黨の提議に賛成して發企人たらんことを希望するものである。

——一九三〇（十九年）二月十七日——

□、全國總工會よりの通信

全國ソウエート區域代表大會を召集し、革命的發展の重大なる形勢に對する幾多の重要問題を討議し、革命的高潮の到來を更に迅速ならしめ中國革命の完全なる勝利を保障せんとする諸君の提議に對しては、吾々も亦完全にその重要性を認め、緊張せる目下の革命的形勢に際しては吾々も努力工作せんとするものである。

中國共產黨はプロレタリアの先鋒であり、中國勞農階級を指導してあらゆる反動勢力に對し奮闘し、特に、一九二七年國民黨が反動化してより後は、斷然ソウエート革命のスローガンを提示して、勞農の全國的闘争を指導し、中國革命をして更に擴大強化せしめ、此の二ヶ年間は白色テロルの下に在りながら困難なる闘争を繼續し、その結果中國革命はすでに復興し來り、工人の全國的闘争が日々に發展し尖鋭化し、農民闘争も亦強化してソウエート區域は各省に蔓延し、赤軍の擴大は又勞農の革命的勢力として反動統治を動搖崩潰の途へ押し込めつゝある。この故に、勞農勢力の深化と發展、ソウエート區域の擴大、武装暴動準備の強化等によつて全國的武装暴動を促進し、ソウエート政權を強固ならしむることは、實に現下の主要任務でなければならぬ。かゝる時期に於て全國ソウエート區域代表大會を召集することは、中國共產黨の方針の正確さを證明し、常に大衆の面前に立ちてあらゆる革命闘争を

指導してゐることを證明するものである。此のソウエート區域代表大會の成功は、即ち中國ソウエート革命成功の信號であり、中國革命が更に迅速なる發展を爲して武裝的暴動となり、反動的統治を推翻し、ソウエート即ち勞農兵代表會議を樹立するものであることを、吾々は信ずるものである。總工會は諸君の意見に對して完全に賛同し、ソウエート代表大會召集の共同發企者たるを承認するものであるが、それと同時に全國の工人大衆に通告を發して此の大會の意義を宣傳し彼等をして一致して此の偉大なる意義を有するソウエート代表大會を擁護せしめ、闘争を強化して最後の勝利を獲得せんとするものである。

(中華全國總工會執行委員會二月十八日)

ハ、全國ソウエート區域代表大會召集に關する中國共產黨、中華全國總工會の共同宣言

全國各ソウエート區域の勞働大衆諸君！

全國の赤軍及び游撃隊の將領兵士諸君！

赤色工會、農會、濟難會(モツブル)反帝同盟及び一切の革命團體並びに全國の勞農大衆諸君！

過去三年間、豪紳、資産階級、國民黨の反動的統治下に於て、全國の革命的大衆は極めて嚴烈なる白色テロルの壓迫、斷えざる軍閥混戦の苦痛及び帝國主義、資本家、豪紳、地主等の兇惡なる攻勢に遭遇して來た。これは一種の政治經濟の客觀的危機であつて、それは大衆闘争を逐次擴大せしむるものである。過去三年間の全國的革命闘争が死刑執行者國民黨の爲に消滅させられなかつたばかりでなく、反つて顯然たる發展形勢を見つゝあつたのである。

北京に於ける人力車夫の市街戦、唐山に於ける鑛夫闘争の發展、哈爾濱に於ける勞農大衆のソウエート聯邦擁護の示威運動、青島紡績工人の日本帝國主義及び國民黨に對する武裝衝突、武漢に於ける製糸及び石炭工人の闘争の擴大、四川省に於ける鹽井工人二十萬人の闘争、景德鎮の磁器工人十萬餘の罷工、香港、廣東に於ける海員の闘争、福建工人のソウエート聯邦擁護及び十月革命記念の示威、上海工人の不斷の經濟的並びに政治的闘争、武裝衝突、電燈工場、綿織、紡績、電車、自動車の不斷の罷工、黄色幹部の全國的破産、赤色工會の發展等々は最近半年來の事實であつて、それは都市に於けるプロレタリアがすでに國民黨の殘酷なる白色テロルの壓迫を衝き破り、階級闘争は更に尖鋭化しつゝあるを明かに語るものである。斯の如きが故に、兵士大衆の全國的革命化、兵變の漸増、ソウエート及び赤軍游撃隊に投ずるものの増加が非常に偉大なる革命的意義を有つてゐるのである。斯の如きが故に又、ソウエート區域の全國的擴大、赤軍、游撃隊の發展、土地革命の深刻化、劇烈なる農民の武裝闘争が、明白に革命的高潮の到來を示す主要象徴たるものである。

即ち、今や全國の革命的闘争は、反動的統治に對してすでに積極的攻勢に轉じてゐるのだ。革命的大衆たるものは、應に全國的範圍の革命的高潮に對して積極的準備を爲すべく、そしてすべての政策を擴大進行せしむる準備を爲さねばならぬ。革命的形勢の發展に直面して一個重大なる任務は、全國的革命闘争をして適當に配合せしむることであつて、特に都市に於ける闘争と農村闘争との配合が必要である。赤軍、游撃隊及びソウエート區域の發展はすでに長江流域及珠江流域には普遍した。北方農民の武裝闘争も亦同様に漸次擴大發展過程に在る。故に闘争配合